

平成 24 年度

自己点検・評価報告書

埼玉純真短期大学

平成 24 年度
自己点検・評価報告書

学校法人純真学園
埼玉純真短期大学

「平成 24 年度 自己点検・評価 報告書」の刊行に寄せて

平成 24 年度は埼玉純真短期大学にとりまして、さらなる前進を予感させる記念すべき年でした。

まずは、一般財団法人短期大学基準協会による 2 度目となる認証評価での適格認定、次に文部科学省への定員増申請、そして平成 25 年度入学予定者の大幅増です。「財団法人短期大学基準協会」による 2 度目となる認証評価での適格認定は、前回の認証評価から 3 年間、学園訓「気品・知性・奉仕」の下での本学の教育運営が適正に実現されてきたことを意味します。このことが、本学の全教職員に大きな自信として、さらなる前進のための力強い原動力になったと考えております。

また、今年度は本学が学園訓の具現化のひとつとして地域に根ざしたコミュニティカレッジを目指して活動を進めてきたことが、地域社会に根付き始めていることを実感した 1 年であったといえます。

平成 19 年度の文部科学省の委託事業『(軽度) 発達障害』幼児童に対する特別支援力養成のための教育職員再教育プログラム』を引き継ぐ形で、平成 22 年度には教育関係者を対象とした「発達障害児童・生徒の理解」のための講演会を羽生・行田・加須・熊谷市の教育委員会と連携して開催し、平成 23 年度からはさらに発展させた形で地域の教育関係者などを対象に「特別支援教育について考える」研究セミナーとして開催しています。この研究セミナーは、地域の教育振興を図り、特別支援教育や発達障害児教育の充実につながるものとして、先端研究者と地域研究者や教育者とを結び付け、実践発表と指導方法の学び場としての地位を確立し始めました。これは埼玉県をはじめ、羽生・加須・行田の各市教育委員会の後援と「埼玉県まなびいプロジェクト協賛事業」並びに「羽生市学びあい夢プロジェクト事業」の指定も受けております。

また、平成 23 年度より埼玉県・羽生市との連携のもと、埼玉県の短期大学では唯一本学が開催している「子ども大学はにゅう」や、市民公開講座の充実、「ゆるきゃらサミット」等の教職員と学生のボランティア活動、さらには教員の教育機関はじめ地域への講演・指導などで地域貢献への努力を重ねております。

このような大学本来の学生教育の充実と社会教育活動により、数年前の風評を吹き飛ばし、現在のこのような状況に立ち戻ることができました。これは羽生市教育長・近隣の高等学校長、市内の教育・保育・福祉関係者および保護者代表と同窓会会長で組織された「外部評価委員会」により、本学の教育・研究と運営全般に亘るご意見を頂戴したことを教職員が真摯に受け止め、一致協力して教育・研究活動に積極的に反映させた改善・変革に努めてきた結果に他なりません。このように教職員と共に学生そして地域社会の教育に携わることを誇りに感じています。

これからも幼児教育に特化した女子短期大学としての特色を活かし、「卒業生や在学生、地域の方々が誇りに思える埼玉純真短期大学」を目指して、大学としてのプライドを保ち、本来あるべき地道な方法で教育の充実と発展に取り組んで参りたいと思います。このことが、学園創設者福田昌子博士の建学の精神「気品・知性・奉仕」のもとに開学した本学本来の姿勢を教職員自らが具体化していくものだと考えております。

報告書は、建学の精神と教育理念や目標に照らし合わせて、自らの位置を再確認し、将来の方向を明確にするために、全教職員がそれぞれに分担して作成しました。

本報告書作成にご協力頂いた本学全教職員に心より感謝いたします。

いよいよ来年、平成 25 年は本学創立 30 周年の記念の年となります。

平成 24 年度自己点検・評価報告書 目次

「平成 24 年度 自己点検・評価報告書」の刊行に寄せて

I 本学の概要

- 1 沿革と建学の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - (1) 沿革
 - ① 純真学園の設立と沿革 ② 埼玉純真短期大学の創立と沿革
 - (2) 建学の理念
 - (3) 成果と課題（点検・評価）
- 2 教育方針と教育の特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - (1) 本学の教育方針
 - (2) こども学科
 - (3) 成果と課題（点検・評価）
- 3 組織と構成・・ 8
 - (1) 運営組織
 - ① 運営組織 ② 成果と課題（点検・評価）
 - (2) 学務分掌
 - ① 専任教員とその職位 ② 委員会の委員長 ③ 委員会の委員 ④ クラス担任 ⑤ 事務職員
 - ⑥ 図書館職員 ⑦ 成果と課題（点検・評価）
 - (3) 入学定員及び学生数
- 4 平成 24 年度学事日程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
 - (1) 学事日程
 - (2) 成果と課題（点検・評価）

II 入試と広報

- 1 入試・・ 15
 - (1) 組織と運営
 - ① 入試に関する組織 ② 入試業務
 - (2) 平成 24 年度入試の特徴
 - ① 入試の改修点 ② 入試の特徴
 - (3) 平成 24 年度入試結果
 - (4) 募集要項
 - ① 募集要項の形式 ② 選考方法 ③ 入試日程
 - (5) 成果と課題（点検・評価）
- 2 広報・・ 20
 - (1) 組織と運営

- (2) オープンキャンパス
 - ① 日程と内容 ② 参加状況 ③ 成果と課題 (点検・評価)
- (3) その他の広報活動
 - ① 高等学校への訪問 ② ホームページ ③ Webサイトへの掲載
 - ④ ガイダンス・模擬授業・キャンパス見学会 ⑤ 広報誌作成 ⑥ プレカレッジ
- (4) 成果と課題 (点検・評価)

Ⅲ 教育活動

1	教育課程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	28
	(1) 教育課程の編成	
	(2) 成果と課題 (点検・評価)	
2	時間割編成と履修指導・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	29
	(1) 時間割編成 ① 時間割編成 ② 成果と課題 (点検・評価)	
	(2) 履修指導 ① 履修指導 ② 成果と課題 (点検・評価)	
3	授業実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	30
	(1) 授業科目の履修者	
	① 前期 ② 後期 ③ 成果と課題 (点検・評価)	
	(2) 授業の開講・休講及び補講の状況	
	① 授業時数 ② 休講の状況 ③ 補講の状況 ④ 成果と課題 (点検・評価)	
	(3) 授業履修者の問題状況	
	① 授業欠席調査該当者数 ② 受験無資格者調査該当者数 ③ 再試験該当者数 ④ 追試験該当者数	
	⑤ 成果と課題 (点検・評価)	
	(4) 免許状・資格取得状況	
	① 免許状・資格課程履修者数 ② 免許状・資格課程の履修組み合わせ別履修者数	
	③ 成果と課題 (点検・評価)	
	(5) 教育実習・保育実習・介護等体験	
	① 実習等の位置づけと目標 ② 実習等の実施状況 ③ 成果と課題 (点検・評価)	
	(6) 授業内容と教育方法の工夫・研究	
	① こども学科 ② 成果と課題 (点検・評価)	
	(7) 「学生による授業評価アンケート」の実施とその集計結果	
	① 実施経緯 ② 集計結果 ③ 成果と課題 (点検・評価)	

Ⅳ 学生生活

1	学生の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	46
	(1) 入学・卒業・留年・退学・休学の状況	
	① 平成 23 年度入学生 ② 平成 24 年度入学生	

(2)	学生の動向	
(3)	成果と課題（点検・評価）	
2	クラス担任制	47
(1)	クラス担任性の現状	
(2)	成果と課題（点検・評価）	
3	学外における研修	48
(1)	実施概要	
(2)	成果と課題（点検・評価）	
4	課外活動	51
(1)	学生会	
(2)	学生会主催行事	
①	学生会オリエンテーション	
②	純真祭	
③	スポーツ大会	
(3)	クラブ活動	
(4)	ボランティア活動	
(5)	研修活動	
①	リーダー研修	
(6)	成果と課題（点検・評価）	
5	学生生活への配慮・支援	55
(1)	奨学金	
(2)	健康管理	
①	保健室	
②	定期健康診断	
(3)	保険制度	
(4)	学生専用アパート	
(5)	通学の状況	
(6)	学生相談室	
(7)	成果と課題（点検・評価）	

V 就職と進学

1	進路支援	59
(1)	就職指導	
①	進路支援委員会の基本方針	
②	平成 24 年度年間就職指導計画	
③	就職指導内容	
④	就職関連諸会合への参加	
(2)	平成 24 年度就職状況	
①	就職決定状況	
②	就職先等内訳及び内定生一覧	
(3)	成果と課題（点検・評価）	
2	進学	62
(1)	編入学	
(2)	その他の進学	

(3) 成果と課題 (点検・評価)	
3 卒業生への支援	62

VI 教員の研究活動及び社会的活動

1 研究活動	64
(1) 研究活動の概要	
(2) 専任教員の研究業績	
(3) 専任教員の所属学会	
2 社会的活動	67
(1) 講師・助言者等の実施状況	
(2) 専任教員の諸団体への所属状況	
(3) 他大学等の非常勤講師等の兼務状況	
3 成果と課題 (点検・評価)	72

VII 地域貢献活動

1 活動の概要	74
2 成果と課題 (点検・評価)	75

VIII 図書館

1 図書館の基本方針	76
2 組織と運営	76
3 施設・設備及び情報サービス	77
(1) 施設・設備	
(2) 情報サービス	
① レファレンス・サービス ② 館外貸出とコピーサービス ③ 視聴覚資料 ④ 情報検索システムの利用	
4 所蔵点数と年間受人状況	78
(1) 所蔵点数	
① 蔵書数 ② 学術雑誌所蔵数 ③ 視聴覚資料所蔵点数 ④ 除籍数	
(2) 年間受人状況	
5 利用状況	80
(1) 入館者数	
(2) 館外貸出	
(3) その他の業務	
① 参考業務 ② 文献複写 ③ 相互利用	
6 研究紀要	81
(1) 埼玉純真短期大学研究論文集	
① 第6号	

7	成果と課題（点検・評価）	81
---	--------------	----

IX 校地・施設・設備

1	校地及び校舎面積	83
	（1）概要	
	（2）成果と課題（点検・評価）	
2	施設及び設備	84
	（1）概要	
	（2）保守・管理体制	
	（3）成果と課題（点検・評価）	
3	学内見取図	85

X 教授会・委員会等

1	教授会	89
	（1）教授会	
	① 開催日程及び主な審議事項等 ② 成果と課題（点検・評価）	
	（2）人事	
	① 異動 ② 採用 ③ 退職 ④ 成果と課題（点検・評価）	
2	委員会	92
	（1）教務委員会	
	① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）	
	（2）学生委員会	
	① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）	
	（3）図書館情報委員会	
	① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）	
	（4）実習指導委員会	
	① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）	
	（5）進路支援委員会	
	① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）	
	（6）人試広報委員会	
	① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）	
	（7）FD・SD推進委員会	
	① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）	

XI 事務組織

1	業務分掌	105
	（1）事務組織の業務分掌	

(2) 事務分掌	
2 成果と課題（点検・評価）	107

XII 財政

1 財政の状況	108
(1) 消費収支決算の状況	
① 消費収入 ② 消費支出	
(2) 貸借対照表の現状	
(3) 財務比率	
① 固定比率（固定資産／自己資金×100） ② 固定長期適合率＜固定資産／（自己資金＋固定負債）×100＞	
③ 流動比率（流動資産／流動負債×100） ④ 人件費比率（人件費／総属収入×100）	
⑤ 消費支出比率（消費支出／総属収入） ⑥ 消費収支比率（消費支出／消費収入）	
2 成果と課題（点検・評価）	118

XIII 同窓会（秋桜会）

1 活動状況	119
(1) 役員組織	
(2) 活動状況	
2 成果と課題（点検・評価）	120

I 本学の概要

1 沿革と建学の理念

(1) 沿革

① 純真学園の設立と沿革

学校法人純真学園は（以下、「本学園」という。）、日本の戦後初期に民主的諸改革が進行する社会状況の中、医学博士にして社会活動家であった福田昌子女史によって、昭和31年（1956年）2月に学校法人純真女子学園として福岡市に設立された。

学園創設者福田昌子女史は、26歳という史上最年少の若さで医学博士の学位を取得し、医療に従事していた昭和22年、日本国憲法下で行われた初の衆議院議員選挙で初当選し、議員立法優生保護法を自ら執筆するなどをはじめ、女性の社会的地位向上のために国政の場で精力的に活動していた。

ちょうどこの時期、戦後の混乱の中、教育基本法・学校教育法が制定され、6・3・3・4制の男女共学がスタートするなど、民主主義国家の建設とそれに対応した教育制度の改革が進み、日本の社会は大きな変革の時期を迎えていた。

福田昌子女史は、戦後復興が進み大きく変化しつつある日本社会の中で、立ち遅れていた女子高等教育の必要性和重要性を強く感じ、「真の女子教育の実現、『気品・知性・奉仕』の精神を備えた女子の育成こそが、新しい日本の基盤に成り得るという信念」の下、昭和31年4月に「“純真な女性の姿”という意味の『純真』を校名に付し」純真女子高等学校を開校し、女性の社会的地位の向上のため教育に未来を託して、教養人として職業を持ち、経済的にも一人の人間として自立できる女性の育成を目指して、本学園における本格的な女子教育が開始された。

その後、昭和32年4月に純真女子短期大学（国文科を設置）、昭和42年4月に東和大学（工業化学科・電気工学科、平成23年10月閉学）、昭和58年4月には埼玉純真女子短期大学（英語学科・児童教育学科・幼児教育学科第二部）を開学し、さらに平成23年4月純真学園大学（看護学科・放射線技術科学科・検査科学科・医療工学科）開学し、現在に至っている。

(表1)

学校法人純真学園の沿革	
年 月	沿 革
昭和31年2月	福田昌子、学園用地その他私財を寄付し、学校法人純真女子学園を設立
昭和31年4月	純真女子高等学校を開校

I 本学の概要

昭和32年3月	学校法人名を福田学園に改称
昭和32年4月	純真女子短期大学（国文科を設置）開学，福田昌子，初代学長就任
昭和41年4月	純真女子短期大学附属じゅんしん幼稚園開園
昭和42年4月	東和大学（工業化学科・電気工学科）開学，福田昌子，初代学長就任
昭和43年4月	純真女子高等学校を東和大学付属東和高等学校と改称
昭和51年1月	福田敏南，学校法人福田学園理事長に就任
昭和54年4月	東和大学付属昌平高等学校開校
昭和58年4月	埼玉純真女子短期大学（英語学科・児童教育学科・幼児教育学科第二部）開学 福田敏南，初代学長就任
平成12年2月	福田庸之助，学校法人福田学園理事長に就任
平成19年4月	学校法人名を純真学園と改称
平成19年4月	純真女子短期大学が男女共学化，純真短期大学と改称
平成19年4月	埼玉純真女子短期大学を埼玉純真短期大学と改称
平成19年4月	東和大学付属東和高等学校を純真高等学校と改称
平成19年4月	東和大学付属昌平高等学校を学校法人昌平学園へ移管
平成22年3月	純真短期大学，第三者評価適格認定
平成22年3月	埼玉純真短期大学，第三者評価適格認定
平成23年4月	純真学園大学開学
平成23年10月	東和大学閉学

② 埼玉純真短期大学の創立と沿革

本学は、昭和58年4月、羽生市の要請を受け、英語学科・児童教育学科・幼児教育学科第二部の3学科をもって現在の地に開学した。

福田昌子女史が昭和31年に創立した純真女子学園の「学園訓」（建学の精神）の理念に基づく女子短期大学が埼玉県に設立されたものであるという意味を込めて、本学は「埼玉純真女子短期大学」と命名された。

開設時の学科・専攻は、英語学科（入学定員100名）・児童教育学科（初等教育学専攻：同50名・幼児教育学専攻：同50名）・幼児教育学科第二部（同50名）の3学科（うち1学科は第二部3年課程）2専攻であった。第1期入学生は、英語学科62名・児童教育学科初等教育学専攻45名・同幼児教育学専攻58名・幼児教育学科第二部42名の計207名であった。

その後、社会情勢の変化による学生数の減少傾向が起り、これをくい止めるために学科名称やコース名称の変更、募集定員の見直しなどを行ったものの、平成18年の英語コミュニケーション学科、平成19年の乳幼児保育学科第二部と相次いで募集停止し、「こども学科」単科による学校運営を余儀なくされた。

しかし、このことが幸いし「保育・幼児教育に特化した女子短期大学」を志向し、文部科学省の委託事業や教員免許状更新講習など、幼児教育の特色を活かした取り組みが

功を奏して、「こども学科」の入学者も年々増加傾向を示し、平成23年度入学者は定員を確保できるまでに回復した。平成25年度の入学予定者は定員を上回る160名となり、平成25年3月には150名を定員とする、定員増の申請を行わざるを得なくなった。これらの復活に向けての取り組みは、平成21年度及び平成24年度に実施された2度の短期大学基準協会による「認証評価」の实地調査においても高く評価された。

本学は、開学以来地域社会に根ざした女性のための高等教育機関として、専門知識と技術を兼ね備えた職業人を養成するとともに、社会奉仕と地域貢献に大きな使命感を抱いて努力してきた。この一例として、教育研究活動などにおいては、「羽生市学びあい夢プロジェクト」、「研究セミナー」や「市民公開講座」をはじめとして、羽生市や羽生市教育委員会との連携や埼玉県東部地区の教育関係者との交流により、地域の大学として広く認識されるまでに至っている。

(表2)

埼玉純真短期大学の沿革	
年 月	沿 革
昭和58年4月	埼玉純真女子短期大学開学（英語学科・児童教育学科・幼児教育学科第二部） 福田敏南，初代学長就任
平成12年2月	福田順忠，第2代学長就任
平成12年12月	中澤 鐵，第3代学長就任
平成16年4月	学科及び専攻課程の名称を変更 ・英語学科→英語コミュニケーション学科・児童教育学科→こども学科 ・幼児教育学科第二部→乳幼児保育学科第二部 ・初等教育学専攻→こども学専攻，・幼児教育学専攻→乳幼児保育専攻
平成17年4月	入学定員を変更し，こども学科の専攻（こども学専攻，乳幼児保育専攻）を廃止 ・英語コミュニケーション学科:100人→50人・こども学科:100人→150人
平成18年4月	英語コミュニケーション学科募集停止
平成19年4月	埼玉純真短期大学に校名変更し，乳幼児保育学科第二部募集停止 藤田利久，第4代学長就任
平成19年8月	平成19年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」採択
平成20年3月	英語コミュニケーション学科廃止
平成20年8月	「教員免許更新制に伴う予備講習」実施
平成22年3月	第三者評価適格認定（財団法人短期大学基準協会）
平成22年3月	乳幼児保育学科第二部廃止
平成23年4月	「こども学科」入学定員を150名から120名へ変更

(2) 建学の理念

本学の「学則」には、本学設立の目的を次のように規定している。

○ 埼玉純真短期大学学則より抜粋

第1章 総則

(目的及び使命)

第1条 この短期大学は教育基本法に則り、学校教育法に定める短期大学として、学術の理論及び応用を研究教授すると共に、純真学園建学の精神に基づき、健康にして良識ある人格高き社会の指導的人物を養成することを目的とする。

学則第1条の「目的及び使命」の「学術の理論及び応用を研究教授する」は「学校教育法」第83条に、そして「健康にして良識ある人格高き社会の指導的人物を養成する」は、同第108条の「大学は、第83条第1項に規定する目的に代えて、深く専門の学芸を教授研究し、職業又は實際生活に必要な能力を育成することを主な目的とすることができる。」に対応しており、本学が職業人養成大学として教育を担うことを明らかにしている。

さらに、「純真学園建学の精神に基づき（以下略）」では、本学が、学園訓「気品」・「知性」・「奉仕」を中核とする人間教育を継承し、良識ある社会人の育成を通して社会貢献を目指していることを含意している。

このように、本学設立の目的は、専門的知識や技術を持って社会に貢献できる「良き職業人」・「良き社会人」の基礎となる、「純真」なる心で人々に接する「良き人間」の育成であり、羽生市を中心として広く地域社会に貢献できる女子高等教育機関としての使命を果たそうとするものである。

(3) 成果と課題（点検・評価）

時代の追い風の中で順調に学生確保と教育が進み、短期大学運営には教職員も状況変化に特段の危機意識を持つことのないままに運営がなされてきた。つまり、時代の要請の中で、本学の知的財産をどのように活かし、発展させていくべきか、養成する学生像とはどのようなものかなどについて、綿密な点検と評価、そして実践が必ずしも徹底していたとは言えなかった。これを反省し、平成19年度から点検・評価を基に本学の運営の見直しと教職員の意識改革を行った。

平成24年度も時代の変化に迅速かつ適切に対応するため、建学の精神に則って幼児教育者養成を使命とし、教育内容・教育方法など含む大学としての在り方やマナー・授業方法・研究活動などを含む教職員のあるべき姿を常に熟慮しながら、より実践的な教育が出来るように心掛けた。

さらに今年度は全教職員が復活を導く強い意識と自信、意欲の高まりをもって取り組んだ年といえる。その結果、入学者数が23年度は127名、24年度入学予定者は120名と募集定員を満了し、24年度には翌25年度入学予定者が160名を越す結果となった。これは短大基準協会による本学にとって2回目となる「第三者評価」の応募申請に向けて、教職

員が意識を高めて一致協力しながら準備を行ったことや、昨年度に引き続いて本学独自の継続事業となる「埼玉短期大学研究セミナー」を開催したことが、大きな成果となり自信となっている。今後も現状に甘んじることなく、「保育・教育者養成機関」として、教職員が丸となって教育と研究の更なる高みを求め、学園訓・教育目標をより具体化させた学生教育や地域貢献活動をさらに充実させていくことが必要であろう。

課題としては、学園訓に則った大学改革および教育改革に取り組んでいるものの、教職員全ての意識に共通して浸透しているとは言い難く、おのずと個々の理解や取組の姿勢には違いが見られる。今後はこの違いを解消するための学内運営を進めなければならない。

学外に対しては、公開講座の実施や地域教育機関への協力などを行っているが、さらに質的・量的に「学びの機会と場」を提供する地域密着型の大学としての役目を果たすなかで、本学の建学の精神の具体化をどこまで進められるのか、ということが大きな課題であろう。

2 教育方針と教育の特徴

(1) 本学の教育方針

本学の「教育方針」は「学園訓」と共に「学生便覧」の冒頭に掲げられている。

○ 本学の教育方針

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">(1) 相互に相協同しつつ軽佻浮薄な態度を慎み、優雅で落ち着いた言動を心掛けねばならない。気品を支えるものは洗練された情操と知性である。(2) 現実に即応し、正しい判断を下すことの出来るのは広い視野と高い知性にほかならない。従って知識を豊かにし、真理の追求に努力しなければならない。(3) 常に研鑽途にある事を自覚し、謙虚に自己を見つめ自己満足に陥ることなく小我を捨て、大我に徹する精神を養うことを心掛けなければならない。奉仕の精神は小我を捨てる事によって始まる。 |
|--|

これは、「学園訓」の「気品」・「知性」・「奉仕」のそれぞれの意味を具体化したものであり、本学園の教育の基本方針を明示したものである。

「気品」の基盤は「洗練された情操と知性」にあり、「知性」は豊かな「知識」と「真理の追求」によって磨かれること、「奉仕の精神」は「小我を捨て、大我に徹する精神を養うこと」によってもたらされることを述べて、本学における学問と知識の探求、人間形成とが表裏一体の関係にあることを説いている。

つまり、「気品」・「知性」・「奉仕」の中心に位置する「純真で豊かな」人間性を核として、人間性を高める深い教養、現実に即応した専門的領域の知識・技能を修得し、職業や實際生活に活かしていくことのできる能力を身に付けることが、本学の教育目標と言える。

これを具現化するために、次の3点を養成目標として、教育活動に取り組んでいる。

1. 「気品」：人間としての豊かな感性や社会的文化的常識（マナーやエチケットなど）を備えた人間性豊かな「良き人間」の養成
2. 「知性」：知識の習得とそれらを総合しての考える力（課題発見と分析・解決能力など）と積極的な行動力をもった「良き職業人」の養成
3. 「奉仕」：「気品」と「知性」をもって、利害を気にすることなく、他者のために積極的に行動できる「良き社会人（市民）」の養成

本学では、この「学園訓」と「教育方針」を全教職員が理解し教育活動に臨むように、学内に「学園訓」を掲示すると共に、学長以下教職員それぞれが入学式や卒業式、入学・進級オリエンテーション、そして教職員会議など、折に触れてその真意を理解し、行動できるように心掛けている。

また入学予定者にはプレカレッジ（入学前教育）でも「学長講話」などで学園訓を詳しく伝え、在学生には「日本語表現」の授業の中で個々人の建学の精神の解釈を求めている。入学希望者とその保護者を含む外部に対しては、本学の大学案内パンフレット、ホームページなどで「学園訓」と本学の「教育方針」を提示し、理解されるよう努力している。

（2） こども学科

こども学科では、小学校教諭と幼稚園教諭を目指す「こども学コース」と、幼稚園教諭と保育士を目指す「乳幼児保育コース」を設け、学生それぞれの目標にあわせて専門性を追求できるようにしている。しかし、その教育方針は「理論と実践を総合的にバランス良く修得し、常に考えながら行動できる保育・教育の専門職を養成する」ことである。

前者の「理論と実践を総合的にバランスよく修得」するためには、小学校と幼稚園の連携や初等教育の一貫性を考慮して、小学校と幼稚園における教育・保育を総合的に理解した教員として現場に立てるよう、教育理論と実践をバランス良く習得可能なカリキュラム編成などを工夫している。

後者の「常に考えながら行動できる保育・教育の専門職を養成する」ためには、子どもの発達理解と発達段階を踏まえた保育や援助方法などの理論と実践を身につけた幼児教育・保育の専門職の養成を目指した科目設置をしている。

この目的の実現のため、教室での授業はもとより、現場を理解し、教科理解がより進むように保育・教育現場での経験を重視している。このため実習指導にも重点を置き、2年間を通して実習の事前・事後指導を行い、実習をより実り多いものできるように配慮している。このように実習の事前・事後指導などにおいても、理論と実践を統合できるようにきめ細かく丁寧に行っているところも本学科の特色のひとつである。

さらに、ボランティア参加など自主的な活動の場を積極的に提供することで、将来、保育や教育の専門職者となる学生が自ら課題を発見し、実践の中でそれを明確にしながらか解決し、その成果をもとにその後さらに発展させていくような態度を育てる指導を心掛けて

いる。

また、継続的な学習習慣を身に付け、絵本や幼児向け図書の積極的活用や保育・教育の場に活かす資料検索などの基礎知識と技術を学べるよう、司書教諭資格が取得できる科目を設けている。

保育・教育の現場ではたとえ新人であっても保育者・教師としての即戦力を求められている。そのため「こども学コース」では、少人数クラスで模擬授業・授業研究・学校見学など実践的な授業方法と内容を取り入れるとともに、「乳幼児保育コース」でも現場の実践知を学び、理解を深められるように、外部から現場の保育者や教育者を招くなどによって授業を展開している。

さらに深く学んでみたいと希望する学生には4年制大学への編入指導も行っている。

(3) 成果と課題（点検・評価）

本学は「こども学科」単科とすることで、目的を同じくする学生を、全教職員が学園訓と教育方針に基づいた共通した考えや方針で、教育することができてきたと考えている。

授業実施においても養成すべき学生像について、教員間で共通理解が出来ており、教員間の授業協力や質の均一性が保たれている。学生の希望職種がほぼ共通するため、実習での指導も行いやすく特別な問題が発生していないこと、また学生の希望にかなった就職が出来ていることなどから、全体的には順調に教育活動が行えていると言えよう。

一方、今後早急に対処と改善を必要とする問題もある。それは学生の基礎学力向上を図りながら同時に社会人・職業人としての基礎知識や意識を育てるような保育・教育の専門教育を行わなければならないことである。

この基礎学力不足や社会人・職業人としての基礎知識や意識に欠けることは、近年のどの大学でも問題となっていることであるが、そのことによって「こども学科」における専門的な授業が年々成立しがたい状況になっている。特に、社会人・職業人としての態度、適切な言葉遣いや対人関係を良好に保つためのスキルを身につけさせることも重要な課題として捉えなければならない。これは近年多くの大学でも大きな問題として顕在化しているように、友人関係や集団になじめないことなどが原因で授業に積極的に臨めない学生がいることとも関連している。

前者の基礎学力向上のためには、リメディアル教育の充実などで解決していくが、後者の態度や言葉遣い、対人関係のスキルを身に着けるためには、大学と家庭とが協力して解決していかなければならない課題である。本学の目的達成のためには、このどちらも解決しなければならないと考えている。課題が未解決の場合、その後の実習や資格取得、さらには就職活動や就職後の問題として発生し、学生自身が所期の目的を達成することが困難な状況を招く原因となる。このことを大学と学生の将来の問題として重大に受け止め、教職員全体の問題として解決していきたいと考えている。詳しくは学生指導の項目に述べるが、今後、全教職員が家庭との連絡を密にしながら、より真剣に取り組んでいかなければなら

ない問題であろう。

3 組織と構成

(1) 運営組織

① 運営組織

平成 24 年度の専任教員はつぎの表のとおりである。

○ 各学科の教員配置

こども学科	
藤田 利久・伊藤 道雄・牛込 彰彦・小澤 和恵・人江 良英(特)・安倍 大輔・稲垣 馨・	
関根 久美・高橋 努・細田 香織・安村 由希子・阿部 峰雄(特)・齋藤 史夫(特)・	
浅井 広(特)	以上14名(常勤専任教員) 内4名(特任教員)

教授会は、学則第 42 条に基づき、上記の中の専任教員をメンバーとして組織し、これに事務局長・各セクションの責任者(事務職員)も同席して、意見を述べるができるようにしている。これにより情報共有を図ることができ、教員と事務局職員の意思疎通と業務がスムーズに遂行できていると考える。

教授会にはそれぞれの案件を検討・処理する委員会を下記の表のとおり設けている。これらの委員会の委員配置については、すべての教員ができるかぎり均等に担当することを基本とした。これらの委員会には、原則として、学長と事務局長も出席するとしている。

この教授会の議題は事前にメールで教職員に配信し、事前に議題の理解と意見の準備が可能となるようにしている。

○ 委員会一覧

教務委員会、学生委員会、図書館情報委員会、進路支援委員会、入試広報委員会、実習指導委員会、FD&SD 委員会(自己点検・評価委員会を含む)

② 成果と課題(点検・評価)

教員組織については、「教員の職位と年齢のバランスを考えなければならない。同時に、教員数についても、科目に対する適正配置ができるように増員を考えていかなければならない」との考え方にに基づき教員の新規採用を実施した。このことにより、職位と年齢、そして科目担当のバランスもより適正に近づくものとなった。

教授会については、学長が議長となり、原則的に毎月 1 回(夏季休暇中 8 月は開催なし)開催された。さらに緊急に必要な場合には、臨時教授会を開催した。

教授会は各委員会より教授会に提出された議案について審議と報告を行ったが、事前に各委員会で検討されたものであり、ほぼ異議なく了承された。質問や意見を求められる場合もあったが、それらは確認するといった意味と内容であった。感情的な対立はなく、常

識ある大学人としての学生教育と研究に深く関わる議論も出始め、教授会も活性化してきたと思われる。

委員会は、昨年度同様、学生対応など突発的事項で日常的に繁忙を極める委員会と、比較的ルーティンワーク中心の委員会とに分かれた。すべての教員が3委員会程度の委員を兼務するため、個々の教員の業務は忙しいものとなった。各委員長は兼務の形を取らざるを得ない状況であったが、各委員会では委員長をリーダーとして、各委員がそれをサポートする形で、それらの業務を分担し、的確に対処していった。これは、多くの委員会が、定例以外に適宜臨時会議などを開催し、情報や意見交換を密に行った結果、円滑に運営されて十分に機能したと言える。

しかしあまりに日常処理業務が集中し、マニュアル作成や新規事業などの発展的な業務が予定どおりに進まない委員会や、日常的業務処理に留まり、積極的活動の見えなかった委員会があったことは、大学サービスの向上と大学発展を見据えた場合、次年度に向けての反省事項であろう。

(2) 学務分掌

① 専任教員とその職位

こども学科	
学 長	藤田 利久
教 授	伊藤 道雄・牛込 彰彦・小澤 和恵・入江 良央 (特任)
講 師	安倍 大輔・稲垣 馨・高橋 努・関根 久美・安村 由希子・細田 香織・阿部 峰雄 (特任)・ 齋藤 史夫 (特任)
助 教	浅井 広 (特任)

② 委員会の委員長

委員会名	委員長名
教務委員会	小澤 和恵
学生委員会	高橋 努
図書館情報委員会	牛込 彰彦
実習指導委員会	牛込 彰彦
進路支援委員会	安倍 大輔
人試広報委員会	小澤 和恵
FD&SD 委員会	安倍 大輔

③ 委員会の委員 (◎は委員長)

委員会名	教員名
------	-----

I 本学の概要

教務委員会	◎小澤 和恵・牛込 彰彦・高橋 努・安村 由希子・齋藤 史夫
学生委員会	◎高橋 努・伊藤 道雄・入江 良英・安倍 大輔・稲垣 馨・関根 久美・浅井 広
図書館情報委員会	◎牛込 彰彦・細田 香織・安村 由希子・浅井 広・阿部峰雄
進路支援委員会	◎安倍 大輔・伊藤 道雄・関根 久美・入江 良英
入試広報委員会	◎小澤 和恵・高橋 努・細田 香織・齋藤 史夫・浅井 広
実習指導委員会	◎牛込 彰彦・伊藤 道雄・稲垣 馨・関根 久美・高橋 努・細田 香織
FD&SD 委員会	◎安倍 大輔・稲垣 馨・齋藤 史夫

④ クラス担任 () 内は副担任

クラス		1年	2年
乳幼児保育コース	A組	安倍 大輔	関根 久美(小澤 和恵)
	B組	安村 由希子	伊藤 道雄(稲垣 馨)
こども学コース	C組	小澤 和恵	高橋 努(齋藤 史夫)
	D組	牛込 彰彦	細田 香織(浅井 広)

⑤ 事務職員

本学の事務職員は、事務局長以下、専任職員 11 名で、庶務・教務・学生・進路支援・入試広報・実習指導をそれぞれに担当した。

係名	氏名
事務局長	人山 富子
シニアアドバイザー(入試・進路・地域連携)	佐藤 猛
庶務・経理担当	大澤 尚子
入試広報係	田中 淳一・内田 和泉
教務係	矢内 美優・片山 美芽
学生係	奥貫 慶一郎・相馬 萌
進路支援係	奥貫 慶一郎・相馬 萌
実習係	松原みゆき・林 真麻

⑥ 図書館職員

本学の図書館職員は、平成 23 年度に非常勤司書を採用し 2 名体制での運営を継続。

図書館司書(係長)	中村 周
図書館司書(非常勤)	宮本 明子

⑦ 成果と課題(点検・評価)

平成 24 年度はここ 3、4 年の間で最も教職員の入れ替えが少ない年であった。少ない教

職員がそれぞれの職務の責任者として担当している関係上、多少の戸惑いは見られたが、学生の教育や研究活動を日常的に支援・推進する委員会やクラス担任、事務組織は順調に運営されたと思われる。

委員会は前年度の教務委員会・学生委員会・図書館情報委員会・進路支援委員会・実習指導委員会・入試広報委員会に加えて、第三者評価の準備のため、FD&SD委員会（自己点検・評価委員会を含む）の充実を図った。事務局では、各セクションに2名ずつ職員を配置し、十二分とは言えないまでも、学生サービスにおいては、特別大きな支障をきたすことにはならなかった。事務職員以外では、年度初めからカフェテリアとして学食を直営化し、学食業務関係者を学食職員として引き継ぎ、充実を図った。

教員は出勤日が週4日（他研究日1日）であるため、担当授業コマ数を8コマ程度としたため、委員会や教育活動、学生指導にあたる傍ら、個人の研究活動にもある程度の時間を確保できた。

各委員会の担当教職員は組織の一員として、責任感を持って自己の職務を遂行する積極的な姿勢が見られ、さらに、公開講座や近隣の学校をはじめ、教育・保育諸機関の養成に応じて地域活動や援助を積極的に行うなど、新規事業への取り組みがあったことは評価できる。

しかし、個々の教職員の慣例的な業務スタイルや考え方の違いが取り組み姿勢や業務量に影響を及ぼしており、今後改善の必要があろう。そのためには変化を恐れず、広い視野に立って考え、個々の経験を集約しながら新しい時代や社会的な環境に適した学生指導及び各種活動に取り組むことが出来るような運営組織と行動スタイルの確立が目指されるべきである。そのための取り組みの一つとして、事務局はセクションによって仕事量や繁忙期に差が見られるため、今後は事務局を一室にまとめるなどによって、協力体制が取りやすいような工夫が必要であろう。また委員会同様に、学校運営や事務仕事はルーティーンになりがちであり、進歩や改革には消極的である。事務職員の人数に限られることもあり、今後は「考える事務作業」を遂行できるような個々の努力も必要であろう。

平成24年度は2度目となる短大基準協会による「第三者評価」を受けた記念の年であった。その準備のために、全教職員が一定の緊張感を持って本学の「建学の精神」と「教育方針」を再認識し、個人としてはもちろん組織として、これに則った大学運営、委員会活動等をしていかなければならない、行動したことは意義深いと思われた。

(3) 入学定員及び学生数

○ 入学定員・学生数一覧

(平成24年5月1日現在・単位：人)

学科・専攻		定員	1年	2年
こども学科	乳幼児保育コース	120	115	121
	こども学コース		5	0
合計		120	120	121

4 平成 24 年度学事日程

(1) 学事日程

○ 学事日程一覧

前 期		後 期	
日 付	行 事	日 付	行 事
平成 24 年		9 月 27 日	後期授業開始
4 月 1 日	平成 24 年度入学式	9 月 28 日	追再試験発表日
4 月 2 日・3 日	学外研修 (1 年生)	9 月 29 日	追再試験、第 9 回オープンキャンパス
4 月 4 日	学大オリエンテーション	10 月 6 日	AO 入試面談、保護者会
4 月 5 日	前期授業開始	10 月 12 日	純真祭準備日
4 月 6 日	身体測定	10 月 13 日・14 日	純真祭、進学相談会
4 月 18 日	胸部レントゲン	10 月 27 日	推薦入試 I 期
4 月 14 日	補講日	11 月 10 日	進学相談会、補講日
4 月 21 日	補講日	11 月 17 日	AO 入試面談
4 月 27 日	運動会	12 月 8 日	進学相談会、補講日
4 月 28 日	補講日、第 1 回オープンキャンパス	12 月 15 日	推薦入試 II 期、AO 入試面談、プレカレッジ
5 月 12 日	補講日、保護者会	12 月 22 日	平常授業日 (月曜日の授業)
5 月 19 日	補講日	12 月 27 日	冬季休業
5 月 21 日～6 月 9 日	幼稚園教育実習 (乳幼児保育コース 2 年)	～平成 25 年 1 月 4 日	
5 月 26 日・27 日	第 2 回オープンキャンパス	1 月 7 日	後期授業再開
6 月 9 日	公開講座	1 月 12 日	進学相談会、プレカレッジ
6 月 16 日	補講日、第 3 回オープンキャンパス	1 月 19 日	AO 入試面談、一般入試 I 期
6 月 17 日	第 3 回オープンキャンパス	1 月 24 日	金曜日の授業
6 月 23 日	補講日	1 月 25 日	表現発表会リハーサル
6 月 30 日	補講日、公開講座	1 月 26 日	表現発表会
7 月 2 日～17 日	保育所実習 (乳幼児保育コース 2 年)	1 月 29 日～2 月 1 日	後期補講期間
7 月 6 日	ディズニー研修 (1 年生)	2 月 2 日	進学相談会、プレカレッジ
7 月 7 日・8 日	第 4 回オープンキャンパス	2 月 4 日～8 日	後期試験期間
7 月 14 日	公開講座	2 月 6 日	震災後による一斉休校
7 月 21 日	AO 入試面談、第 5 回オープンキャンパス	2 月 9 日	研究セミナー
7 月 22 日	第 5 回オープンキャンパス	2 月 11 日～22 日	施設実習 (乳幼児保育コース 1 年)
7 月 26 日～8 月 3 日	前期補講期間	2 月 12 日	追再試験発表日 (2 年生)
7 月 28 日	公開講座	2 月 13 日・14 日	追再試験期間 (2 年生)
8 月 4 日	AO 入試面談、第 6 回オープンキャンパス		

I 本学の概要

8月5日	第6回オープンキャンパス	2月15日	春季休業
8月6日～9月19日	夏季休業	～3月29日	
8月6日～8日	私立短期大学体育大会	2月23日	AO入試面談、一般入試Ⅱ期
8月24日	補講日	2月26日	追再試験発表会（1年生）
8月25日	AO入試面談、第7回オープンキャンパス	2月27日・28日	追再試験期間（1年生）
8月26日	Home Coming Day、第7回オープンキャンパス	3月1日	進学相談会、プレカレッジ
8月27日	保育所実習（乳幼児保育コース2年）	3月9日	第29回卒業式
～9月10日		3月22日	AO入試面談、プレカレッジ
9月5日～7日	キャリアデザイン集中講義（1年）	3月26日	後期試験（2月6日一斉休校分）
9月10日～15日	幼稚園教育実習（1年）	3月27日～29日	春の学校見学会
9月15日	AO入試面談、第8回オープンキャンパス	3月27日	2年生オリエンテーション
9月20日～26日	前期試験期間	3月28日	補講日
		3月29日	補講日、入学前オリエンテーション

（2） 成果と課題（点検と評価）

授業コマ数15コマ以上を確保した上で、保育所・幼稚園・小学校での実習を組み込んでいくため、補講日の設定などで学事日程はかなり窮屈なものとなったが、これも免許状と資格の取得を目指す短期大学の宿命ともいえよう。

入学生に対して、入学前のプレカレッジ（入学前教育）と入学前オリエンテーションを行い、入学式に続き、学外（合宿）研修と学内オリエンテーションを実施することができ、スムーズに大学生活に入ることができた。また、7月のディズニー研修は、2年目となったが、大変有意義な研修となっているので、今後も継続していきたいと考えている。

この数年、純真祭（学園祭）の適切な時期について、寒くならない時期、2年生の就職活動に影響が出ない時期等の視点から検討を続けているが、今年度は10月の2日間で行なった。教職員、学生共に、適切な時期であったという感触をもったので、この時期に定着していくことが望ましいと思われる。

学生に対する保護者の思いを大切に、大学と保護者の関係を密接にすることで学生生活を意義あるものしたいという考えから、毎年保護者会を開催している。昨年度は、東日本大震災の影響で春の保護者会を行うことができなかったが、今年度は、春と秋に行うことができた。1年生は午前中、2年生は午後と、学年別に時間を分けて実施したので、年次にあわせた情報提供と相談が可能であった。

また、学食とカフェテリアのリニューアルに伴い、保護者会当日に教職員と保護者との昼食懇談会を企画した。保護者が学食で学生と同じメニューを体験することは、学生生活の一部である昼食の様子を直に知ることが出来ると同時に、教職員と食事を取りながら懇談を行う企画は大変好評であった。

今年度は前期試験が夏休み明けに実施され、前期授業終了から試験までに期間があいて

I 本学の概要

しまった。またその後の日程も後ろ倒しとなったため、追再試発表直後に追再試試験という余裕のないスケジュールとなり、追再試発表後に復習の時間もなく再試を受験しなければならないという問題を生じた。試験日程については、今後検討していきたい。

II 入試と広報

1 入試

(1) 組織と運営

① 入試に関する組織

(a) 入試広報委員会

入試に関する事項は、入試広報委員会によって審議した。

(b) 入試問題作成

本学では、一般入試において学力検査（国語）を実施している。また、社会人入試において作文を課している。問題作成については、国語科を担当する教員を中心として問題を作成している。

(c) 高等学校等への入試広報

高等学校等への広報活動として、在学生の出身校をはじめ、近隣の高等学校へ大学案内・学生募集要項等を持参し、進路指導部や高等学校3年生の担任と面会した。この活動には、入試広報事務担当者だけでなく、専任教員や職員も積極的に取り組んだ。

② 入試業務

入試広報委員会と入試広報課の協力によって、以下の業務を行っている。各事項について教授会の承認を得る必要のあるものは、定例の教授会に原案をあげ、審議を経たのち決定されている。

○ 入試広報業務一覧

●入試の企画・運営

入試の種類の策定・入試日程（案）作成・指定推薦校（案）作成・入試選考基準（案）作成・学生募集要項作成
大学案内作成・広報誌等作成・入試問題作成・入学願書受付・入試の実施・合否判定資料の作成・合格通知発送

●広報活動

進学相談会・学校見学会（オープンキャンパスを含む）・募集資料の配布・ホームページ作成・高等学校における
模擬授業・公開講座などの企画・運営

(2) 平成24年度入試の特徴

① 入試の改善点

入試区分については、平成23年度の改善点の動向を見守る形で、平成24年度の入試区分については特に変更はしていない。

指定校への推薦基準となる評定平均値については、学校偏差値や入学者の現況にあわせて一部見直しを行った。

② 入試の特徴

(a) 入試の動向

指定校推薦入試、公募制推薦入試、専門高校・総合学科等推薦入試、同窓生推薦入試と多様化する進学者のニーズを捉えて推薦入試の区分を4区分設定している。

指定校推薦入試は、本学より指定された高等学校（中等教育学校を含む）を平成25年3月卒業見込みで、学業成績の条件を満たし、出身学校長から推薦される者を対象に実施するもので、目的意識と学習意欲の高い人材を求めた入試である。書類審査と面接にて総合的に評価し、推薦基準となる評定平均値については別に定めている。

公募制推薦入試は、2回実施している。高等学校（中等教育学校を含む）を平成25年3月卒業見込み、及び平成24年3月高等学校（中等教育学校を含む）を卒業した者で、学業成績の条件を満たし、出身学校長から推薦される者を対象に、目的意識と学習意欲の高い人材を求めた入試である。書類審査と面接にて総合的に評価する。

専門高校・総合学科等推薦入試は、2回実施している。専門高校とは、商業科・工業科・農業科などをさし、総合学科の高等学校と同じ扱いにした。推薦基準となる卒業年度等は、公募制推薦入試に準じている。

同窓生推薦入試は、2回実施している。同窓生推薦入試とは、埼玉純真短期大学の卒業生が、母校である本学へ入学を希望する受験生を、責任を持って推薦する制度であり、指定校推薦と同様の扱いとする。また、受験に際して対象者は同窓生名で推薦し、入学金免除規程第2条に該当する場合は入学金を免除する。高等学校(中等教育学校を含む)を平成25年3月卒業見込みの者で、書類審査と面接にて総合的に評価する。

一般入試は、2回実施している。各コースとも学科試験「国語（古文・漢文を除く）」と面接を課し、書類審査を含め総合的に評価する。

社会人入試は、社会的経験を有する者で、将来、保育・教育・福祉に従事する事を目指しているか、同分野の学習に興味のある社会人を対象に、作文(800字以上)と面接を課し、書類審査を含め総合的に評価しているが、平成24年度の入試においては、希望者がいなかった。

AO入試は、10回設定している。まず、入学希望者が本学のアドミッションポリシーを理解した上で、担当者が約30～40分程度の面接を行う。面接は、10回のエントリー期間を設けている。面接時には、保護者、高等学校教員等が同伴することを認めている。そして、面接内容は、入学希望者から本学の教育方針・授業内容・学校生活・就職状況等の質問を受け、本学から入学希望者の志望動機・学習意欲・将来の進路、優れた能力・活動についての質問を行う。本試験を行う前に進路相談会やAO入試ガイダンスを行い、入学希望者と本学の相互理解を促し、出願・試験に至る入試である。

それぞれの入試における合否判定は、入試終了後、入試委員会、合否判定教授会を開催し公平かつ厳正に行われる。合否は、受験生及び出身学校長に通知し、電話・メール・FAX

等による問い合わせには応じていない。

(b) 志願者の動向

○ 本学志願者の推移

(単位:人)

年 度	志願者数	
	こども学科	乳幼児保育学科第二部
平成 19 年度	173	6
平成 20 年度	86	—
平成 21 年度	97	—
平成 22 年度	131	—
平成 23 年度	127	—
平成 24 年度	191	—

(3) 平成 24 年度入試結果

○ 入試結果一覧

(平成 25 年 3 月 31 日現在・単位:人)

入試区分	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
指定校推薦入試	92	92	92	91
公募制推薦入試	16	16	8	8
専門高校・総合学科等推薦入試	3	3	0	0
同窓生推薦入試	1	1	0	0
一般入試	5	5	0	0
社会人入試	0	0	0	0
AO 入試	74	62	61	61
計	191	179	161	160

(4) 募集要項

① 募集要項の形式

A4 冊子形式とし、記述内容の充実を図った。

② 選考方法

○ 選考方法一覧

入試区分		推薦書	調査書	個人面接	学力検査等	定員 (人)
推薦入試	指定校	○	○	○	—	35
	公募制	○	○	○	—	25
	専門高校・総合学科等	○	○	○	—	10
	同窓生	○	○	○	—	5

II 入試と広報

一般入試	-	○	○	「国語」 (古文・漢文を除く)	20
社会人入試	-	○	○	作文 (800字以内)	若干
AO入試	-	※○	○	-	20

※エントリーでは不要だが、出願では必要

③ 入試日程

○ 入試日程一覧

入試区分		出願期間	試験日	合格発表日	入学手続 締切日
指定校推薦入試		2012年10月1日(月) ～10月22日(月)	10月27日(土)	10月31日(水)	11月23日(金)
公募制推薦入試	I期	2012年10月1日(月) ～10月22日(月)	10月27日(土)	10月31日(水)	11月23日(金)
	II期	2012年11月26日(月) ～12月10日(月)	12月15日(土)	12月19日(水)	1月11日(金)
専門高校・総合学科等 推薦入試	I期	2012年10月1日(月) ～10月22日(月)	10月27日(土)	10月31日(水)	11月23日(金)
	II期	2012年11月26日(月) ～12月10日(月)	12月15日(土)	12月19日(水)	1月11日(金)
同窓生推薦入試	I期	2012年10月1日(月) ～10月22日(月)	10月27日(土)	10月31日(水)	11月23日(金)
	II期	2012年11月26日(月) ～12月10日(月)	12月15日(土)	12月19日(水)	1月11日(金)
一般入試	I期	2012年12月17日(月) ～1月15日(火)	1月19日(土)	1月23日(水)	2月15日(金)
	II期	2013年2月4日(月) ～2月18日(月)	2月23日(土)	2月27日(水)	3月15日(金)
社会人入試	I期	2012年11月26日(月) ～12月10日(月)	12月15日(土)	12月19日(水)	1月11日(金)
	II期	2013年2月4日(月) ～2月18日(月)	2月23日(土)	2月27日(水)	3月15日(金)

B 入試と広報

○ AO入試日程一覧

入試区分	エントリー期間	面接	出願許可 通知	出願期間	合格 発表日	入学手続 締切日
AO 入試	2012年7月2日(月) ～7月13日(金)	7月21日 (土)	7月25日 (水)	9月3日(月) ～ 9月14日(金)	9月19日 (水)	10月19日 (金)
	2012年7月16日(月) ～7月27日(金)	8月4日 (土)	8月8日 (水)			
	2012年7月30日(月) ～8月17日(金)	8月25日 (土)	8月29日 (水)			
	2012年8月20日(月) ～9月7日(金)	9月15日 (土)	9月19日 (水)	9月24日(金) ～ 10月5日(金)	10月10日 (水)	11月9日 (金)
	2012年9月10日(月) ～9月28日(金)	10月6日 (土)	10月10日 (水)	10月15日(月) ～ 10月26日(金)	10月31日 (水)	12月7日 (金)
	2012年10月22日(月) ～11月9日(金)	11月17日 (土)	11月21日 (水)	11月26日(月) ～ 12月7日(金)	12月12日 (水)	1月11日 (金)
	2012年11月12日(月) ～12月7日(金)	12月15日 (土)	12月19日 (水)	12月25日(火) ～ 1月11日(金)	1月16日 (水)	2月15日 (金)
	2012年12月17日(月) ～1月11日(金)	1月19日 (土)	1月23日 (水)	1月28日(月) ～ 2月8日(金)	2月13日 (水)	3月1日 (金)
	2013年1月21日(月) ～2月15日(金)	2月23日 (土)	2月27日 (水)	2月27日(水) ～ 3月1日(金)	3月6日 (水)	3月15日 (金)
	2013年2月18日(月) ～3月19日(火)	3月22日 (金)	3月25日 (月)	3月25日(月) ～ 3月26日(火)	3月27日 (水)	3月29日 (金)

(5) 成果と課題(点検・評価)

大学入試の基本方針は文部科学省で示されている。その中で、各大学独自の特徴をもった入試が多く展開されている。入試形態が複雑化し、受験生に理解されにくい点が見受け

られるため、本学の入試形態に関しては極力わかりやすいものをと考えている。

昨年度の入試より、遠隔地からの受験生に対し、受験前日の市内宿泊と入学金の免除という支援を行っているが、今年度も同様に実施して、遠隔地からの受験費用負担の軽減につなげている。また、同じく昨年度より実施している「同窓生推薦入試」とは、受験生にとっては卒業生の姿を目指すものとして、また卒業生にとっては本学への誇りと思いを次に繋げられる入試として始めたものであるが、今年度の実績は1名であった。今後も広く周知し、AO入試の特徴を活かせる選抜方法としてさらに検討を重ねていきたい。

また、AO入試受験者の基礎学力不足が問題にされているが、今年度は面談資料として、面談前に受験者が目指す保育士、教育者像に関する記述を課した。その結果、受験生各々の意欲や関心を知ると同時に、おおまかな文章力を見ることができ、面談の参考にすることが出来た。

2 広報

(1) 組織と運営

学生の受け入れに関する広報活動は、以下の内容で入試広報課を中心に全教職員で行った。

○ 広報活動一覧

- ・学校案内・入試ガイドブック・学生募集要項・ホームページ・電飾看板の作成
- ・受験生や高等学校への窓口業務（学校案内・募集要項・入試問題集などの配布・入試に関する問い合わせへの応答等）と学校見学の案内など・受験雑誌への広告掲載・進学相談会・模擬授業への教職員派遣

(2) オープンキャンパス

① 日程と内容

平成24年度は、以下の日程で計15回のオープンキャンパスを実施した。

○ オープンキャンパス実施日程一覧

- ①：4月28日（土） ②：5月26日（土）27日（日） ③：6月16日（土）17日（日） ④：7月7日（土）8日（日）
- ⑤：7月21日（土）22日（日） ⑥：8月4日（土）5日（日） ⑦：8月25日（土）26日（日） ⑧：9月15日（土）
- ⑨：9月29日（土）

内容は、学科の説明・体験授業・個別進学相談・キャンパス見学・学食体験などである。

Ⅱ 入試と広報

○ オープンキャンパス実施内容詳細

	日 時	プログラム
第1回	4月28日(土) 9:30～受付開始 10:00～14:00	1 開会：学科・入試説明等 2 体験授業 (1時間目：11:00～11:40 2時間目：11:50～12:30) A：「息をあわせてワン・ツースリー！！」 B：「読み聞かせを体験しよう」 C：「ドキドキ・ワクワクピアノ講座」 3 学食体験 4 個別進学相談・キャンパス見学・アパート見学（希望者のみ） ＊食事終了後、自由解散
第2回	5月26日(土) 27日(日) 9:30～受付開始 10:00～14:00	1 開会：学科・入試説明等 2 体験授業 (1時間目：11:00～11:40 2時間目：11:50～12:30) A：「子どもに戻ってレクリエーションを楽しもう！」 B：「心の世界を描く」 C：「ドキドキ・ワクワクピアノ講座」 保護者対象教員との懇談会 11:00～11:40 ピアノ個人レッスン（1人：20分） 3 学食体験 4 個別進学相談・キャンパス見学・アパート見学（希望者のみ） ＊食事終了後、自由解散
第3回	6月16日(土) 17日(日) 9:30～受付開始 10:00～14:00	1 ウェルカムコンサート 2 開会：学科・入試説明等 3 体験授業 (1時間目：11:00～11:40 2時間目：11:50～12:30) A：「紙芝居の演じ方」 B：「子どもと遊べるおもちゃを作ってみよう」 C：「ドキドキ・ワクワクピアノ講座」 保護者対象在学生との懇談会 11:00～11:40 ピアノ個人レッスン（1人：20分） 4 学食体験 5 個別進学相談・キャンパス見学・アパート見学（希望者のみ） ＊食事終了後、自由解散

II 入試と広報

<p>第4回</p>	<p>7月7日(土) 8日(日)</p> <p>9:30~受付開始</p> <p>10:00~14:00</p>	<p>1 開会：学科・入試説明等 2 体験授業 (1時間目：11:00~11:40 2時間目：11:50~12:30)</p> <p>A：「児童文化“七夕を楽しもう”」 B：「話し上手・聴き上手」 C：「発達障害について知ろう！」</p> <p>保護者対象教員との懇談会 11:00~11:40</p> <p>3 学食体験 4 個別進学相談・キャンパス見学・アパート見学（希望者のみ） *食事終了後、自由解散</p>
<p>第5回</p>	<p>7月21日(土) 22日(日)</p> <p>9:30~受付開始</p> <p>10:00~14:00</p>	<p>1 ウェルカムコンサート 2 開会：学科・入試説明等 3 体験授業 (1時間目：11:00~11:40 2時間目：11:50~12:30)</p> <p>A：「ブラインドウォークにチャレンジ」 B：「カライドサイクルを折る」 C：「ドキドキ・ワクワクピアノ講座」</p> <p>保護者対象在学生との懇談会 11:00~11:40 ピアノ個人レッスン（1人：20分）</p> <p>4 学食体験 5 個別進学相談・キャンパス見学・アパート見学（希望者のみ） *食事終了後、自由解散</p>
<p>第6回</p>	<p>8月4日(土) 5日(日)</p> <p>9:30~受付開始</p> <p>10:00~14:00</p>	<p>1 開会：学科・入試説明等／複数回参加者 体験授業 2 体験授業 (1時間目：11:00~11:40 2時間目：11:50~12:30)</p> <p>A：特別応援「やさしさと愛で人は育つ」 ～ハーブの調べにのせて～ B：「手作りおもちゃに挑戦！」 C：「歌で自己紹介をしてみましょう！」</p> <p>3 学食体験 4 個別進学相談・キャンパス見学・アパート見学（希望者のみ） *食事終了後、自由解散</p>
<p>第7回</p>	<p>8月25日(土) 26日(日)</p> <p>9:30~受付開始</p> <p>10:00~14:00</p>	<p>1 開会：学科・入試説明等／複数回参加者 体験授業 2 体験授業 (1時間目：11:00~11:40 2時間目：11:50~12:30)</p> <p>A：「コミュニケーションは全身を使ってこそ伝わる」 B：「お楽しみシアターがいっぱい」 C：「ドキドキ・ワクワクピアノ講座」</p> <p>保護者対象教員との懇談会 11:00~11:40 ピアノ個人レッスン（1人：20分）</p> <p>3 学食体験 4 個別進学相談・キャンパス見学・アパート見学（希望者のみ） *食事終了後、自由解散</p>

Ⅱ 入試と広報

第8回	9月15日(土) 9:30～受付開始 10:00～14:00	<p>1 開会：学科・入試説明等／複数回参加者 体験授業 2 体験授業（1時間目：11:00～11:40 2時間目：11:50～12:30）</p> <p>A：「見えない中から、見えるもの」って何？ B：「脳ってふしぎ！」 C：「昔話の奥深さを知ろう！」</p> <p>保護者対象在学生との懇談会 11:00～11:40</p> <p>3 学食体験 4 個別進学相談・キャンパス見学・アパート見学（希望者のみ） *食事終了後、自由解散</p>
第9回	9月29日(土) 9:30～受付開始 10:00～14:00	<p>1 開会：学科・入試説明等／複数回参加者 体験授業 2 体験授業（1時間目：11:00～11:40 2時間目：11:50～12:30）</p> <p>A：「グループの力」 B：「紙芝居の演じ方」 C：「こんな時どうする？」</p> <p>保護者対象教員との懇談会 11:00～11:40</p> <p>3 学食体験 4 個別進学相談・キャンパス見学・アパート見学（希望者のみ） *食事終了後、自由解散</p>

② 参加状況

○ オープンキャンパス参加状況 一覧（単位：人）

2012年実施結果（出願率60%目標）

実施回数	実施日	こども学科					複数回										
		延べ人数 (高校生・保護者)		1.2 年生	個別 相談 者数	初回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回	8 回	9 回	10 回		
春の 見学会	2012.3.28(水)	20	4	1	18	20											
	2012.3.29(木)	24	5	5	21	22	2										
	2012.3.30(金)	21	7	0	17	19		2									
	計	65	16	6	56	61	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	2012.4.28(土)	46	18	5	23	35	9		2								
2	2012.5.26(土)	15	6	0	8	8	4	3									
3	2012.5.27(日)	29	15	0	9	19	9	1									
4	2012.6.16(土)	39	15	0	12	19	10	5	3	2							
5	2012.6.17(日)	24	11	0	11	17	3	4									
6	2012.7.7(土)	29	7	1	12	14	9	2	3	1							
7	2012.7.8(日)	30	11	3	11	17	9	3			1						
8	2012.7.21(土)	27	18	2	16	13	5	6	1	2							

II 入試と広報

9	2012.7.22(日)	40	19	8	22	25	12	2			1				
10	2012.8.4(土)	42	8	17	3	32	4	2	2	2					
11	2012.8.5(日)	47	16	20	12	34	4	5	3			1			
12	2012.8.25(土)	72	29	28	17	49	14	3	2	3	1				
13	2012.8.26(日)	39	20	13	9	29	4	3		1	1		1		
14	2012.9.15(土)	37	27	3	14	19	6	4	3	2	1	1		1	
15	2012.9.29(土)	41	21	7	10	15	12	5	4	1	1	1	1		1
合計		622	257	113	245	406	116	50	23	14	6	3	2	1	1

③ 成果と課題（点検・評価）

オープンキャンパスは、本学を理解していただける絶好の機会と考えている。平成24年度のオープンキャンパスの開催日については、昨年度の実績を基に検討して決定した。

学科説明、入試説明、体験授業、模擬授業、学食体験、キャンパス見学、個別相談などを実施し、本学教職員と学生スタッフで対応している。一人ひとりを大切にするという、単学科で小規模ならではの本学の良さを、来学された高校生や保護者にも感じていただけるように、教職員はもちろん学生スタッフも親切、丁寧な対応を心がけている。

オープンキャンパスも回を重ねるごとに、複数回の参加者（リピーター）が増えてくるため、別プログラムを置き、毎回の学科説明や入試説明などの重複を避けるという対応をしている。また卒業生を招いての講演や保護者対象懇談会、在学生との懇談会などの様々な企画を行い、本学の特色を幅広く理解していただくよう工夫している。

個別相談では、受験生一人ひとりに対応し、本学により興味を持ってもらえる貴重な機会としている。よりスムーズな相談を目指し、可能な限り高校訪問先の生徒と面談できるよう相談担当者を組むという配慮を行った。

（3） その他の広報活動

① 高等学校への訪問

本学では開学以来、県内はもとより隣接県の高等学校を中心に高校訪問を行っている。訪問の目的は、本学の教育理念や取組・入学試験での選考方法、卒業後の進路などについて、高等学校に理解していただくことである。平成24年度も、全教職員を各地区に分担し、春期、夏期、秋期、冬期と高校訪問を行った。春期の訪問では、指定推薦校を中心に訪問を行っている。夏期は、高等学校の三者面談が終了した時期に訪問し、秋期は、推薦入学試験の願書受付が始まる前に、オープンキャンパスや学校見学などに来ていただいた高校生の出身校を中心に訪問を行った。冬期は、推薦入学試験やAO入学試験合格者の高校に対して、お礼の挨拶とプレカレッジの案内及びその時期以降の入試（一般入試、AO入試）についての案内を行っている。

② ホームページ

大学案内パンフレットとならんで、ホームページもまた本学に関する情報を受験生や一般の方へ提供する媒体として重要な役割を担っている。特にホームページは、最新の情報を提供できるということにおいて、パンフレットとは異なる利点がある。その利点を活かすという意味で、昨年度の大々的にホームページのリニューアルを行い、さらに「埼玉純真短期大学の今」を発信できるホームページとして位置付けている。具体的には、授業紹介、ピアノレッスン動画、教職員や学生ブログのアップなど、役に立つ情報の提供と、いま、大学や学生がどのような活動をし、何を感じているのかが常にわかるホームページとなっている。

③ Web サイトへの掲載

本学のホームページ以外に、教育関係業者を介してインターネット上に本学の状況等を公開している。平成 24 年度は 4 社と契約を行い、資料請求やオープンキャンパスへの申し込み等を可能にしている。Web サイトへの掲載による効果は、他大学を検索中に本学の取り組みや取得可能な資格・免許状等について、より多くの対象に目に留めてもらう機会として利用可能な点である。この取組により資料請求者の居住地域が広範囲になった。

④ ガイダンス・模擬授業・キャンパス見学会

毎年、埼玉県を中心に茨城県・群馬県・栃木県等のホテルや高等学校を会場とした進学相談会やガイダンス、模擬授業に積極的に参加している。進学相談会やガイダンスに参加することで、本学を志望する生徒に対して、直接個々のニーズや様子をその場で捉えながら柔軟に説明ができています。また、模擬授業は、本学教員の教育への取り組みや姿勢、入学後に学ぶ内容について触れ、理解してもらえやすい機会であろう。

随時キャンパス見学も受け入れており、オープンキャンパス以外に本学へ直接来校する受験生や保護者に対して、個別にキャンパス見学や相談を実施し、希望があれば授業への参加や学食体験にも対応している。

⑤ 広報誌作成

本学の学校行事や授業、学生の活動等に関する広報誌として「Junshin News Letter」を発行している。平成 24 年度は 1 回発行した。

第 1 号の主な掲載内容は、2013 年度人試日程、入学式、学外研修、学内オリエンテーション、春の保護者会開催報告、保育内容（環境）指導法を受講して、自宅外通学生顔合わせ会、先輩に続こう！、卒業生による仕事説明会と保育士・教員として働く喜び、スポーツ大会、五霞幼稚園・保育園栗野先生の特別授業、2 年生の幼稚園後半実習、きむら保育園副園長岩本先生の特別授業、どこどきわくわく町たんけん、埼玉純真短期大学市民講座、本学客員教授／河田羽生市長のご講演、おもてなしの心を学ぶディズニースタディーズアカデミー研修、保育所実習、全国私立短期大学体育大会、などであった。

⑥ プレカレッジ

推薦入試や AO 入試での合格者は入学までの時間が長いため、入学までの意識や意欲、モチベーションが下がらないように、入学前教育としてプレカレッジを実施している。合格者に対して入学前の事前教育を行うことによって、入学に対する意識づけのみならず、学力低下を防ぐ対策にもなっている。

実施概要と内容は、以下のとおりである。

○ プレカレッジ概要

・日程
必修科目 2013年1月12日(土)・2月2日(土)
選択科目 2012年12月15日(土)・2013年1月12日(土)・2月2日(土)・3月1日(金)・3月22日(金)
特別講演 2013年1月26日(日) 表現発表会開催(羽生市産業文化ホールにて)
・履修方法 必修科目について、1月12日(土)、2月2日(土)のどちらか都合の良い日に出席する。
選択科目について、12月15日(土)1月12日(土)、2月2日(土)、3月1日(金)、3月22日(金)は、それぞれ受講を希望する科目に出席する。

○ プレカレッジ日程及び内容一覧

実施日	1時限目 10:30~11:30 2時限目 11:40~12:40 3時限目 13:30~14:30		
12月15日(土)	選択「日本語表現入門講座」 (細田講師)	選択「保育原理入門」 (入江教授)	選択「幼児教育課程論」 (浅井助教)
1月12日(土)	必修「建学の精神を理解する」 (藤田学長) 必修「保育・教育実習入門」 (牛込教授)	選択「弾き歌いとピアノレッスン」 (小澤教授, ほか) 選択「子どものからだと遊びについて」 (安倍講師)	
1月26日(土)	特別講座 表現発表会 (13:00~16:00) 開催場所: 羽生市産業文化ホール・小ホール		
2月2日(土)	必修「建学の精神を理解する」 (藤田学長) 必修「保育・教育実習入門」 (牛込教授)	選択「弾き歌いとピアノレッスン」 (小澤教授, ほか) 選択「子どもと文化―(節分)―」 (関根講師)	
3月1日(金)	選択「特別支援教育・困り感に寄り添って」 (伊藤教授)	選択「子どもと文化―(ひな祭り)―」 (関根講師)	選択「楽しい科学―飛び出すカードづくり」 (齋藤講師)

3月 22日 (金)	選択「相談援助」 (高橋講師)	選択「心理学入門」 (稲垣講師)	選択「特別支援保育～こんな 時どうする？」 (安村講師)
------------------	------------------------	-------------------------	--

(4) 成果と課題（点検・評価）

オープンキャンパス以外の広報活動として行っている高等学校への訪問や模擬授業、進学ガイダンスは、本学教職員ができる限り担当高校を決めて訪問することで、高校側との信頼関係を築くことを重視した。

本学を広く理解してもらうためには、ホームページや広報紙「Junshin News Letter」は大変重要である。ホームページについては、常に新しく魅力ある情報を発信できるような体制を整え、多くの教職員、学生がブログを掲載した。ホームページへのアクセス数も増え反響も大きい。広報誌「Junshin News Letter」についても、高校や高校生、在學生、保護者に配布して、本学への理解を深めていただいている。今年度は1回のみでの刊行であったが、次年度は定期的に刊行できるようにしたい。入学前教育（プレカレッジ）は6年目を迎え、合格内定者からはもちろん、高等学校からも理解と評価を得られている。学生の状況を把握しながら、さらに内容の充実を図っていきたい。

Ⅲ 教育活動

1 教育課程

(1) 教育課程の編成

本学において授与する学位は短期大学士であり、取得可能な免許状・資格は次のとおりである。

○ 学科別授与称号及び免許状・資格証の名称一覧

学科名	教育課程	称号・免許状・資格証
こども学科	卒業課程	短期大学士（こども学）
	教員養成課程 教員養成課程 保育士養成課程 司書課程 司書教諭課程 社会福祉主事任用資格 レクリエーション・インストラクター資格 ピアヘルパー受験資格	小学校教諭二種免許状 幼稚園教諭二種免許状 指定保育士養成施設卒業証明書 図書館司書資格証明書 司書教諭課程修了証書

こども学科では、子どもに関する専門分野の知識を授け、向上心に溢れる優れた人格と協調性豊かな人材の育成を目的としている。本学科における教育課程は教養教育科目及び専門科目をもって編成する。教育における質を保持しながら、保育・教育の専門職を養成する本学の教育目的を達成するために必要な授業科目を開設し、専門科目に偏ることのないようにバランスよく、体系的なカリキュラム編成をしている。

昨年度、厚生労働省からの「指定保育士養成施設の修業教科目及び単位数並びに履修方法の一部を改正」の告示を受け、告示された条件を満たして本学の状況に沿うように、新科目の設置、科目の統合、科目名や単位数の変更などのカリキュラムの改定を行っている。

(2) 成果と課題（点検・評価）

昨年度、厚生労働省からの告示を受け、より「変化する時代の要請と求められる大学像、専門職像に対応した人材育成」を目指したカリキュラムとなり、1年生、2年生ともに新カリキュラムを適用している。ほとんどの科目を半期で完結させる Semester 制にしたことにより、履修計画の見直しが行いやすくなったことや、万一不合格科目があった時も、卒業後、半期の科目等履修が可能となるなど、リカバリーが早期にできるようになった。

レクリエーション・インストラクター資格やピアヘルパー受験資格は、本学学生にとってそれほど負担もなく付加価値をつける資格・免許となりえるが、司書・司書教諭免許に

については、履修科目の負担も多く、就職につながらないことから、今年度より司書課程を廃止した。

2 時間割編成と履修指導

(1) 時間割編成

① 時間割編成

学生にとって効果的な授業となるように、授業における学生数を講義科目では50名以下、演習・実習科目では40名以下となるように配慮した時間割編成を行っている。

乳幼児保育コースにおいては、幼稚園教諭二種免許状・保育士資格及び司書資格の取得が可能になるように、またこども学コースにおいては、小学校教諭二種免許状・幼稚園教諭二種免許状及び司書教諭資格が取得可能となるように配慮した。また、小学校課程の科目については、模擬授業などが効果的、効率的に行えるように、1、2年生合同で受講できるよう編成し、その科目については隔年開講としている。

② 成果と課題（点検・評価）

講義科目の履修者は50名以下、演習・実習科目では40名以下となるように配慮して時間割を作成している。また、必要に応じて一斉指導も行えるように編成をしている。

(2) 履修指導

① 履修指導

4月のオリエンテーションにおいて、教務委員と教務事務担当者によって学年別に履修説明が行われ、さらに、授業の選択方法と免許状及び資格の取得方法などについてクラス担任からも指導を行った。

最終的な履修指導と履修登録の指導に関しては、1年生についてはクラス指導が可能な「入門ゼミⅠ」において、2年生についてはゼミにあたる「保育実践演習」の時間においてそれぞれの担任が実施した。

今年度は、卒業要件単位の取得状況把握のため、「卒業要件単位チェックリスト」を作成し、記入後提出とした。また、履修登録と同時に「免許状・資格の取得希望調査」を提出とし、クラス担任・教務委員と教務事務担当者が全学生の取得希望の免許状・資格と履修状況を把握して必要な指導を行った。さらに教務事務担当者は随時、学生に対し個別の履修指導を行った。

② 成果と課題（点検・評価）

新入生に対しては、入学前オリエンテーションから始まり、学外（宿泊）研修と学内オリエンテーションでの機会を利用して、履修説明と指導の時間が充分に取れたと思われた。そして、最終的な履修指導と履修登録をゼミの時間で行うことで、履修の確認と履修登録期間の遵守が徹底された。

クラス担任・教務委員・教務事務担当者との連絡体制が整っており、年度を超える時点での申し送りの徹底が図られているので、再履修等の指導もスムーズに行うことができた。

卒業要件単位の取得状況が確実に把握できるように作成した「卒業要件単位チェックリスト」の活用もうまく機能し、学生自身はもちろん、担任や教務係も、卒業要件単位の取得状況がわかり、履修指導に役立てることができた。

3 授業実施状況

(1) 授業科目の履修者

① 前期

(単位：人)

授業科目の履修人数(名)	(教養教育科目) 教養科目	専門教育科目	司書資格に関する専門科目	司書教諭資格に関する専門科目	その他の科目	計
0	1	1	0	0	0	2
1-9	1	9	0	1	0	11
10-19	0	10	1	0	0	11
20-29	15	35	0	0	0	50
30-39	19	37	0	0	0	56
40-49	0	15	0	0	0	15
50-59	1	0	0	0	0	1
60-69	1	0	0	0	0	1
70-79	0	0	0	0	0	0
80-89	0	0	0	0	0	0
90-99	0	0	0	0	0	0
100-109	0	0	0	0	0	0
110-119	0	0	0	0	0	0

Ⅲ 教育活動

120-129	0	0	0	0	0	0
130 以上	0	0	0	0	0	0
計	38	107	1	1	0	147

② 後期

(単位：人)

授業科目の履修人数 (名)	教養科目 (教養教育科目)	専門教育科目	司書資格に関する専門科目	司書教諭資格に関する専門科目	その他の科目	計
0	1	6	0	0	0	7
1-9	1	16	0	1	0	18
10-19	1	12	1	0	0	14
20-29	13	41	0	0	0	54
30-39	5	23	0	0	0	28
40-49	0	10	0	0	0	10
50-59	0	0	0	0	0	0
60-69	0	0	0	0	0	0
70-79	0	0	0	0	0	0
80-89	0	0	0	0	0	0
90-99	0	0	0	0	0	0
100-109	0	0	0	0	0	0
110-119	0	0	0	0	0	0
120-129	0	0	0	0	0	0
130 以上	0	0	0	0	0	0
計	21	108	1	1	0	131

③ 成果と課題 (点検・評価)

講義科目の履修者は 50 名以下、演習・実習科目では 40 名以下の授業実施を心がけており、卒業、資格・免許に関わる教養教育科や専門科目においては実現できている。選択の教養教育科目では、履修登録まで人数が読めないところがあるため、2 科目においての 50 名を数名超える授業ができてしまった。

(2) 授業の開講・休講及び補講の状況

① 授業時数

平成 24 年度の授業は、厚生労働省の通達に基づき、前期・後期ともに 15 回開講された。

② 休講の状況

(a) 前期

(単位：科目)

教育課程の区分	休講回数別授業科目数										
	10回以上	9回	8回	7回	6回	5回	4回	3回	2回	1回	計
教養科目	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3
専門科目	0	0	0	0	0	0	0	0	3	10	13
司書に関する専門科目	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
司書教諭に関する専門科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
その他の科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	6	12	18

(b) 後期

(単位：科目)

教育課程の区分	休講回数別授業科目数										
	10回以上	9回	8回	7回	6回	5回	4回	3回	2回	1回	計
教養科目	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	3
専門科目	0	0	0	2	1	6	2	6	4	8	29
司書に関する専門科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
司書教諭に関する専門科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	2	1	7	2	8	4	8	32

前期・後期ともに保育所実習及び幼稚園・小学校・中学校教育実習のために休講となった授業は、この表には含まない。

③ 補講の状況

(a) 前期

(単位：科目)

教育課程の区分	補講回数別授業科目数										
	10回以上	9回	8回	7回	6回	5回	4回	3回	2回	1回	計

III 教育活動

教養科目	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	4
専門科目	0	0	0	0	0	0	0	0	3	10	13
司書に関する専門科目	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
司書教諭に関する専門科目	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
その他の科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	1	6	12	19

(b) 後期

(単位：科目)

教育課程の区分	補講回数別授業科目数										計
	10回以上	9回	8回	7回	6回	5回	4回	3回	2回	1回	
教養科目	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	3
専門科目	0	0	0	2	1	6	3	5	5	8	30
司書に関する専門科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
司書教諭に関する専門科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	2	2	6	4	6	5	8	33

④ 成果と課題（点検・評価）

すべての授業において、前期・後期ともに全教科 15 回以上の授業を実施した。

5 回以上の休講、補講をしている科目があるが、授業内容の教育的効果を考えて休講・補講を実施しているケースで、たとえば、実習や表現発表会前、ピアカンセラーの試験対策のために集中的に授業を行ったりしている場合である。

学外授業や行事への授業の読み替えも行っているので、休講・補講のコマ数が一致するような手続きを徹底していきたい。

(3) 授業履修者の問題状況

① 授業欠席調査該当者数

(a) 前期

(単位：人)

	学科・専攻	学年	欠席要注意授業科目数別該当者数										計	
			10以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1		
卒業学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	6	0	2	2	7	2	4	9	10	28	70
		こども学コース	2年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
学年 非卒業	こども学科	乳幼児保育コース	1年	4	1	4	1	0	0	3	7	3	9	32
		こども学コース	1年	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2
計				10	1	6	4	7	2	7	16	14	37	104

III 教育活動

(b) 後期

(単位：人)

	学科・専攻		学年	欠席要注意授業科目数別該当者数										
				10 以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計
卒業 学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	1	3	4	6	3	8	13	21	59
		こども学コース	2年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
学年 非卒業	こども学科	乳幼児保育コース	1年	2	0	1	0	2	5	2	3	10	15	40
		こども学コース	1年	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	3
計				2	1	2	3	6	11	6	12	23	36	102

② 受験無資格者調査該当者数

(a) 前期

(単位：人)

	学科・専攻		学年	受験無資格科目数別該当者数										
				10 以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計
卒業 学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	0	0	0	0	2	0	1	3	6
		こども学コース	2年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
学年 非卒業	こども学科	乳幼児保育コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	1	1	5	7
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計				0	0	0	0	0	0	2	1	2	8	13

(b) 後期

(単位：人)

	学科・専攻		学年	受験無資格科目数別該当者数										
				10 以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計
卒業 学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		こども学コース	2年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
学年 非卒業	こども学科	乳幼児保育コース	1年	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
計				1	0	0	0	0	1	0	0	1	1	4

③ 再試験該当者数

(a) 前期

(単位：人)

	学科・専攻		学年	再試験科目数別該当者数										
				10 以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計
卒業 学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	0	0	2	0	1	2	7	15	27
		こども学コース	2年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
学年 非卒業	こども学科	乳幼児保育コース	1年	0	0	0	0	1	0	0	0	0	9	10
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計				0	0	0	0	3	0	1	2	7	24	37

Ⅲ 教育活動

(b) 後期

(単位：人)

	学科・専攻	学年	再試験科目数別該当者数											
			10以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計	
卒業学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	12
		こども学コース	2年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
学年 非卒業	こども学科	乳幼児保育コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	2	16	18
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
計				0	0	0	0	0	0	0	0	3	29	32

④ 追試験該当者数

(a) 前期

(単位：人)

	学科・専攻	学年	追試験科目数別該当者数											
			10以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計	
卒業学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	3	3	5	11
		こども学コース	2年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
学年 非卒業	こども学科	乳幼児保育コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計				0	0	0	0	0	0	0	3	3	7	13

(b) 後期

(単位：人)

	学科・専攻	学年	追試験科目数別該当者数											
			10以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計	
卒業学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	5
		こども学コース	2年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
学年 非卒業	こども学科	乳幼児保育コース	1年	0	0	0	0	1	0	1	2	1	3	8
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計				0	0	0	0	1	0	1	3	1	7	13

⑤ 成果と課題（点検・評価）

学則に「各授業科目について出席すべき時間数の3分の2に達しない者は、その授業修了の認定を受けることができない」との定めがある。授業の出席回数不足による定期試験受験無資格者をなくすために、毎日授業担当教員から教務課に欠席状況を報告し、それを教務課が集計して、全学生の全科目の欠席状況を全教員へ配信している。これによって、学生の出席状況を日々把握し、授業担当者及びクラス担任から、出席状況に問題のある学生に対する指導を行うことができ、出席回数不足による受験無資格者をほとんどなくすることができた。

10回以上の欠席者が数人いるが、それは選択科目等で履修放棄の手続きを忘れてしまった場合である。今後は決められた期間に履修放棄を行い、確実な履修生数の把握に努めたい。

(4) 免許状・資格取得状況

① 免許状・資格課程履修者数

(単位：人)

卒業学年・非卒業学年	学科・専攻		学年	司書資格	司書教諭資格	小学校教諭二種免許状	幼稚園教諭二種免許状	保育士資格	免許・資格を取得しない者	人数(実数)
卒業学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	11	-	-	112	112	3	117
		こども学コース	2年	-	-	-	-	-	-	-
	小計			11	-	-	112	112	3	117
非卒業学年	こども学科	乳幼児保育コース	1年	/	-	-	109	109	0	109
		こども学コース	1年	/	2	5	5	-	0	5
	小計			/	2	5	114	109	0	114
合計				11	2	5	226	221	3	231

② 免許状・資格課程の履修組み合わせ別履修者数

(単位：人)

免許・資格の 組み合わせ	卒業学年			非卒業学年			合計	
	こども学科		小計	こども学科		小計		
	乳幼児保育コース	こども学コース		乳幼児保育コース	こども学コース			
	2年	2年		1年	1年			
小学	-	-	-	-	0	0	0	3
幼稚	2	-	2	0	0	0	2	
保育	1	-	1	0	-	0	1	
司書	0	-	0	/	/	/	0	212
小学・司書	-	-	-	/	/	/	-	
小学・司教	-	-	-	-	0	0	0	
幼稚・司書	0	-	0	/	/	/	0	
幼稚・小学	-	-	-	-	3	3	3	
幼稚・保育	99	-	99	109	-	109	208	
保育・司書	1	-	1	/	/	/	1	

Ⅲ 教育活動

小学・司書・司教	-	-	-	/	/	/	-	13
小学・幼稚・司書	-	-	-	/	/	/	-	
小学・幼稚・司教	-	-	-	-	2	2	2	
幼稚・保育・司書	11	-	11	/	/	/	11	
小学・幼稚・司書・司教	-	-	-	/	/	/	-	-
無免許・無資格	3	-	3	0	0	0	3	3
計	117	-	117	109	5	114	231	

注) 表中の表記は以下のように省略する。

小学：小学校教諭二種免許状 幼稚：幼稚園教諭二種免許状 保育：保育士資格 司書：司書資格 司教：司書教諭資格

③ 成果と課題（点検・評価）

卒業時にはほぼ 100%の学生が、教員免許状や保育士資格の両方あるいはいずれかを取得しており、約 94%（昨年度 92%）の学生が、2 つ以上の資格・免許を取得している。このことから、免許状や資格取得に対して学生が意欲的であることがうかがえ、入学時の所期の目的を果たして卒業していると言えよう。

（5） 教育実習・保育実習・介護等体験

① 実習等の位置づけと目標

こども学科は、その教育課程に幼稚園教諭養成課程・保育士養成課程がおかれ、関係科目を履修し単位を取得することにより、こども学コースでは、小学校教諭二種免許状及び幼稚園教諭二種免許状が取得できる。一方、乳幼児保育コースでは、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格が取得できる。

これらの免許状・資格を取得するためには、以下のような実習が必修となる。

○ 実習内容一覧

免許状・資格	実習内容
小学校教諭二種免許状	小学校における教育実習および介護等体験
幼稚園教諭二種免許状	幼稚園における実習
保育士資格	保育所及び施設における実習

本学では、1 年次に施設実習および幼稚園前期（基本）実習、2 年次に幼稚園後期（応用）実習、保育所実習、小学校教育実習、介護等体験などが組み込まれるが、いずれもこれらの実習は、次のような位置づけがなされる。

まず、大学で学んだ理論を教育や福祉の現場で自ら体験し検証することである。これは、理論と実践とを関係づけ、学習の成果を現場において試すことによって新たな課題を見つけ出すものである。次に、現場に触れることで現状を把握し、造詣を深めながら、自らの将来像を見つめることである。

② 実習等の実施状況

各実習に関する指導は事前および事後の授業を中心に行われた。

まず、事前指導において、小学校・幼稚園・保育所・施設等の実際的な理解を図る一方、実習指導案・実習日誌・記録・実習ノートなどの作成指導を中心として、教育・保育現場等で必要とされる実践的な技術を習得させた。そして、実習中は各実習先へ専任教員が巡視を行い、実習先への挨拶とともに、学生の様子を把握し、対面による指導・助言等を行った。実習後は、学生一人ひとりと面談を行い、評価表などを参考にしながら、個人の実態に応じた指導・助言を行った。

(a) 小学校教育実習

平成24年度は、該当学生がいないため実施されなかった。

(b) 幼稚園教育実習

実習への参加に当たっては、1年次に「幼児教育者論」「教育原理」の履修、そして単位取得が必要となっている。特に、「幼児教育者論」では実習園の選定や交渉に際しての事前指導を行い、初めての实習である「前期（基本）実習」に向けて、幼稚園教育実習の意義、具体的内容、心構えやサービスの諸注意、日誌の書き方、提出の仕方等の指導を行った。実習終了後は、「後期（応用）実習」での課題に繋がる評価の伝達をし、「実践研究（幼稚園）」において引き続き実習指導を行った。24年度後半には、2年生と実習の実際について情報交換を行い、実習期間の具体的な活動の様子や日誌のまとめ方、準備物や心構え等について学習している。

2年次の実習では事前指導の段階において、1年次での実習の振り返りを基に「後期（応用）実習」での各自の自己課題を設定させた。また、責任実習についての事前指導として、児童文化財の作成と実践、指導計画の立案、具体的場面での保育方法の理解等を個々の状況に応じて行わせた。さらに、保育現場での人間関係における不安を軽減するために、教職員との関わり方などを説明した。そして、幼稚園実習への参加許可は、1年次の前期/基本実習と施設実習の取組みやその他の授業評価によることを知らせ、実習の事前事後指導への取組みの態度、園との関係、地域における私生活上の留意事項など繰り返し指導した。

終了後は担当教員が個別に面談を行い、実習園の評価表を基に実習を振り返り、反省点から自己課題を明らかにすることで、次の保育所保育実習の課題設定へとつながるよう指導した。

○ 幼稚園教育実習概要

	実習期間	実習生数(単位:人)	実習園数(単位:園)	実施学科・学年
前期	平成24年9月10日～15日	115	98	乳幼児保育コース1年
(後)	平成24年12月4日～10日	1	1	

Ⅲ 教育活動

後期	平成23年5月21日～6月9日	114	94	乳幼児保育コース2年
(55FD)	平成25年2月12日～3月5日	1	1	

注) 日程に関しては、受け入れ施設の実情により、若干の変動がある。

(c) 保育所保育実習

平成24年度からカリキュラムが変更され、事前指導を半期15回、事後指導を後期15回(いずれも2年次)行った。事前指導においては保育所保育指針を参考に、保育所の位置づけや活動内容といった理論的な内容の理解を図る一方、指導案の作成や実習ノートの記録の仕方といった具体的な内容についても指導を行った。また、特に乳幼児の発達についての理解を深めるべく、ビデオ教材を活用した。その他、絵本の読み聞かせや製作の紹介等、実践的な内容も取り扱った。

実習中は、電話での個別相談や巡回指導を通じて状況を把握し、指導を行った。本年度は事後指導の時間を十分に確保出来たことから、時間的な余裕を持って実習を振り返ることが出来た。また、保育所からの実習評価をもとに個人面接を行い、実習での反省点や今後の課題を明確にすることが出来た。

○ 保育所保育実習概要

	実習期間	実習生数(単位:人)	実習園数(単位:園)	実施学科・学年
前半	平成24年7月2日～7月17日	114	96	乳幼児保育コース2年
	平成24年8月27日～9月10日	1	1	
	平成24年12月3日～12月17日	1	1	
	平成25年2月18日～3月4日	1	1	
	合計	117	99	
後半	平成24年8月27日～9月10日	114	96	乳幼児保育コース2年
	平成24年11月19日～12月4日	1	1	
	平成25年2月18日～3月4日	1	1	
	平成25年3月5日～3月21日	1	1	
	合計	117	99	

注) 日程に関しては、受け入れ施設の実情により、若干の変動がある。

(d) 施設実習

本学において「施設実習」は、1年次の観察実習を中心とする「幼稚園実習(前期)(基本)」の次に行われる初めての長期の実習である。施設実習は、「幼稚園実習」・「保育所実習」の二つとは異なり、原則として大学が実習先として決定した施設に学生を紹介し、宿

III 教育活動

泊で実習を行っている。ただし、遠方より来学している学生や、学生本人が強く希望した場合は、自己開拓した施設で実習することも例外的に認めている。実習巡視においては、専任教員 9 名が、県内及び、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県、千葉県、東京都の施設を訪問した。

また、保育実習Ⅲ（施設）については、履修学生がいなかったため実施していない。

○ 施設実習概要

保育実習Ⅰ（施設実習）

実習期間	実習生数（単位：人）	実施施設数 （単位：施設）	実施学科・学年
平成25年2月11日～2月22日	108	58	乳幼児保育コース1年、2年

注1) 日程に関しては、受け入れ施設の実情により、若干の変動がある。

注2) 実習中止 2名（体調不良）、実習辞退 3名（準備不足1名、退学2名）は、実習生数に含まない。

(e) 介護等体験

平成24年度は、該当学生がいなかったため実施されなかった。

③ 成果と課題（点検・評価）

幼稚園実習に関しては、1年次9月における前期（基本）実習の効果が明らかとなり、2年次の後期（応用）実習へのスムーズなつながりが出来るようになった。また、実習先への依頼の関係上、実習先に関する希望調査は早い時期に実施されることが望ましいため、今年度は、4月の入学式前に実施される入学予定者対象オリエンテーションにおいて希望調査を実施した。更に平成25年度入学予定者に関しては、平成25年3月に実施されたプレカレッジにおいて希望調査を行い、早い時期に実習先への依頼を行うことが出来た。

保育園実習に関しては、事後指導で15回の授業時間が確保できたことにより、実習先からの評価表などを基にして、丁寧な面接指導と振り返りの時間を確保することが出来た。

小学校実習及び介護等体験に関しては、本年度は該当者がいなかったため実施しなかった。これまで小学校実習は教員採用試験の後に実施されており、実施時期の変更が課題であった。そのため、平成25年度の小学校実習に関しては、実施時期を5月とする予定である。

今年度の実習を振り返ってみると、実習審査は通ったものの、事前指導の中で提出物等に問題があるなど、不安を残したまま実習に入った学生が、実習中止となるケースがあった。本学では実習資格審査基準に基づいて実習審査を行っているが、更なる厳格な適用が必要と考えられ、今後の課題と言えよう。

(7) 「学生による授業評価アンケート」の実施とその集計結果

① 実施経緯

「学生による授業評価アンケート」は、本学の学生が授業に対して求めていることを把握し、授業内容・運営方法等の様々な改善を図ることによって、学生の学習意欲や学習効果の向上を目指すものである。授業内容・授業方法・授業に対する満足度等に関して学生の声を聞き、今後の教育活動を改善し、教員と学生の相互理解と協力関係を豊かにする一助として、今年度も以下の要領で実施した。

○ 「学生による授業評価アンケート」実施要領

1	アンケート調査の所轄は教務係とする。
2	対象科目について
(1)	調査対象科目及び時期
(a)	対象科目：全科目（半期科目及び通年科目）
(b)	科目種類：講義・演習・実習・実技
(c)	実施時期：前期及び後期の定期試験直前あるいは最終授業
(2)	調査実施手順について
(a)	教務係において実施要項及びアンケート用紙を準備
(b)	調査実施予定日までに、担当教員へアンケート用紙を配布する。
(c)	担当教員は、実施要領（別紙）を見ながら方法を説明し、実施する。
(d)	回収後、アンケート用紙は教務係において保管
(3)	調査結果の集計について
	教務係において保管するアンケート用紙は、担当教員別にファイルして担当教員の閲覧に供するようにすると共に、同係において集計処理する。
(4)	調査結果の公表について
	集計処理した調査結果は対象科目の担当教員に通知し、その結果に対するの感想や改善策を提出してもらう。
(5)	アンケート内容について
	授業評価にとって重要なアンケートの質問事項は、数回にわたり審議を行って決定した。その結果、講義・演習用及び実習・実技用の次のような二通りのアンケート用紙が用意されることになった。

② 集計結果

(a) 学生の授業への取組について

○ 集計結果（前期）

質問	評価						
	1	2	3	4	5	未記入	無効
1	52.9%	24.6%	12.5%	5.8%	2.6%	1.5%	0.1%
2	46.8%	40.0%	10.3%	1.4%	0.4%	1.1%	0.0%
3	24.3%	29.7%	27.8%	10.5%	6.5%	1.3%	0.0%

Ⅲ 教育活動

○ 集計結果（後期）

評価 質問	1	2	3	4	5	未記入	無効
1	48.3%	22.7%	15.5%	8.2%	3.3%	2.0%	0.0%
2	50.1%	37.6%	8.7%	0.8%	0.5%	2.0%	0.2%
3	34.7%	30.2%	23.1%	4.9%	5.0%	2.1%	0.0%

注)

- ・項目1「1：0回・2：1回・3：2回・4：3回・5：4回以上」
- ・項目2「1：はい・2：まあまあ・3：どちらともいえない・4：あまり取り組まなかった・5：いいえ」
- ・項目3「1：はい・2：まあまあ・3：どちらともいえない・4：あまり取り組まなかった・5：いいえ」

(b) 授業内容について

○ 集計結果（前期）

評価 質問	1	2	3	4	5	未記入	無効
4	49.5%	32.8%	12.2%	3.4%	0.8%	1.3%	0.0%
5	50.1%	32.8%	12.6%	2.5%	0.9%	1.0%	0.0%
6	55.2%	29.8%	11.1%	2.3%	0.8%	0.9%	0.0%
7	56.9%	28.8%	10.2%	2.2%	0.8%	1.0%	0.0%
8	52.7%	30.1%	11.7%	3.0%	1.1%	1.3%	0.0%
9	49.8%	31.4%	13.3%	3.2%	1.0%	1.4%	0.0%
10	51.3%	29.6%	11.7%	3.0%	1.1%	3.3%	0.0%

○ 集計結果（後期）

評価 質問	1	2	3	4	5	未記入	無効
4	57.3%	29.5%	9.0%	1.4%	0.7%	2.2%	0.0%
5	59.3%	28.6%	8.1%	1.2%	0.7%	2.1%	0.0%
6	61.3%	26.4%	8.7%	0.9%	0.5%	2.3%	0.0%
7	62.2%	26.3%	7.4%	1.4%	0.5%	2.2%	0.0%

Ⅲ 教育活動

8	59.2%	27.4%	9.3%	1.1%	0.7%	2.3%	0.0%
9	59.0%	28.0%	9.1%	1.0%	0.6%	2.2%	0.0%
10	57.3%	27.8%	8.6%	0.9%	0.7%	4.7%	0.0%

注) 1:思う 2:まあまあ思う 3:どちらともいえない 4:あまり思わない 5:思わない

② 成果と課題（点検・評価）

「学生による授業評価アンケート」は、前期・後期末に専任教員の全科目と希望する非常勤教員の授業について実施した。実施にあたっては、学生がありのままを評価しやすいように、学生がアンケートを書く際、授業担当者は席をはずし、代表学生が回収、封緘して提出させている。

集計は教務課が行い、その結果は各教員に配布される。教員は担当科目の集計結果と学生の自由記述をもとに「授業評価アンケート結果に対するコメント」を提出することで、学生の授業評価を参考にしながら、今後の授業改善に活かしている。また「学生による授業評価アンケート」の集計結果と、教員による「授業評価アンケート結果に対するコメント」は、1冊のファイルにまとめ、図書館に置き、教員も学生も自由に閲覧できるようにしている。

ここに掲載されている集計結果は全体の平均であるため、細かい点検と評価はできないが、概ね適切な授業が実施されていると言えよう。

資料：「授業評価アンケート実施要領」用紙A、B

学生による授業評価アンケート調査用紙

用紙 A (講義・演習)

履修年度	曜日・時限	科目名	実施日	担当教員
年度(前・後)			月 日	

この授業アンケートは、授業担当者が皆さんとともに、授業を改善し、充実させることを目指して実施するものです。皆さんの記入内容が授業の成績評価に影響を与えることはありませんので、率直にお答えください。

※アンケートはこの用紙に記入後、マークシートにも自分の選んだ数字をマークしてください。

〔I〕 授業への姿勢について該当する項目に○を付けてください。

質問1 何回欠席したか。 [1] 0回 [2] 1回 [3] 2回 [4] 3回 [5] 4回以上

質問2 熱心に授業に取り組んだか。

[1] はい [2] まあまあ [3] どちらともいえない [4] あまり取り組まなかった [5] いいえ

質問3 自主的に授業時以外で予習や復習、あるいは発展的な学習、関連した学習などをしたか。

[1] はい [2] まあまあ [3] どちらともいえない [4] あまり取り組まなかった [5] いいえ

〔II〕 授業内容について該当する項目を○で囲んでください。

[1] 思う [2] まあまあ思う [3] どちらともいえない [4] あまり思わない [5] 思わない

質問4 授業の内容がまとまっていて、よく理解できたか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問5 授業の内容が興味深く、関心が持てたか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問6 教員の熱意が感じられ、充実したか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問7 教員の話し方や声の大きさが適当で聞き取りやすかったか。

[1] [2] [3] [4] [5]

質問8 授業の進め方が適切であったか。

[1] [2] [3] [4] [5]

質問9 教材(テキスト・視覚教材・板書・配布資料など)・教具(設備使用)などが適当であったか。

[1] [2] [3] [4] [5]

質問10 授業内容は満足するものであったか。

[1] [2] [3] [4] [5]

質問11 この授業に出て具体的にどんなものが得られたかを書いてください。

()

質問12 この授業をさらに良くするためにはどうしたら良いと思われるかを書いてください。

()

〔III〕 この授業について意見・感想・指摘などを書いてください。(必須)

学生による授業評価アンケート調査用紙

用紙 B(実験・実習・実技)

履修年度	曜日・時限	科目名	実施日	担当教員
年度(前・後)			月 日	

この授業アンケートは、授業担当者が皆さんとともに、授業を改善し、充実させることを目指して実施するものです。皆さんの記入内容が授業の成績評価に影響を与えることはありませんので、率直にお答えください。

※アンケートはこの用紙に記入後、マークシートにも自分の選んだ数字をマークしてください。

(I) 授業への姿勢について該当する項目に○を付けてください。

質問1 何回欠席したか。 [1] 0回 [2] 1回 [3] 2回 [4] 3回 [5] 4回以上

質問2 熱心に授業に取り組んだか。

[1] はい [2] まあまあ [3] どちらともいえない [4] あまり取り組まなかった [5] いいえ

質問3 自主的に授業時以外で予習や復習、あるいは発展的な学習、関連した学習などをしたか。

[1] はい [2] まあまあ [3] どちらともいえない [4] あまり取り組まなかった [5] いいえ

(II) 授業内容について該当する項目を○で囲んでください。

[1] 思う [2] まあまあ思う [3] どちらともいえない [4] あまり思わない [5] 思わない

質問4 実技・実習の指導が的確で理解しやすかったか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問5 授業の内容が興味深く、関心が持てたか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問6 教員の熱意が感じられ、充実したか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問7 教員の話し方や声の大きさが適当で聞き取りやすかったか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問8 授業の進め方が適切であったか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問9 教材(テキスト・視覚教材・板書・配布資料など)・教具(設備使用)などが適切であったか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問10 授業内容は満足するものであったか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問11 この授業に出て具体的にどんなものが得られたかを書いてください。

[]

質問12 この授業をさらに良くするためにはどうしたら良いと思われるかを書いてください。

[]

(III) この授業について意見・感想・指摘などを書いてください。(必須)

<p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>
--

IV 学生生活

1 学生の動向

(1) 入学・卒業・留年・退学・休学の状況

① 平成 23 年度入学生

(単位：人)

学科・専攻		入学者数	在学者数	卒業者数	留年者数	退学者数	除籍者数	休学者数
こども学科	乳幼児保育コース	127	-	117	1	6	2	1
	こども学コース	0	-	0	0	0	0	0
合計		127	0	117	1	6	2	1

② 平成 24 年度入学生

(単位：人)

学科・専攻		入学者数	在学者数	卒業者数	留年者数	退学者数	除籍者数	休学者数
こども学科	乳幼児保育コース	115	108	-	0	5	1	1
	こども学コース	5	5	-	0	0	0	0
合計		120	113	-	0	5	1	1

(2) 学生の動向

平成 24 年度の入学者数は、前年の 127 名から入学定員と同数の 120 名となった。これは入学説明会において、本学の入学後の勉学が時間的にも量的にも負担が大きいことを強調したことが一因であろう。前年度との違いは「こども学コース」の希望者が 5 名いたことである。また、例年このコースの特徴は割合的に既卒者が多いことである。

この入学者数を受け、1 学年は 1 クラス 30 名を基本とする 4 クラス編成とした。少人数でクラス担任を配置し、学生の相談や指導に当たったものの、1 年次における退学者が 5 名、除籍者が 1 名、休学者が 1 名であった。退学者の主な理由は、表向きには進路変更であるが、実際には、精神的な不調や経済的困難等の理由を抱えている場合が多い。休学者は、健康上の理由で入院の必要があった学生である。

1 年生とのバランスを考え、2 学年は 32 名を基本とする 4 クラス編成とした。13 名程度を基本とするゼミを編成し、クラス担任に代わって、ゼミの担当教員がゼミ生の日常の学習・生活面から実習・就職を含めて卒業まで指導・助言を行うものとした。このように細やかな指導・助言を行ったが、精神的、経済的理由等から 2 年次でも退学者が出た。

全体的には、目的意識を持って積極的に、かつ前向きに所期の目的の達成に向けて頑張

る学生が多く、皆一様に勉強熱心であるといえる。

(3) 成果と課題（点検・評価）

平成 18 年度から平成 19 年度にかけて、「こども学科」単科に重点を置くため他の学科を募集停止にしたことによって、閉鎖の風評が埼玉県を中心とした高校に広まってしまい、平成 20、21 年度の入学希望者が募集定員の半数をやっと上回る程度までに激減するという状況となった。募集停止の理由は、こども学科以外の志願者の激減により学科設置の社会的意義が薄れたことと、「こども学科」単科に絞ることで、学生全員が同じ目的を共有し、一丸となって学びへの取り組みができるようにとの配慮からであった。しかしこの意図が受験者側に十分に伝わらなかったことが入学希望者数減少の一因であろう。

そこで本学は「学生教育や研究活動、そして地域活動への真摯に向き合う姿勢とその成果こそが、このような風評を打ち消してくれる」との、全教職員一致した意識と態度で学生教育・地域活動に積極的に臨んだ。その結果、全員の目標が明確になり、教職員も学生も「社会に求められる保育者・教育者を目指す」との一致した目的意識を持って、授業を中心にボランティア活動など、充実した教育活動を展開することとなった。この成果が地域社会に認められたことで、平成 23 年度は 127 名、平成 24 年度には 120 名の入学者を迎え、平成 25 年度の入学予定者も定員を大幅に上回る状況となっている。

一方退学者が依然として出ていることが、今後の大きな課題である。学生に問題が生じた場合、教授会において学生の動向が報告され、全教員が共通理解のもとに適切な学生指導が行われるような体制は整っているものの、事前に問題を把握し、予防的な対応が望ましいと思われる。昨今は学生が抱える問題も多様化し、経済的な問題や友人関係、精神面での問題に加え、家族の問題までもが学生の日常生活に影響を与えている。学生へのアプローチのみでは解決できない場合も多く、保護者を交えた適切な支援や対応のあり方について考慮しなければならない状況にある。そのため、学生ひとり一人の状況を把握し、適切なアドバイスによって問題解決できる環境を創る必要があると考えている。

真摯な態度や地道でひたむきな行動は、現代でも普遍的に社会に認められるものである。そのような姿勢を持ち「教育は人格と人格の触れ合いから生まれる活動である」と教職員全員で再認識することで、今後の学生教育や地域社会活動に取り組んでいかなければならない。

2 クラス担任制度

(1) クラス担任制の現状

入学当初、物理的環境や人的環境など様々な周辺の変化に不安を抱え、それ以降の大学

生活へのスムーズな移行に困難を伴う学生が年々増加する傾向にある。本学ではこれらの学生に対応するため、クラス担任制と入学前教育を取り入れている。クラス担任制では、1年生を30名程度の学級に編成し1名の担任を置いている。担任業務は、学生の把握と指導である。出席に関しても担任が出席状況を確認し、本人への指導と家庭への連絡協力の依頼等を行っている。また、定期的に指導ができるように担任が担当する「入門ゼミ」を1年次に置き、1週間に一度は必ずクラス単位で集まり、授業自体の目的はもとより、担任と担当学生の情報交換や意志の疎通を図る機会を持った。定期的に会う機会を持つことは学生の状況の把握に役だつとともに、学生の不安を取り除くことに役立った。クラス成員間の人間関係とともに学級担任との人間関係も構築でき、個に応じた指導体制の礎となった。

2年次においてはゼミに当たる「教職実践演習」および「保育実践演習」の担当者が担任としての業務に当たった。

(2) 成果と課題（点検・評価）

初年次教育の重要性が叫ばれる中、本学でも「入門ゼミ」の導入や学生個々のファイル管理などを取り入れ、個に応じた学生対応に取り組んでいる。その中心にあり欠かせない制度がクラス担任制であり、その効果を発揮している。学生は何かしらの不安を抱えた時、誰に相談して良いのかがわからない場合、更に不安を大きくすることがある。そこで担任制を置くことにより、大学内では、常に担任が傍にいてサポートしてくれるという、安心感を持つことができる。また、個を把握するために定期的な個人面談も取り入れており（1年生）、きめ細やかな指導に役立っている。学生に問題が生じた場合などには、クラス担任やゼミ担当教員は学年主任や学生部長、教務部長、学生相談室相談員、そして学長との話し合いを持つと共に、教授会において学生の動向が報告され、共通理解のもとに学生に適切な指導が行われている。学生個々のファイルは、教職員が必要な場合は自由に閲覧することが出来、情報共有に大きな力を発揮している。学生の抱える問題も多様化し、それに対する支援や対応のあり方をさらに組織的に行うために、今後も検討を継続する必要がある。

3 学外における研修

(1) 実施概要

平成24年度の学外での研修は、4月の学外オリエンテーションと、7月のディズニースタディオでのホスピタリティについての研修の2つが行われた。

まず学外オリエンテーションは、国立女性教育会館（埼玉県比企郡嵐山町）を会場として1泊2日の日程で、同級生や教職員と学外で生活を共に過ごすことで、相互理解と親睦

IV 学生生活

を深めることを目的として行われた。また、履修や単位取得、学生生活についての説明を受け、実際に時間割作成をしたり、アイスブレイクやレクリエーション活動、クラスでの活動に取り組むことを通して、今後の学生生活にスムーズに入っていけるようになることも重要な目的である。更にスポーツ大会が4月末に実施されるので、クラス集会の時間を利用して、スポーツ大会委員を含むクラス委員の選出を行った。その際には、2年生の学生会が各クラスのクラス集会に同席し、必要に応じて適宜、情報提供や助言を行った。

平成24年度の学外オリエンテーションは、このような趣旨で以下のプログラムに従って実施され、1年生120名、2年生10名、教職員15名が参加した。

○ こども学科学外オリエンテーションプログラム

平成24年4月2日(月)		平成24年4月3日(火)	
時間	内容	時間	内容
9:50	集合 羽生駅西口	6:30	起床・洗面
10:00	出発 (貸し切りバス)	7:30	朝食(本館食堂)
	羽生IC～	8:30	部屋の清掃・片付け
11:30	国立女性教育会館 着	9:00	部屋の鍵の返却、体育館へ移動
12:00	昼食(本館食堂)	9:30	研修4 レクリエーション(体育館)
13:00	研修1 会館の職員の方からのお話	11:30	着替え、食堂へ移動
13:30	開会の集い	12:00	昼食(本館食堂)
14:10	研修2 アイスブレイク 履修について 学生生活について スポーツ大会について	13:00	研修5 クラス集会 2年間の学びについて 研修の振り返り
18:00	夕食	15:00	開会の集い
19:00	研修3 クラス集会 時間割作成 クラス委員決め	16:00	出発 (貸し切りバス)
21:00	入浴・自由時間・就寝	16:40	熊谷駅着(経由)
		17:30	羽生駅西口着 解散

次に、ディズニーアカデミーの研修は東京ベイ舞浜ホテルクラブリゾートと東京ディズニーリゾートで実施した。当日は以下のプログラムに従って実施され、学生120名と教職員9名が参加した。

東京ベイ舞浜ホテルクラブリゾートでは実際に東京ディズニーリゾートで働いているキャスト(スタッフ)が講師となり、ディズニーアカデミーのテキストに基づき、キャストがゲスト(お客)に接する際に心がけている「ホスピタリティ」について学んだ。午後はワークショップでは、それぞれディズニーランドとディズニーシーに分かれて、講義で学んだホスピタリティの精神に基づいて実際にキャストがどのようにゲストと接しているかを実際にディズニーランドとディズニーシーを体験しながら学んだ。

○ こども学科学外研修プログラム

平成 24 年 7 月 6 日 (金)	
時 間	内 容
10:45	集合 東京ベイ舞浜ホテルクラブリゾート
11:00	ホスピタリティ研修
13:00	昼食
14:00	ワークショップ
18:00	解散

(2) 成果と課題 (点検・評価)

本学はクラス制を採用しているため、多くの授業や行事はクラス単位で行われる。そのためまだ入学したばかりの1年生がスムーズに大学生活を始めるにあたり、クラスでの活動を中心に行われる宿泊での学外オリエンテーションを行うことの意義は大きい。そして学生同士のみならず、食事やレクリエーションなどを通じて教職員と学生が交流する機会にもなっている。また教職員のサポートとスポーツ大会の説明をするために、学生会に所属する2年生も学外オリエンテーションに参加してくれた。2年生が様々な場面で良く気がつき、自分たちで進んで行動することにより、研修がスムーズに行われたということに加え、1年生から見ると「自分も2年生のようになりたい」と思えるような、良いロールモデルとなっていた。

前年度に続き本年度も学生会のサポートがあり、順調にスケジュールをこなすことができたので、こうした体制を確立できるようにしていきたい。

また7月に行われたディズニー研修で「ホスピタリティ」について学ぶことは、本学の学園訓である「気品」「知性」「奉仕」とも通じるところがあり、更に本学の学生と同じように、幼稚園や保育園での実習を経験しているディズニーアカデミーのスタッフが講師を務めてくれているため、研修の内容が幼稚園や保育園でどのように生かされるかを説明してくれて、学生にとって大変有意義な研修となっている。学生が楽しみながらホスピタリティについて学ぶことができる研修であるため、今後も継続して行きたいと思う。

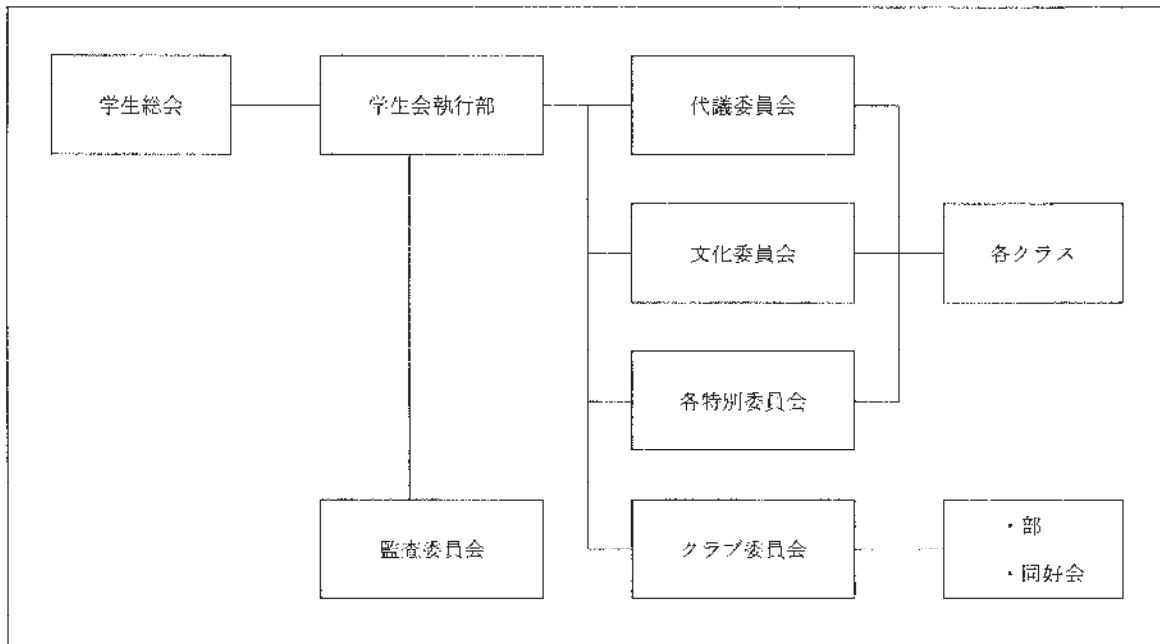
4 課外活動

(1) 学生会

○ こども学科学外研修プログラム

本学の学生会は、本学の教育精神を旨とし、学生生活の向上と充実をはかるために組織された自治組織であり、全学生が会員として加入する。また学生会執行部は、会長 1 名・副会長 2 名以内・書記 2 名・代議委員長 1 名・文化委員長 1 名・クラブ委員長 1 名・各特別委員長 1 名から構成されている。学生部長（学生委員会委員長の教員）・学生委員会委員（教員）・事務局の学生事務担当者等から指導・助言を受けながら、執行部を中心に主催行事等の企画・運営を行っている。

○ 学生会組織



(2) 学生会主催行事

① 学生会オリエンテーション

学生会では、年度当初に行われる学外研修期間内に、学生会執行部が中心となり新入生を対象にした学生会オリエンテーションを実施している。内容としては、学生会組織の説明、スポーツ大会や純真祭の説明、クラス役員を選出や研修の補助などを行った。また、競技内容の説明、エントリー方法などについて、スポーツ大会委員長を中心に説明を行った。

大学生活のイメージがまだ漠然としている新入生にとって、こうした新 2 年生が中心となって企画・実施されたオリエンテーションが行われることや補助をしている姿を見るこ

とは、本学の学風に親しみを持ち、これからの学生生活に期待を抱かせるきっかけを得る機会になっている。また、新2年生にとっては最終年度における意識の高まりと責任感を促す機会でもあり、今後も継続して行きたいと考える。

② スポーツ大会

スポーツ大会は、新入生歓迎とスポーツを通してクラスの結束を強めるのみならず、学生と教職員の交流を深めることも目的として実施されている。企画・運営は学生会執行部が中心となり、各クラブの部長や代表者、各クラスから選出された特別委員（スポーツ大会委員）と協力して準備を進めた。学年が始まったばかりの4月に開催ということで、学生生活のペースがつかめないうち、短期間で準備を行わなければならない、学生の負担は大きかったと思われた。しかし、クラスごとに準備を進め、クラス旗のコンテストやクラブ紹介などを通して、競技に参加するだけでなく、クラスメイトや担当教員と協力しながら大会を盛り上げることを体験するという、保育者・教育者を目指す本学の学生にとっての貴重な体験となっている。

③ 純真祭

純真祭は、学生会執行部、各クラスから選出された文化委員が中心となり企画・運営されている。特に地域に根ざした大学を掲げる本学にとっては、大学のみならず地域との協力を得ながら行われる、学生会主催行事の中でも最も規模の大きい行事である。学生委員会の教員が学生会執行部の活動をサポートしているが、あくまで学生主体で企画・運営が行われている。

例年秋に実施されていたスポーツ大会を今年度は4月開催とし、純真祭を10月開催に変更することによって、準備期間をしっかりと設けることが出来た。さらに教職員の助言やサポートを得ながら準備を進め、個々の学生がそれぞれに純真祭との関わりを持つことで、達成感を得られる行事となった。

○ 学生会主催行事及び学生会執行部が参加した行事一覧

月	行事名
4月	入学式・学外研修（新入生オリエンテーション）・健康診断、スポーツ大会
4月～9月	オープンキャンパス
5月	第1回学生総会
10月	純真祭
11月	ゆるキャラサミット補助
12月	第2回学生総会
1月	表現発表会
2月	リーダー研修会
3月	学位授与式、謝恩会

(3) クラブ活動

本学の部活動は学生主体の自主的な課外活動であり、一覧にあるようにスポーツ系、文化系、福祉系とその活動は多彩である。各部の活動を円滑に行うため、各部の部長や代表者がクラブ委員会を組織し、学生会執行部と連携しながら、適宜、クラブ委員会の会議を開いている。クラブ委員会では、学生会予算の中から各部に配分される予算の作成や決算の報告を行っている。

また、スポーツ系の部の中には毎年 8 月に開催される全国私立短期大学体育大会に参加し、普段の練習の成果を発揮すると共に、他大学との交流を図っている。

平成 23 年度からは、バレーボール部・バスケットボール部が山村学園短期大学との交流試合を開催しており、県内大学との更なる交流を深めている。

○ 部・同好会一覧

分類	クラブ・同好会名
スポーツ系 (7)	バレーボール・バスケットボール・フットサル・バドミントン・フィットネス・テニス、卓球
文化系 (5)	Music Lovers・軽音楽・茶道、スマイルサークル、漫画・アニメ同好会

(4) ボランティア活動

本学は地域における各種活動を積極的に展開しており、学生の地域ボランティア活動も活発に行われている。ボランティア活動の対応は、専任の職員により一元管理され、外部からのボランティア派遣要請を受け、学生への周知のための掲示及び諸連絡を行っている。

また、授業科目の中に「ボランティア概論」「ボランティア実習」の 2 科目があり、多くの学生が履修している。ボランティアを行う学生には、「ボランティア参加願」及び「ボランティア活動の記録」の提出を義務付けており、これらは「ボランティア実習」科目の評価に活用され、あわせてボランティア保険の適用にも活用されている。

平成 24 年度の実施された主なボランティア活動は、以下の通りである。

- | | |
|--------------------|--------------|
| ※ 岩瀬公民館桜まつり | 羽生市岩瀬公民館 |
| ※ キヤッセこどもまつり | 羽生市キヤッセ羽生 |
| ※ むじなもん学寮 in かわまた | 羽生市川俣公民館 |
| ※ 夏の交通事故防止運動 | 羽生警察署 |
| ※ 特別支援学校夏祭り | 埼玉県立行田特別支援学校 |
| ※ 三田ヶ谷夏休み合宿 | 羽生市立三田ヶ谷小学校 |
| ※ あいのまち 100km 徒歩の旅 | 羽生青年会議所 |
| ※ サマースクール | 羽生市立岩瀬小学校 |
| ※ ゆるキャラさみっと in 羽生 | 羽生市キャラクター推進室 |

※ 保育ボランティア

各地の保育園、幼稚園

(5) 研修活動**① リーダー研修**

2年生および1年生の学生会役員で研修会を開催した。概要および日程は以下のとおりである。

○ リーダー研修の概要

期日：平成25年3月5日～6日（2日間）
場所：210
参加者：学生会1、2年生メンバー
目的：平成25年度スポーツ大会および純真祭についての話し合い

○ リーダー研修日程

平成25年3月5日（火）		平成25年3月6日（水）	
時間	内容	時間	内容
9:30	開式 学生部長挨拶、学生会メンバー自己紹介	9:30	開会、日程確認
10:00	スポーツ大会での役割分担 昼食	10:00	1日目に話し合った内容の確認
13:30	スポーツ大会のテーマ決め	10:30	2日目の話し合う内容の確認 作業チームごとの話し合い
14:00	各作業チームワーク	12:00	昼食
16:00	報告会、2日目の作業内容の確認	13:00	セクションごとの話し合い 作業チームごとの話し合い
17:00	解散	15:00	全体での話し合い 報告会、意見交換、今後の予定の確認 (純真祭・オープンキャンパスサポート・学外研修プレゼン・卒業式およびパーティーのサポートについて)
		17:00	解散

(6) 成果と課題（点検・評価）

平成24年度は、新入生歓迎の目的としてスポーツ大会を4月開催とし、純真祭を従来の10月開催へと変更した。1月から3月にかけて施設実習が行われるなど、学生活動の困難さから短期間で準備可能なスポーツ大会を4月にしたことで、新入生の親睦となり、また2年生との良い交流の機会となった。

全国私立短期大学体育大会については、バレーボール部、バスケットボール部、バドミントン部が参加した。Aブロックに昇格したバレーボール部は、1次リーグを勝ち上がって決勝トーナメントに進出したが、惜しくも敗退している。

平成23年度から参加している「ゆるキャラサミット in 羽生」では、今年度も40名近い学生がボランティアとして参加した。

10月に開催した「第30回純真祭」においては、初めての試みとして「羽生市民フリーマーケット」を企画したが、事前の周知活動に不備があり、少数の出店となった。今後、地域交流を兼ねた活動として、事前の準備等を入念に検討する必要がある。また、東日本大震災の影響で、旧騎西高等学校（加須市）に避難されている福島県双葉町の方の招待については、3名の参加ではあったが、とても楽しんでおられたことが印象に残っている。

「学位授与式」については、式典・謝恩会会場をさいたま市のホテル開催としてから2回目となり、卒業生一人ひとりにゼミ担当教員から学位記を手渡す形式もいくつかの工夫を取り入れて行われた。例えば、保護者が学位記授与の写真が撮影できるようにスペースを設けるなど工夫をしたが、実施方法などの問題点が残されたため、今後の課題と言えよう。また午前中からの開催については、遠方から参加する学生の事情も鑑みて、今後検討したい。

5 学生生活への配慮・支援

(1) 奨学金

本学では、学生の経済的支援として毎年4月に行われるオリエンテーションにおいて、日本学生支援機構の奨学金申込みと利用説明会を行っている。そのほか、希望者には「あしなが育英会奨学金」ならびに「交通遺児育英奨学金」を紹介している。また、平成21年度から「福田南記念育英学生」を新たに創設し、経済的な理由で修学困難な学生、児童養護施設からの進学生への支援制度を充実させた。なお、本学で利用できる奨学金等の概要は以下のとおりである。

○ 奨学金等一覧

名 称	概 要
福田南記念育英学生 (1名)	埼玉純真短期大学初代学長福田南氏を記念して、子女の教育活動を経済的側面から援助し本学がめざす有為な人材育成を図ることを目的として、入学金を除く納入金の減免を行う制度である。
日本学生支援機構奨学金 (1種：16名) (2種：68名)	経済的な理由により就学困難な学生に対し、奨学金の貸与を行っている。学生の多様なニーズに合わせ、奨学金制度の充実や申請手続きの改善、また、奨学金に関する情報提供が行われている奨学金である。
あしなが育英会奨学金	1967年、あしなが育英会の「遺児と共に歩む」運動が始まり、保護者等が病気や災害に

(0名)	より死亡した学生や、後遺症のために働けなくなってしまった家族を対象にした奨学金である。
交通遺児育英奨学金 (0名)	自動車等の交通機関による事故で死亡、または後遺症のため働くことができなくなってしまった保護者等に変更、経済的に援助する奨学金である。

(2) 健康管理

身体の健康は、充実した学生生活を可能にする基礎であり、また学習を行う土台である。本学では学生の健康管理ならびに健康維持のために次のような措置をとっている。

① 保健室

学内の保健衛生と救急措置を目的として保健室を設置しているが、急に身体の変調をきたしたときや負傷の場合には、事務室に申し出て同室を利用するなどの処置を受けさせるよう努めている。

② 定期健康診断

毎年1回4月に学生の定期健康診断を実施している。検査項目は、身体測定・内科検診・胸部レントゲン撮影である。そしてこの健康診断の結果、要注意または要治療の者については、できるだけ速やかにその旨を本人または保護者に通知している。

飲酒・喫煙については、本学の学生の多くは未成年であることから、法を遵守することを理解させるだけでなく、年度当初のガイダンスにおいて、健康に及ぼす影響を説き、学業に専念できる健全な生活の維持への理解を得るように努めている。特に学生の喫煙については、保育者・教育者として児童と係わることを念頭に、学生の健康と他への迷惑を考慮し、禁じている。

(3) 保険制度

本学では、学内外で行われる授業及び実習中、学内におけるクラブ活動や学生の自主的活動中、登下校等において、学生が不慮の事故によって傷害を負った時に補償される「学生教育研究災害傷害保険」に、入学時に全員が加入し、学生事務担当者が管理している。

(4) 学生専用アパート

本学の学生の多くは埼玉県及び隣接県からの自宅通学生であるが、遠隔地からの入学生や家庭の事情により自宅外通学を希望する学生のために、民間委託の形態で学生専用アパートを設けている。

また、これらのアパート等に居住する学生のために、年2回、教職員も参加する「自宅

外通学生懇親会」を開催している。懇親会は、学生同士の親睦をはかることを第一の目的とし、1人暮らしの悩みや苦労をお互いに話したり、先輩の体験談やアドバイスが聞ける機会となっており、1人暮らしの不安を解消し今後の充実した学生生活の一助となっている。

(5) 通学の状況

本学の学生の居住地・出身地は、埼玉県下を中心に、栃木県、群馬県、茨城県などの近隣諸県から東北・信越の諸県に及んでいる。近隣諸県の自宅などから通学している多くの学生は、羽生駅までJR高崎線・宇都宮線や東武伊勢崎線、秩父鉄道秩父線などを利用し、羽生駅からはスクールバスを利用している。バスの運行時間の関係で、徒歩や自転車で通学している学生も少なくない。またアパート等に居住している学生や羽生市内に居住する学生は、徒歩や自転車で通学している。

通学に際して自転車を利用する場合には、羽生駅と学内の所定の駐輪場を利用し、学生本人が責任をもって管理することになっている。スクールバスの運行に伴い、羽生駅前の自転車駐輪場は廃止する予定である。原動機付自転車もこれに準ずるが、自動二輪車（オートバイ）については、人命に係わる事故の危険度が高いので、通学的手段としては禁止している。自動車通学に関しては、「学内自動車駐車場利用規程」を設けて学内駐車場の利用を認めている。

○ 駐輪場および駐車場の利用状況 一覧

(単位:人)

自転車駐輪場	20
自動車駐車場	65

(6) 学生相談室

学生相談室及び学生カフェは、学生生活上の悩みに直面する学生に対し、カウンセリングを中心とした専門的支援を行うことを通して、学生の成長を支えるために設置されている。本学の学生相談室では、心理・性格、心身の健康を始めとするさまざまな相談に応じているが、学生のプライバシーを守りながら、一人ひとりを尊重し個性を伸ばし可能性を探す手伝いを心がけている。本年度の概況は以下のとおりである。

○ 学生相談室の概況

相談員：稲垣 馨（専任講師）

相談場所：学生相談室及び学生カフェ

相談日時：月曜日から金曜日までの間、相談員の在室時間帯に相談活動を行っている。学生カフェは昼休みのみ。

相談体制：個人面接およびグループ面接。必要に応じて、保護者・学内教職員・医療機関との連携を取っている。

主訴別相談者実数：本年度の相談者実数は115名で、学生カフェの利用が45名、学生相談の利用が70名であった。

主訴内容は次のとおりであった。（括弧内は相談者数）

心理・性格 (59)・心身の健康 (15)・人間関係 (家族・友人・教員・その他) (37)・履修・勉学・就職 (4)

相談内容では、心理・性格についての相談（自分の適性、これからの生き方など）と人間関係についての相談（クラスやクラブでの友人関係や家族との関係）が全体の約 9 を占めた。また本年度は昨年度と比較すると、相談件数が 2 割減となったが、これは昼休みに学生カフェを利用するケースが減ったことが主な理由である。お昼に、一人でも気兼ねなく過ごせるスペースが増えたことが一つの理由ではないかと考えられる。相談員としては担当の授業時間も含めて、青年期の成長・発達に有用な心理教育を行うことで、学生のその時々ニーズに応じた対応（発達支援）を心がけた。

（7） 成果と課題（点検・評価）

遠方から本学に入学した学生はもちろん、自宅から通う学生であっても友人関係や学習など様々な悩みや問題を抱えるケースが少なくない。そのため学生相談室でのカウンセリングを利用したり、担任やゼミ担当教員に相談する学生が増えている。特に学生専用アパートで暮らす学生に対しては月 1 回程度巡視を行うとともに、半期に一度、自宅外懇親会を開き、一人暮らしにおける不安の解消に努めている。

また、個々の学生ニーズに適切に応えられるよう、教員間の情報交換や情報共有を行うとともに、教職員が一体となって支援できる体制をより一層固めることが今後必要であろう。

V 就職と進学

1 進路支援

(1) 就職指導

① 進路支援委員会の基本方針

専任教員と職員が連携しながら学生の就職・進路に対する指導ならびに支援を行っている。具体的には、原則として毎週金曜日5限に開催されているキャリアガイダンスをはじめ、個別の進路相談や履歴書の作成、作文指導、面接対策、礼状の作成など、個人の希望や性格に応じて各ゼミ担任と連携した指導と支援を行った。

本学は平成25年に開学30周年を迎えるが、毎年、学生数を大きく上回る求人を幼稚園・保育園・施設等から頂いている。それは、これまで排出してきた卒業生の多くが保育・幼児教育の現場で活躍していることや、本学の実習における指導や日頃の教育が評価されているためであると考えられる。こうした他業種に比べると恵まれた状況にあるため、学生には焦って就職先を決めるのではなく、保育方針や教育方針を良く精査した上で、自分に合った園を受験するようにアドバイスしている。また求人先と幼稚園実習・保育所実習との関わりが深いので、各実習担当との連携を密にし、また本学と求人先との関係を大切にしながら学生指導にあたった。

② 平成24年度年間就職指導計画

○ 平成24年度就職指導年間計画一覧（平成24年度卒業生対象）

期 日	ガイダンス内容
平成24年4月20日	キャリアガイダンス、進路登録票、履歴書の返却指導、卒業生職場説明会準備
5月11日	卒業生を招いての講演会
6月15日	キャリアガイダンス、園訪問、出身高校への御礼状
6月22日	キャリアガイダンス、園訪問、栃幼連、群私保群私幼、分科会
7月20日	キャリアガイダンス、ホームカミングデー、指導方針、全埼玉私幼、栃幼連等分科会
9月28日	進路希望調査について、園見学について
10月19日	キャリアガイダンス、就職活動状況
11月9日	キャリアガイダンス、内定決定後の過ごし方
12月14日	内定決定後の過ごし方
平成25年1月18日	卒業生を招いての講演会
1月24日	春休みの過ごし方／研修について
随 時	履歴書作成、就職活動（連絡・見学等）相談、模擬面接等

○ 平成24年度就職指導年間計画一覧（平成25年度卒業予定者対象）

期 日	ガイダンス内容
平成24年11月16日	履歴書作成について、今後の取り組みについて
平成25年1月18日	卒業生を招いての講演会

③ 就職指導内容

2年生に対しては、4月に開催した第1回キャリアガイダンスにおいて、進路登録カードにその時点での進路希望や進路決定に関する悩みや、親と進路についてどのように話しているか等を記入させた。進路登録カードは進路支援担当事務職員が管理し、学生一人ひとりの希望や性格に応じた指導を行うために適宜活用した。キャリアガイダンスでは、就職活動のスケジュールを最初に説明し、就職活動に臨むにあたっての心構え、マナー、といった基本的な指導に加え、公務員等試験対策、履歴書作成、内定後の過ごし方等、実践的な指導をした。また、日常的な支援としては、学生の居住地によっては求人が少ない地域があるので、そうした地域における求人先の開拓、求人票や情報の収集整理、相談に訪れた学生に対する個別の指導・対応を行った。特に、各職種・領域については、進路支援委員の専門性に応じて、私立幼稚園・保育園希望、施設職員希望等、各領域の指導を担当する教員を決め、全体指導ならびに個別指導を行った。

④ 就職関連諸会合への参加

平成24年度も埼玉県はもちろん、群馬県や栃木県など、近県で開催される進路関連の情報交換会や連絡会等に、進路支援担当の教職員が参加した。こうした諸会合に参加することで、埼玉県をはじめ隣接県の幼稚園・保育所の採用時期や試験内容に加え、学生に求められる専門的な技術・知識や保育者・教育者として必要な資質を把握し、それを学生指導に活かしている。

また統一試験や就職説明会を設けている地域の就職活動については、開催日程等をできるだけ早く学生に周知し、学生が実習等の予定を考えながら事前準備を行うことができるようにしている。近年はこうした就職関連の会合等を実施する地域が増える傾向が見られるので、近隣県の情報収集に努めたい。

(2) 平成24年度就職状況

① 就職決定状況

○ 平成24年度卒業生進路一覽

(平成25年3月31日現在・単位：人)

		こども学科		合計
		乳幼児保育コース	こども学コース	
学生数		117	0	117
就職希望者数		103	0	103
就職先	小学校	—	0	0
	幼稚園	43	0	43
	保育園	55	—	55
	その他の施設	1	0	1
	図書館	0	0	0
	企業	4	0	4
未決定者		0	0	0
進学者希望		8	0	8
その他		6	0	6

② 就職先等内訳及び就職先一覧

	就職内定先			
幼稚園	杉の子幼稚園 松原幼稚園 原山文化幼稚園 古河白梅幼稚園 うさぎ幼稚園 五霞幼稚園 新宿幼稚園 楠エンゼル幼稚園 栗橋さくら幼稚園 大平みなみ幼稚園	ひばり幼稚園 清浄院幼稚園 まつたけ幼稚園 かわたや幼稚園 乙女幼稚園 金久保幼稚園 花咲幼稚園 幸手ひまわり幼稚園 あかつき幼稚園 菁莪幼稚園	行田幼稚園 宮原幼稚園 山辺幼稚園 関宿幼稚園 花園幼稚園 春山幼稚園 やごう幼稚園 しらゆり幼稚園 青葉台あけぼの幼稚園	さかえ幼稚園 妙巖寺幼稚園 野ばら幼稚園 幸手さくら幼稚園 ひかり幼稚園 成田幼稚園 杉戸白百合幼稚園 久喜みなみ幼稚園 あけぼの幼稚園
保育所	そうか草花保育園 鷺宮保育園 育成館保育園 さくら保育園 稲荷町保育園 新宿保育園 須影保育園 百間保育園 エンゼル保育園 住古第二保育園 あゆみ保育園	わかば保育園 やなぎ保育園 上三川幼児園 いちご保育園 いずみ保育園 大畑幼児園 白鳩保育園 岩槻さくら保育園 つばさ保育園 太陽と青空保育園	こぼと保育園 羽生市保育所 青柳保育園 明星保育園 渡瀬保育園 三芳元気保育園 きむら保育園 みつまた保育園 なでしこ保育園 まごやま保育園	古川保育園 清恵保育園 太陽保育園 国神保育園 緑の森保育園 紅花保育園 双葉保育園 ふじあく保育園 おおしか保育園 あいう園浦和美園駅前 保育園
施設等	光の家療育センター さいたま市 社会福祉事業団	ケヤキホーム	子供の町	久喜市学童保育所

(3) 成果と課題（点検・評価）

平成 24 年度卒業の学生においては、キャリアガイダンスでの全体指導に加え、一人ひとりの希望に応じた個別のアドバイスや指導を行い、その結果として就職希望者全員が就職することができた。そうした成果の要因としては、進路支援委員会と各ゼミ担当の教員が情報を共有し連携をとりながら、その学生に適した方法できめ細かなアドバイスや支援を行ったことが大きいと思われる。

周りの学生が進路を決めていく中で希望する就職先の求人の時期が遅く、「自分は決まるのだろうか」と心配して待っていた学生や、不合格のため何度か就職試験を受けることになった学生が数名いたが、教職員が声をかけながら学生の気持ちを念頭に置いた指導を行うことで、最終的には進路を決定することができた。

また中には実習がうまくいかなかったことや、園との相性が合わなかったために、幼稚園や保育園への就職に対して必要以上に不安になっている学生がいた。そうした学生に対しては、実習先が全てはないということ、そして必ず自分に合った園があることを学生に話すとともに、進路支援委員会・実習指導委員会・ゼミ担当教員の三者が情報共有ならびに連携を取りながらサポートした。

今後、学生数が増えたとしても、こうした丁寧な指導が出来るよう支援体制を更に強化するとともに

に、社会情勢の変化や保育・幼児教育を取り巻く状況の変化に対する情報収集を常に行うことで、時代の変化に対応した支援が出来るようにしたい。

2 進学

(1) 編入学

平成 24 年度も本学を卒業後、4 年制大学に編入学を希望する学生がいた。4 年制大学への編入学を希望する学生に対しては、本学で取得できる免許状（小学校教諭・幼稚園教諭）や資格（保育士）、編入先でどのような単位が認定されるかによって何年次に編入が可能か決まるので、それらを考えながら編入学先を選ぶように指導した。こうした学生には、進路支援委員会の教職員がその専門に応じて個別に指導している。

（平成 25 年 3 月 31 日現在・単位：人）

編入学	聖徳大学児童学部児童学科第二部 3 年次編入	1
編入学	東京経済大学コミュニケーション学部コミュニケーション学科 3 年次編入	1
編入学	埼玉学園大学人間学部子ども発達学科 3 年次編入	1

(2) その他の進学

保育・幼児教育以外の学科への進学を考えている学生に対しては、何故その学科を受験するのかをきちんと整理させた上で、卒業後はどういった進路に進むのかも見据えて進学先を選ぶように指導した。そうした学生に対しても進路支援委員会の教職員が個別に対応している。

また科目等履修生となる学生については、今後の見通しをきちんと持ち高い意欲を持って学ぶように指導した。

（平成 25 年 3 月 31 日現在・単位：人）

進学	本学科目等履修生	3
留学	清心神学大学院付属真の父母言語教育院（韓国）	1

(3) 成果と課題（点検・評価）

保育・幼児教育についてより深く学びたい、あるいは新しい分野に対する興味から他学科で学びたい、という理由で、毎年数名の学生が編入学や進学を希望している。年度によって編入学を希望する学生の人数や希望する進学先は様々であるため、学生の話をよく聞きながらゼミ担当の教員とも情報共有しながら指導にあたることが大切であると考え。学生がそれぞれ希望する進学先に進学できたという点から、一定の目標を達成できたと言えよう。

3 卒業生への支援

本学では毎年、前年度の卒業生を対象とした「ホームカミングデー」を開催している。平成 24 年度は、8 月 26 日（日）に本学のカフェテリアで開催され、昨年度の卒業生の約 70%にあたる 60 余名

が出席した。これまでのホームカミングデーは卒業生同士あるいは卒業生と教職員との懇親のみで終わっていたが、今年度は卒業生の早期離職の予防とリカレント教育の一端として、本学の実習の事務担当である実務経験者2名による講演会を初めて取り入れた。それぞれ保育士、幼稚園教諭としての実務経験を有しており、初任者時代の経験の話や、手遊び等の実技のアドバイスをしてもらった。これまでの様に就職後の様子や悩みを聞く機会に加え、学生にとって日々の保育・教育に役立つ有意義な時間になったと思われた。

来年度は本年度の内容を更に発展させられるように、教職員でアイデアを出しながら計画を立てていきたい。

VI 教員の研究活動及び社会的活動

1 研究活動

(1) 研究活動の概要

本学教員は、日々の講義や実習指導等の教育活動やそれに伴うさまざまな校務に従事する一方で、それぞれの専門分野の領域の研究活動、講演、制作活動においても意欲的に取り組んでいる。「埼玉純真短期大学研究論文集」をはじめ、その他の雑誌、著作や講演、制作等の形で発表された本年度の教員の成果の一端は以下の通りである。

(2) 専任教員の研究業績

○ 研究業績一覧

専任教員名	研究業績
阿部 峰雄	<p>【執筆】</p> <p>司書養成課程の袋小路 図書館雑誌 2012.</p> <p>平成の大合併と公立図書館設置率の動向；図書館振興策との関連で、埼玉純真短期大学研究論文集第6号、埼玉純真短期大学図書館情報委員会 2013, p.1-12.</p>
安倍 大輔	<p>【執筆】</p> <p>地域で遊ぶ、地域で育つ子どもたち一遊びから「子育て支援」を考える一、学文社 2013.</p> <p>第1部「2 子どもの心とからだは遊びを通じてどのように育っていくのか」のうち「4 子どものからだはどのように育っていくのか〜6 おわりに」、pp.34-42.</p> <p>第3部「1 子どもがスポーツで『遊ぶ』機会を!」、pp.130-144.</p> <p>叢書 児童文化の歴史 第3巻 児童文化と子ども文化 2013, 港の人</p> <p>解題「増山均『子どもの学校外教育を豊かにする視点』」, 2013, pp.120-122.</p>
伊藤 道雄	<p>【執筆】</p> <p>通常の学級においてどのように障害児理解教育を進めるか、特別支援教育ハンドブック 第一法規 2013.</p> <p>埼玉純真短期大学第二回研究セミナー報告書 2013.</p> <p>第2回埼玉純真短期大学研究セミナー報告(概要)、埼玉純真短期大学研究論文集第6号、埼玉純真短期大学図書館情報委員会 2013, p.71-88.</p>
稲垣 馨	<p>【執筆】</p> <p>「理論と子どもの心を結ぶ保育の心理学」、保育出版社、2012, p.47-50, 153-156.</p> <p>「実践・発達心理学」みらい、2012, p.108-123.</p> <p>「コミュニティ協働型ファミリー・リソース・プログラムの構築と実践祖父母世代と子育て世代を軸にした多世代交流家族支援システム」研究助成論文集通巻 47</p>

VI 教員の研究活動及び社会的活動

	<p>号（2011年度）明治安田こころの健康財団 2012,</p> <p>・情動交流のあいだにあるカウチ 精神分析研究 Vol.57 No.2, 2013,</p> <p>「校種間の文化の違いから見た、育ちに困難を抱える子どもへの支援の在り方 保育士、小・中学校教諭に対するインタビュー結果を手がかりに」</p> <p>埼玉純真短期大学研究論文集第6号, 埼玉純真短期大学図書館情報委員会 2013（印刷中）.</p> <p>【研究発表】</p> <p>「子育て支援を支援者側から理解する ケアと世代性という視点」 日本保育学会 第65回大会 口頭発表, 5・2012.</p> <p>明治安田生命こころの健康財団研究発表会 口頭発表, 7・2012.</p>
入江 良英	<p>【研究発表】</p> <p>K.マンハイム—唯物論と唯精神(心) 論を超えて 日本社会学史学会 6・2012.</p>
牛込 彰彦	<p>【執筆】</p> <p>保育所実習における学生の自己評価と実習評価の関係. 埼玉純真短期大学研究論文集第6号. 埼玉純真短期大学図書館情報委員会 関根印刷所 2013, p.25-40.</p> <p>「子ども大学はにゅう」を開催して, 埼玉純真短期大学研究論文集第6号. 埼玉純真短期大学図書館情報委員会 2013, p.89-92.</p> <p>【研究発表】</p> <p>保育所実習における自己評価と実習評価の関係2 全国保育士養成協議会第51回研究大会 9・2012.</p>
小澤 和忠	<p>【演奏活動】</p> <p>コンサート「クリスマスへのプロローグコンサート」共同企画・出演</p> <p>独奏：ベートーヴェン作曲 op.57「情熱」第3楽章</p> <p>連弾：ベートーヴェン作曲交響曲第5番「運命」第1楽章</p> <p>パストラルかぞ小ホール 12・2012.</p>
齋藤 史夫	<p>【執筆】</p> <p>うばわないで！こども時代, 増山均・齋藤史夫共編著 新日本出版社, 2012.</p> <p>子どもの考える遊びの現状と課題—東京都と隣接する四県・五小学校全在籍児童アンケート調査から, 深作拓郎代表編著. 地域の中で遊ぶ、地域で育つ子どもたち 学文社, 2012, pp.160-172.</p> <p>みんなで21世紀の未来をひらく教育のつどい分科会報告 23「文化活動・図書館」</p> <p>みんなで21世紀の未来をひらく教育のつどい教育研究集会 2012 実行委員会編・日本の民主教育 大月書店, 2012, pp.271-273.</p> <p>大学授業における研究者と学生による共同研究の可能性—短期大学教員養成課程における「算数的活動」教材化研究 , 埼玉純真短期大学研究論文集第6号. 埼玉純真短期大学図書館情報委員会 2013, pp.47-55.</p> <p>【研究発表】</p>

VI 教員の研究活動及び社会的活動

	学童保育と小学生の自己認識・遊び―首都圏 5 小学校の全校児童アンケートから 日本学童保育学会第 3 回研究大会 6・2012.
関根 久美	【研究発表】 幼稚園実習における実習指導について 全国保育士養成協議会第 51 回研究大会 9・2012.
細田 香織	【執筆】 定時制高等学校に通う生徒への『絵本の読み聞かせ』の有用性 I―自己理解・他者 理解・ノーマライゼーションの理解への一助として―. 埼玉純真短期大学研究論文集 第 6 号. 埼玉純真短期大学図書館情報委員会. 2013, p.57-69. 埼玉純真短期大学第二回研究セミナー報告書 2013.
安村 由希子	【執筆】 聞き取り能力の向上に向けて:語彙指導を用いて. 埼玉純真短期大学研究論文集第 6 号. 埼玉純真短期大学図書館情報委員会 2013, p.41-46.
藤田 利久	【執筆】 保育士・幼稚園教諭養成機関における社会人マナーの必要性 I. ヒューマンスキル 研究 4・2012, 20.

(3) 専任教員の所属学会

○ 所属学会一覧

氏名	所属学会
浅井 広	日本保育学会・関東教育学会・野外文化教育学会
安倍 大輔	日本体育学会・日本スポーツ社会学会・日本福祉文化学会・日本子ども社会学会 日本体育・スポーツ政策学会
阿部 峰雄	日本図書館研究会・日本図書館情報学会
伊藤 道雄	日本 LD 学会 特殊教育学会
稲垣 馨	日本心理臨床学会・日本精神分析学会・日本質的心理学会・日本保育学会
人江 良英	日本教育社会学会・日本社会学史学会・日本社会理論学会・日本発達障害学会
牛込 彰彦	日本神経科学会・日本生理学会・日本薬学会・日本赤ちゃん学会
小澤 和恵	全国大学音楽教育学会・日本音楽療法学会・日本ダルクローズ音楽教育学会
齋藤 史夫	日本アドラー心理学会・日本社会教育学会・日本福祉文化学会(評議員選挙管理委員 長)・日本学童保育学会・早稲田大学文学学術院教育学会
関根 久美	日本保育学会
高橋 努	日本社会福祉学会・日本高齢者虐待防止学会・立正社会福祉学会(評議員)
藤田 利久	秘書サービス接遇教育学会

細田 香織	日本国語教育学会・人文科教育学会・筑波大学 日本語日本文学会
安村 由希子	日本LD学会・日本コミュニケーション障害学会・日本発達障害支援システム学会

2 社会的活動

短期大学教員の職務の第一は、学内における教育および研究であるが、その他にそれぞれの専門を活かして、学外の地域社会においてさまざまな形で貢献することもその職務のひとつである。本学においても、多くの教員がそれぞれの専門領域において、地域社会に講師・助言者等として貢献している。本年度の実施状況および各種団体の所属の一端は以下の通りである。

(1) 講師・助言者等の実施状況

○ 講師等実施状況一覧

氏名	活動
浅井 広	発達障害とその対応 講師 ボランティア養成講座 埼玉県立騎西特別支援学校 6・2012 幼稚園と保育園の今昔 講師 埼玉純真短期大学公開講座 埼玉純真短期大学 6・2012 幼児教育課程論 講師 埼玉純真短期大学プレカレッジ 12・2012
安倍 大輔	日本レクリエーション協会 全国研究集会 実行委員 6・2012. 講師 「キャリアデザイン研修会」レクリエーションプログラム担当 埼玉県短期大学協会 9・2012. 講師 子ども大学はにゅう 9・2012. スペシャリストに学ぶ レクリエーションプログラム担当 誠和福祉高等学校 11・2012. 大人も子どももいきいきレクリエーション 講師 埼玉純真短期大学公開講座 7・2012. 子どものからだと遊びについて 講師 埼玉純真短期大学プレカレッジ 1・2013.
伊藤 道雄	<講演会> 校内で特別支援教育を推し進めるにあたって 講師 羽生市立西中学校校内研修会 羽生市立西中学校 4・2012 この子らに学ぶ 講師 児童養護施設あゆむ会校内研修会 あゆむ会 4・2012 特別支援学校・特別支援学級の授業づくり 講師 埼玉県特別支援教育研究会総 記念講演会 埼玉大学附属特別支援学校 6・2012 子どもたちに学ぶ～多くの子どもに導かれて～ 講師 埼玉県立和光特別支援学校 PTA 進路指導講演会 和光特別支援学校 7・2012 配慮を要する子の支援のあり方 講師 さいたま市立植竹小学校学習支援ボランテ

VI 教員の研究活動及び社会的活動

<p> ィア講演会 植竹小学校 7-2012 特別支援教育とは！～多くの子どもに導かれて～ 講師 埼玉県立総合教育センター-特別支援学級担当者育成研修会 埼玉県立総合教育センター 7-2012 青年期における発達障害児への支援！ 講師 埼玉県立特別支援学校さいたま桜高等学園公開講座 さいたま桜高等学園 7-2012 事例研究:発達障害児童生徒への関わり方 講師 羽生市教育心理相談研究部夏期研修会 羽生市市民プラザ 8-2012 障がいのある子とのふれあいから学ぶこと 講師 埼玉県立行田特別支援学校ボランティア養成公開講座講演会 行田特別支援学校 8-2012 どの子にも寄りそう学級経営と授業づくり～知的障害のある子の授業から 講師 埼玉県立行田特別支援学校公開講座講演会 行田特別支援学校 8-2012 今日的な特別支援教育の動向～就学・交流・学級経営～ 講師 羽生市特別支援教育研究部夏期研修会 埼玉純真短期大学 8-2012 特別支援教育を推進する校内体制のあり方 講師 行田市管理職(教頭)研修会講演行田市教育文化センターみらい 8-2012 子どもの困り感に寄りそう 講師 加須市立北川辺中学校校内研修会 加須市立北川辺中学校 8-2012 子どもの困り感に寄りそう 講師 さいたま市立見沼小学校校内研修会 さいたま市立見沼小学校 8-2012 特別支援教育から学ぶもの 講師 さいたま市立片柳小学校校内研修会 さいたま市立片柳小学校 8-2012 子どもの困り感に寄りそう 講師 さいたま市立日進小学校校内研修会 さいたま市立日進小学校 8-2012 特別支援教育から学ぶ 講師 さいたま市立針ヶ谷小学校校内研修会 さいたま市立針ヶ谷小学校 8-2012 就学相談委員の専門性 講師 羽生市就学相談委員会事前研修会 羽生市市民プラザ 11-2012 高等学校における特別支援教育の取り組み 講師 埼玉県立特別支援学校羽生ふじ高等学園コーディネーター公開講座 羽生ふじ高等学園 12-2012 子どもの幸せを願って～キャリア教育を考える～ 講師 埼玉県立春日部特別支援学校 PTA 進路指導研修会 春日部特別支援学校 1-2013 学ぶ意欲を高め、自ら考える力を育む学習指導法の工夫改善～今こそ特別支援教育というあたり前の教育に～ 講師 久喜市立青毛小学校校内研修会 久喜市立青毛小学校 1-2013 子どもたちから学ぶ～今こそ特別支援教育というあたり前の考えを～ 講師 北足立北部特別支援教育研究会研修会(上尾市教育研究会) 上尾市立文化センター 2-2013 共に研究に携わって～キャリア教育を考える～ 講師 埼玉大学教育学部附属特別支 </p>

VI 教員の研究活動及び社会的活動

	<p>援学校第4 2回研究協議会 埼玉大学附属特別支援学校 2-2013</p> <p><助言者></p> <p>「交流及び共同学習」分科会 指導助言 埼玉県特別支援教育研究会研究協議会 東松山市民文化センター 8-2012</p> <p>「早期教育と保・幼・小の連携」分科会 指導助言 全日本特別支援研究連盟全国大会 北海道大会 札幌市立三宅幼稚園 9-2012</p> <p>北埼玉特別支援教育研究協議会 指導助言 行田市地域文化センター 1-2013</p> <p>東部教育事務所授業のエキスパート 指導助言 越谷市立西方小学校 1-2013</p> <p>埼玉大学教育学部附属特別支援学校第4 2回研究協議会中学部分科会 指導助言 埼玉大学附属特別支援学校 2-2013</p> <p>障害のある子の子育てから学ぶ 講師 埼玉純真短期大学公開講座 7-2012</p> <p>特別支援教育・困り感に寄り添って 講師 埼玉純真短期大学プレカレッジ 2-2013</p> <p>学校評議員 さいたま市教育委員会巡回相談 さいたま市立日進小学校 7-2012</p> <p>相談員 羽生市教育委員会巡回相談 羽生市立手子林小学校 11-2012</p> <p>相談員 羽生市教育委員会巡回相談 羽生市立井泉小学校 12-2012</p> <p>相談員 羽生市教育委員会巡回相談 羽生市立東中学校 12-2012</p> <p>学校評議員 さいたま市教育委員会巡回相談 さいたま市立日進小学校 2-2013</p> <p>子ども大学はにゅう 実行委員長</p> <p>専門性を生かした指導 話題提供者 埼玉純真短期大学研究セミナー特別支援学級・通級指導教室・特別支援学校分科会 2-2013</p>
<p>稲垣 馨</p>	<p>埼玉県教育委員会委託巡回相談員（西中・南中・岩瀬小）</p> <p>須影保育園おしゃべりタイム（子育て支援）4-2012, 6-2012, 10-2012, 2-2013</p> <p>あゆみ学園研修会講師 6-2012</p> <p>ノーバディーズ・パーフェクト実施（子育て支援）2-2013, 3-2013.</p> <p>「子育てお助け隊 基礎編」講師 埼玉純真短期大学 公開講座 6-2012.</p> <p>「心理学入門」 埼玉純真短期大学 プレカレッジ 3-2013.</p>
<p>人江 良英</p>	<p>ドイツ語超入門① 講師 埼玉純真短期大学公開講座 6-2012.</p> <p>ドイツ語超入門② 講師 埼玉純真短期大学公開講座 6-2012.</p> <p>ドイツ語超入門③ 講師 埼玉純真短期大学公開講座 6-2012.</p> <p>ドイツ語超入門④ 講師 埼玉純真短期大学公開講座 6-2012.</p> <p>保育原理入門 埼玉純真短期大学プレカレッジ 12-2012.</p>
<p>牛込 彰彦</p>	<p>漢方薬ってなあに？ 講師 埼玉純真短期大学公開講座 埼玉純真短期大学 6-2012</p> <p>相談員 羽生市教育委員会巡回相談 羽生市立村君小学校 1-2013</p> <p>個別の支援について 講師 羽生市教育委員会巡回相談 羽生市立南小学校校内研修会 1-2013</p>

VI 教員の研究活動及び社会的活動

	<p>個別の支援について 講師 羽生市教育委員会巡回相談 羽生市立新郷第二小学校 校内研修会 2-2013</p> <p>子どもの気持ちに寄り添う 話題提供者 第2回埼玉純真短期大学研究セミナー第2 分科会 2-2013</p> <p>保育・教育実習入門 講師 埼玉純真短期大学ブレカレッジ 1-2013</p> <p>保育・教育実習入門 講師 埼玉純真短期大学ブレカレッジ 2-2013</p>
<p>小澤 和恵</p>	<p>1曲弾ければあなたもピアニスト 講師 埼玉純真短期大学公開講座 6-2012.</p> <p>1曲弾ければあなたもピアニスト 講師 埼玉純真短期大学公開講座 6-2012.</p> <p>1曲弾ければあなたもピアニスト 講師 埼玉純真短期大学公開講座 7-2012.</p> <p>1曲弾ければあなたもピアニスト発表会 講師 埼玉純真短期大学公開講座 7-2012.</p> <p>分科会 話題提供者 第2回埼玉純真短期大学研究セミナー 2-2013.</p> <p>弾き歌いとピアノレッスン 講師 埼玉純真短期大学ブレカレッジ 1-2013.</p> <p>弾き歌いとピアノレッスン 講師 埼玉純真短期大学ブレカレッジ 2-2013.</p>
<p>齋藤 史夫</p>	<p>ふみちゃんのびっくり算数教室：こんなにすごかった！はやぶさ君・宇宙の旅ー1 億分の1の世界から体験する・はやぶさ君の宇宙旅行ー1.つくろう1億分の1の地 球・月・2.イトカワ・ハイキングー歩いてみよう太陽・イトカワまで1億分の1の距 離 講師 熊本県上天草市みつる保育園・学童保育・集いの広場 4-2012.</p> <p>作ってみよう～羽生キャラクターが次々あらわれる不思議な正六角形～ 講師 埼 玉純真短期大学公開講座 埼玉純真短期大学 6-2012.</p> <p>分科会 23「文化活動・図書館」 共同研究者 みんなで21世紀の未来をひらく教育 のつどい教育研究集会 8-2012.</p> <p>ひねって、はって、切ってビックリ メビウスの帯 講師 子ども大学はにゅう 10-2012.</p> <p>楽しい科学ー飛び出すカードづくり 講師 埼玉純真短期大学ブレカレッジ 埼玉 純真短期大学 3-2013.</p> <p>ふみちゃんのびっくり算数教室：数で遊ぼう・計算で遊ぼうーフィーバー・17段目 の秘密・計算ぬり絵 講師 熊本県上天草市みつる保育園・学童保育・集いの広場 3-2013.</p> <p>ふみちゃんのびっくり算数教室：どんな形も同じちゃおうーいろんな形・重心で遊ぼ う 講師 熊本県上天草市みつる保育園・学童保育・集いの広場 3-2013.</p>
<p>関根 久美</p>	<p>お話し会ボランティア養成講座 講師 羽生市図書館講習会 11-2012.</p> <p>子どもも喜ぶ「しかけ絵カード」を楽しむ 講師 埼玉純真短期大学公開講座 6-2012.</p> <p>子どもと文化（節分） 講師 埼玉純真短期大学ブレカレッジ 2-2012.</p> <p>子どもと文化（ひな祭り） 講師 埼玉純真短期大学ブレカレッジ 3-2012.</p>
<p>高橋 努</p>	<p>地域で支えよう～社会的ネグレクトを考える～ 講師 埼玉純真短期大学 公開講 座 6-2012.</p> <p>相談員 羽生市特別支援教育巡回支援 羽生市立三田ヶ谷小学校 11-2012.</p>

VI 教員の研究活動及び社会的活動

	<p>対応の難しい子どもへの支援 児童養護施設「あゆみ学園」職員研修 11・2012. 相談員 羽生市特別支援教育巡回支援 羽生市立新郷第一小学校 12・2012. 相談援助 講師 埼玉純真短期大学プレカレッジ 3・2013.</p>
藤田 利久	<p>建学の精神を理解する 講師 埼玉純真短期大学プレカレッジ 1・2013. 建学の精神を理解する 講師 埼玉純真短期大学プレカレッジ 1・2013. ヒューマンスキルの教育 助言者 秘書サービス第18回研究会 8・2012 大学職員の心得 講師 福島学院大学 FD 研修会 10・2012 リーダーの心得 講師 羽生ロータリークラブ 2012.</p>
細田 香織	<p>子育てお助け隊 実践編～読み聞かせの巻～ 講師 埼玉純真短期大学公開講座 埼玉純真短期大学 6・2012. 言語活動の充実について 講師 羽生市教育研究会 羽生市産業文化会館 7・2012. 自己理解・他者理解・ノーマライゼーションを伝える絵本の読み聞かせ 道徳授業 講師 茨城県立結城第二高等学校 9・2012. 日本語表現入門講座 埼玉純真短期大学プレカレッジ 埼玉純真短期大学 12・2012. 自己理解・他者理解・ノーマライゼーションを伝える絵本の読み聞かせ 特別活動授 業 講師 埼玉県立羽生高等学校 1・2013. 子育て支援活動（読み聞かせ・わらべ歌・昔話等について講話・座談） 須影保育園 4・9・1・2013. 基調講演・話題提供者 第2回埼玉純真短期大学研究セミナー 羽生市産業文化会 館・埼玉純真短期大学 1・2013.</p>
安村 由希子	<p>こんなときどうする？～気になる子どもへの対応方法を考えよう～ 講師 埼玉純 真短期大学公開講座 7・2012. 特別支援保育～こんな時どうする？～ 講師 埼玉純真短期大学プレカレッジ 3・2013.</p>

(2) 専任教員の諸団体への所属状況

○ 諸団体への所属状況 一覧

氏名	所属団体
安倍 大輔	日本子どもを守る会常任理事
阿部 峰雄	日本図書館協会 羽生市図書館協議会 新潟県聖籠町図書館建設委員会
伊藤 道雄	埼玉県特別支援教育研究会 参与 日本生活中心教育研究会 会員 さいたま市立日進小学校 学校評議員 埼玉大学教育学部附属特別支援学校 学校評議員

VI 教員の研究活動及び社会的活動

	埼玉県立特別支援学校就労支援総合推進事業就職支援アドバイザー 全日本特別支援教育研究連盟 個人会員 全日本特別支援教育研究連盟編雑誌「特別支援教育研究」編集委員 授業のユニバーサルデザイン研究会 会員 羽生市立小中学校就学支援委員会委員 (4・2012～) 羽生市特別支援教育巡回支援員 (11・2012～)
稲垣 馨	日本精神分析協会研修生・九州臨床心理士ネットワーク (KCPN) 会員
牛込 彰彦	NPO 法人脳の世紀推進会議会員・社会福祉法人「共愛会」第三者評価委員
小澤 和志	羽生市女性会議会長・羽生市都市計画審議会委員
齋藤 史夫	『子ども白書』編集委員会事務局長・静岡少年少女センター副運営委員長 (研究部)
関根 久美	玉川大学保育実践研究会
高橋 努	特定非営利活動法人 埼玉チームケアさぼーと (理事)・立正大学社会福祉学部同窓会 (代議員)・日本社会福祉士会・日本社会福祉士会埼玉県支部・埼玉県介護支援専門員協会・介護福祉・教育・実践研究会
藤田 利久	日本私立短期大学協会 埼玉県私立短期大学協会 日本秘書協会 羽生市学びあい夢プロジェクト協議会 羽生市子育て協議会

(3) 他大学等の非常勤講師等の兼務状況

○ 学外兼務状況一覧

氏名	学外兼務先
安倍 大輔	浦和大学総合福祉学部 非常勤講師, 立教女学院短期大学 非常勤講師
稲垣 馨	お茶の水女子大学 心理相談室相談員
齋藤 史夫	日本工学院八王子専門学校スポーツカレッジ、幼稚園教諭・保育士コース 非常勤講師・近畿大学豊岡短大通信教育部 非常勤講師
関根 久美	千葉敬愛短期大学 非常勤講師
高橋 努	学校法人服部学園服部栄養専門学校 非常勤講師, NHK 学園 非常勤講師

3 成果と課題 (点検・評価)

短期大学の教員は、教育活動はもとより研究活動も並行して行わなければならない。このため本学では教員は1年間に、著作・論文執筆・学会発表の内、最低1本を遂行義務としている。これら教員の研究活動は、学生教育に還元できなければならないと考えている。この点から見ても本学教員の研究活動に関しては、それぞれの教員が専門分野で著作・論文執筆・講演活動等に意欲的に取り組んでおり、それを学生教育に還元しているといえる。

また、本学のような地域に根ざした短期大学の任務のひとつに地域社会への貢献が挙げられる。この点においても本学の教員は、学会活動はもとより地域社会における活動にも

積極的に参加していることは評価に値する。今さらに、こうした状況を踏まえた実践的な研究の在り方も追究する必要があると考えられる。

教員の研究を支える環境を考えた場合、本学が決して十分な環境を提供しているとは言いがたく、今後、外部からの研究費獲得を含めて研究費の充実や研究時間の確保などを課題と捉え、研究に適した環境を整えていきたいと考える。

VII 地域貢献活動

1 活動の概要

本学は地域連携を重視し、地域の短期大学（コミュニティーカレッジ）としての役割を標榜して、教育活動を行っている。

平成 22 年に、羽生市教育委員会との協力のもとに、「羽生市学びあい夢プロジェクト」を立ち上げた。これは市内にある、本学をはじめ、県立学校 5 校（(高等学校 4 校、特別支援学校 1 校)、中学校 3 校、小学校 11 校のほか、私立幼稚園、公私立保育園、児童養護施設などの教育機関が連携し、教職員、学生・生徒・児童や保護者などが、相互に交流し、教育の質を高めようと発足したものであり、本学の地域貢献活動推進の源となっている。

本年度の大学としての地域貢献の主な取り組みは、従来から実施していた事業としては、以下のものがある。

- ① 「市民公開講座」27 講座の開催
- ② 羽生市内の全小中学校を対象とした特別支援教育巡回相談事業への教員の派遣
- ③ 羽生市立川俣小学校の児童の宿泊合宿への学生の協力
- ④ 県立羽生水族館を会場として実施している「じゅんしん幼稚園」の開催
- ⑤ 埼玉県、羽生市教育委員会との共同事業である「子ども大学はにゅう」の実施など

「子ども大学はにゅう」の取り組みについては、文部科学省と国立教育政策研究所社会教育実践研究センターが主催する「平成 24 年度社会教育主事専門講座」のシンポジウムに本学職員がパネリストとして参加し、実践内容を発表した。

また新たな取り組みとしては、以下のものがある。

- ① 羽生市立羽生南小学校 1 年生の「大学 1 日入学」の実施
- ② 羽生市立三田ヶ谷小学校の児童の宿泊合宿への学生の協力
- ③ 「子ども支援センター」の開設など

「子ども支援センター」事業は、地域の、発達障害を含む学習や生活上のつまずきを抱える幼児童・生徒などの相談を行うもので、相談員には本学教員が当たっている。またこの事業については、文部科学省が公募した「平成 25 年度 私立大学教育研究活性化設備整備事業」に採択された。

2 成果と課題（点検・評価）

このように、地域に密着した地域貢献活動は、教職員はもとより、学生も積極的に参加するなど、地域の各機関から高く評価されている。

しかし、これら地域貢献活動に参加する学生の割合は、まだ一部の学生に限られている。今後在学する全ての学生が地域貢献活動に目を向けるよう、授業の場はもとより学生会活動やクラブ活動を通じて啓蒙して行く必要を感じている。

VIII 図書館

1 図書館の基本方針

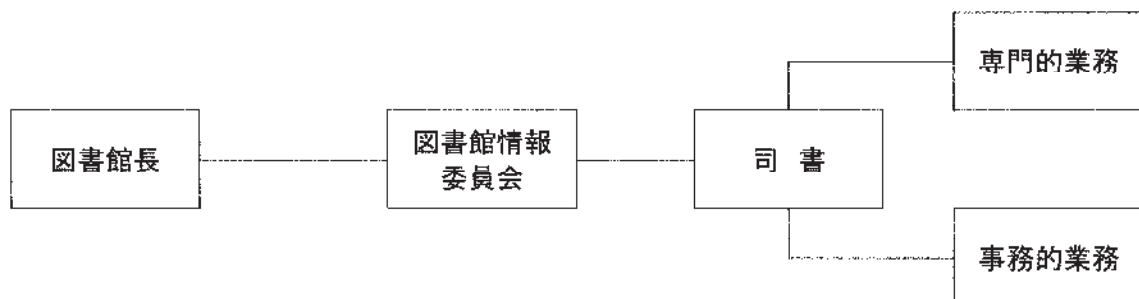
本学は、設立趣旨にあるように、埼玉の県北で地域の女子教育に貢献することを目的としている。それは、女性の自立と社会的貢献に向けた専門教育の場となることをめざしたものである。図書館はそのような本学の目的実現の追求に寄与する方向での充実を意図している。

図書館では、開学以来、学科構成に合わせた選書を行ってきた。現在は、こども学科に関連する保育・幼児教育・特別支援教育関連の資料や絵本、紙芝居などの児童書に重点を置いた収集を行い、学生・教職員からのリクエストにも積極的に応えて、蔵書の充実を図っている。

2 組織と運営

図書館長は、図書館の管理および運営を統括し、全学的な連絡調整を行っている。また、図書館の運営を円滑にかつ大学や学科の教育方針に即応したものにしていくため、館長をはじめ、専任・特任教員から選出された委員と図書館司書で構成される「図書館情報委員会」を組織し、図書館の運営、図書館資料の購入計画、購入文献の選定、図書館の利用に関する事項などについて協議している。

通常の業務は図書館司書2名があたっている。本学図書館の場合、この2名の図書館司書が、情報サービス、目録作成・管理などの図書館の専門的業務、ならびに一般的な事務的業務を行っている。



図書館の基幹業務は、コンピュータ化されるに至っていないので、予算管理、発注受入、図書整理、貸出返却、利用統計、蔵書点検に至るまでの業務を手作業で行わざるを得ない状況である。なお、蔵書検索については、コンピュータによる簡易目録とカード目録を併

用して運用している。

3 施設・設備及び情報サービス

(1) 施設・設備

本学図書館は昭和 58 年 4 月に開館し、総面積は 266.2 平方メートルで、一階は 147.6 平方メートル、二階は 118.6 平方メートルである。一階は書架および司書室、二階は閲覧室および参考図書室として使用している。

蔵書数（図書・視聴覚資料）は 50,197 点（平成 25 年 3 月 31 日現在）である。なお、ほとんどの外国書は、104 サーバ室のスペースの一部を書庫として使用し、ここに別置している。この書庫は閉架式のため、自由に利用することはできない。

一階の書庫は、開架方式を採用しているため、利用者は自由に書庫へ入り利用できる。大型本、新聞のバックナンバーなどは集密書架に排架している。また、ブラウジングコーナーを設けている。

二階は閲覧室で、閲覧席 46 席（スツール 10 脚含む）を設置し、閲覧室の周囲には参考図書、学術・専門雑誌、視聴覚資料を排架して、利用に供している。

在籍学生数は、1 年 117 名、2 年 120 名、全学年 237 名（平成 24 年 10 月 1 日現在）である。学生一人あたりの蔵書数は約 212 冊、平成 24 年度の受入冊数は 4.3 冊である。

(2) 情報サービス

図書館の業務は、図書館利用者である学生および教職員に対する図書館資料の提供が中心的業務である。主なサービスは次のとおりである。

所蔵調査を求める学生や教職員に対しては、要求文献のおおよその NDC（Nippon Decimal Classification＝日本十進分類法）を判定し、当該排架場所を案内して探索させ、該当文献を探しあてたならば、二階の閲覧室またはブラウジングコーナーで閲覧してもらう。

所蔵の有無が不明瞭な場合には、蔵書検索システム（OPAC＝Online Public Access Catalog）、または書名目録・著者名目録等のカード目録での検索を案内する。そして該当文献が発見できたならば、閲覧室で利用してもらう。

① レファレンス・サービス

文献調査などの参考調査依頼を来館者から受けたときは、図書館司書室またはカウンターに排架している参考図書を使用するなどをして回答する。しかし、利用者が自分で調査を希望する場合には、調査ツールを提供して調べてもらう。例えば、簡単な事実調査、新規購入図書の価格、出版社等の情報である。

② 館外貸出とコピーサービス

学生への館外貸出の冊数・期間は、10冊・2週間以内として、実習などで必要な場合には返却期限を延長するなどの特別貸出を行っている。なお、教職員への館外貸出の冊数は20冊、期間は1ヵ月以内としている。コピーサービスについては、著作権法第31条に従い、予め文献複写申請をしてもらい、館内資料に限り許可している。本学図書館で所蔵していない資料については、図書館間相互利用による複写文献あるいは現物の取寄せで対応し、他の図書館を利用できるように照会サービスも行っている。

③ 視聴覚資料

図書館サービスにおける文献資料の情報源は、主に図書や雑誌であるが、DVD、CD、CD-ROMなどの視聴覚資料の収集が必要不可欠でもある。保育・幼児教育や一般教養として必要な視聴覚資料を購入して利用に供している。また、図書館情報学分野の資料も購入して、司書・司書教諭課程の授業の補助手段として利用している。

二階閲覧室には、DVD・CD／ビデオ一体型の再生装置と液晶13型ディスプレイを設置し、館内でのCD、DVD、ビデオテープ等の視聴が可能である。

④ 情報検索システムの利用

コンピュータで蔵書を簡易に検索できるシステム(Simple-OPAC:OPAC社)を活用し、正規のMARC(Machine Readable Cataloging = 機械可読目録)を取り入れてはいないが、利用者サービスの向上を図っている。

今後は、国立情報学研究所が提供する目録所在情報サービス(NACSIS-CAT/ILL)を導入して、共同分担目録システムや図書館間相互利用システムを活用するため、本学図書館の基幹業務のコンピュータ化を実施することが必要である。また、共同分担目録システムを導入した場合、書誌レコードの流用が可能となり、作業を省力化できるメリットがある。

この学術情報システムは、国内の高等教育機関の図書館における導入の普及傾向をみると、近々の検討課題であると思われる。

4 所蔵点数と年間受入状況

(1) 所蔵点数

① 蔵書数

蔵書数は、平成25年3月31日現在で、図書48,166冊である。そのうち和書は43,373冊、外国書は4,793冊である。

② 学術雑誌所蔵数

購読している学術雑誌のタイトル数(平成24年度)は次のとおりである。なお、一般雑

誌は除く。

○ 学術雑誌タイトル数

和雑誌：47点	外国雑誌：6点
---------	---------

③ 視聴覚資料所蔵点数

視聴覚資料の受入点数（平成25年3月31日現在）は次のとおりである。

○ 視聴覚資料の受入点数

視聴覚資料：2,031点	
内 訳	
DVD	407点
ビデオテープ	986点
カセットテープ	263点
CD	264点
CD-ROM	76点
スライド	35点

④ 除籍数

平成24年度は、蔵書の除籍を実施していない。

(2) 年間受入状況

平成24年度の資料別受入状況は、図書945冊、視聴覚資料64点で、合計1,009件である。これを学生1人あたりの受入件数で算出すると、約4.3件(受入件数/学生数)となる。

○ 受入状況の内訳（平成24年度）

受入種別	冊数・点数	
図 書	合計 945 冊	
	和 書	945 冊
	外国書	0 冊
視聴覚資料	合計 64 点	
	DVD	64 点
	ビデオテープ	0 点
	CD	0 点
	CD-ROM	0 点
	カセットテープ	0 点
図書+視聴覚資料	合計 1,009 件	

昨年度、図書購入と雑誌購読の予算配分を見直し、購読雑誌を減らして図書購入予算を

増加させた結果、一昨年に比べ、昨年、今年度とも受入件数が増加した。なお、図書館資料の購入経費は、学生からの学費納入金に含まれる図書費（一人当たり 2 万円）を算出基準としている。

5 利用状況

(1) 入館者数

平成 24 年度の年間入館者数は 5,042 人（教職員 1,599 人、学生 3,443 人）、1 日平均入館者数は 22.7 人（年間入館者数／開館日数）である。学生 1 人あたりの年間入館回数は約 15.5 回（学生年間入館者数／学生数）である。学生所属別の入館者数と利用比率は次のとおりである。

○ 学生所属別入館者数および学生 1 人あたりの利用回数（科目履修生等を除く）

	こども学科	
1 年	1,905 人	16.3 回
2 年	1,538 人	12.8 回

(2) 館外貸出

館外貸出については、先述のとおり、学生、教職員によって貸出期間が異なる。通常の期間、学生は 1 人 10 冊までで 2 週間以内である。教職員は 1 人 20 冊までで 1 ヶ月以内となっている。ただし、夏休み等の長期休暇および保育・幼稚園実習、施設実習等の場合は特別長期貸出を認めている。

○ 学生貸出冊数（括弧内は一人あたりの平均貸出冊数）

	こども学科
1 年	1,274 冊 (2.2 冊)
2 年	1,520 冊 (3.7 冊)

平成 24 年度の教職員の館外貸出冊数は、701 冊である。

(3) その他の業務

① 参考業務

平成 24 年度のレファレンス受付数（クイックレファレンスを含む）は、3,779 件である。

② 文献複写

図書館内に設置しているコピー機の平成 24 年度の利用は、次のとおりである。

○ 学内文献複写の申請人数と枚数

	人 数	枚 数
学内文献複写	152 人	854 枚

なお、図書館に設置しているコピー機は、著作権法第 31 条による図書館資料の複製のため、館内資料の複製に限定して許可している。

③ 相互利用

平成 24 年度の図書館間の相互利用の内訳は、次のとおりである。

○ 相互利用の受付・依頼件数

	受 付	依 頼
文献複写	0 件	5 件
現物貸借	0 件	0 件

6 研究紀要

(1) 埼玉純真短期大学研究論文集

① 第 6 号

平成 24 年 10 月に原稿募集を行い、その結果 6 件の論文と 3 件の教育研究報告が集まり、200 部（抜刷り 30 部×8 件）を平成 25 年 3 月 31 日に刊行した。

7 成果と課題（点検・評価）

本学図書館は埼玉県大学・短期大学図書館協議会（SALA）に所属し、平成 24 年度は幹事館としてウェブサイトおよびメーリングリストの管理に携わった。平成 24 年 12 月 2 日には、埼玉県図書館協会及び埼玉県教育委員会が主催し、埼玉県大学・短期大学図書館協議会が協力して「図書館と県民のつどい 2012」が、桶川市民ホールで開催された。本学図書館も「大学図書館のお宝見せます」のコーナーに参加し、本学で収集した「発達障害」に関する蔵書等を展示発表した。

学生図書委員の活動として、昨年は、書架整理などをしていたが、本年度は、それらの業務に加え、学生向けの広報として、「図書館だより」の発行を行った。図書館だよりには、図書を広く知ってもらおうと、学生や教員による「おすすめ本紹介」が掲載された。図書館だよりの発行回数が増加が来年度に向けての課題である。

研究論文集に関しては、昨年度に引き続き、本学が実践してきた地域活動に関しても報告として掲載し、本学の教育活動の一端を紹介するべく情報発信を行った。

現在の本学図書館は、学生のニーズに応える図書館の在り方を内容と環境の両面から考え、長期的な展望のもとに検討していく段階にある。5か年計画等、中長期区計画の中に図書館の展望を織り込み、実現に向けて更なる努力が必要である。

IX 校地・施設・設備

1 校地及び校舎面積

(1) 概要

本学は広大な関東平野の北部埼玉県羽生市にあり、利根川を境にして、すぐ北側は群馬県、北東側は栃木県、東側は茨城県の県境に位置し、関東地方全体から見れば、地理的にはほぼ中心をなす場所に存在する。政治・経済の中核である東京へも、1時間強の時間で出られることもあり、文化・観光都市の散在する関東北部地方に挟まれ、いたって恵まれた環境にある。

校地面積は短期大学設置基準(2,400 m²)の約14.57倍の広さを有する34,970 m²、そこに校舎は7,064 m²、運動場8,059 m²、その他の土地19,847 m²がある。校地内には屋外体育施設としてグラウンド(一周300m)が設けられており、学生、および来客者用駐車場(111台)、自転車置場が設置されている。研修棟の1階部分にある食堂の南側はテラスとなっており、ベンチ、テーブルが備えられている。また平成23年度末には学生増への対応及び憩いの場が得られるような学生サービスの向上をねらい、新しくカフェテリアを設置した。校内東側には、体育用具入れ、テント収納入れなどのために利用されている倉庫がある。

校地総面積(大学専用校地)	34,970 m ²
校舎	7,064 m ²
運動場	8,059 m ²
その他	19,847 m ²

(2) 成果と課題(点検・評価)

本学の校地、及び校舎の現況面積は設置基準を満たしているが、設置基準と対比すると校舎は必要面積に対して6.33倍、校地は14.57倍の面積を有している。校舎との比較では校地がより多く基準面積を上回っており、かなり余裕のある校地を有している点特徴的である。

大学周辺は、徐々に開発の動き(国道沿いに大型量販電機店、ベビー用品店等の開店)が見られてきた。ただ、開発にはある程度の時間を要する。そのために、大学の周りはまだいたるところ昔と変わることなく農地が広がり、都会よりこの地を訪れる人々は、時間が止まったような安らぎを得ることが出来る。そういった意味では、本学の立地条件は恵まれており、都会の喧騒から離れて、じっくりと教育・研究に取り組むことの出来る、優れた教育環境を備えていると言えよう。また、緑地部分が校地の20%を占める現状からも、情操

環境としては貴重かつ最適であると自負できる。

2 施設及び設備

(1) 概要

本学校舎は管理棟・研究棟・学習棟・研修棟・体育館から構成されている。管理棟には事務室・学長室・応接室・会議室・保健室等が設けられている。管理等に接続する形で研究棟があり、1階・2階部分は図書館、3階・4階・5階は教員研究室となっている。低層階の多い本学の校舎にあつて唯一5階建てのこの建物は本学のモニュメント的存在である。

2階建ての学習棟は、普通教室、演習室、大講義室、小児栄養実習室、リズム音楽室、ピアノレッスン室(20室)、実習指導室、進路支援室、パソコン教室、学生会室等から構成され、学習棟正面入口にはラウンジが設けられ、連絡事項伝達のための掲示板が設置されている。

学習棟の東側に位置する3階建ての研修棟は、1階部分が学生食堂、絵画工作室、理科・社会実験室、陶芸室、2階部分が普通教室、中講義室、3階部分が普通教室、和室がそれぞれ設置されている。

棟名称	階数	延床面積 (㎡)
学習棟	2	2,459 ㎡
研修棟	3	1,773 ㎡
研究棟	5	766 ㎡
管理棟	1	641 ㎡
体育館	1	934 ㎡
その他	—	491 ㎡
校舎延床面積合計		7,064 ㎡

(2) 保守・管理体制

平成24年度に実施した主な保守点検は、以下の通りである。

浄化槽、電気設備、ガス器具、消火器、自働火災報知機、非常用設備、冷暖房設備、危険物(地下タンク)、電話交換機、ピアノ調律

(3) 成果と課題(点検・評価)

本学の施設設備は、開学以来約30年を経過していることから、様々な部分で老朽化が目立つ状態になっている。こうした中、学生の安全を最優先に考え、各種法律・条例等に基づき、基準に合った業者により、滞りなく点検を実施し、問題点があれば即刻対応をして

いる。

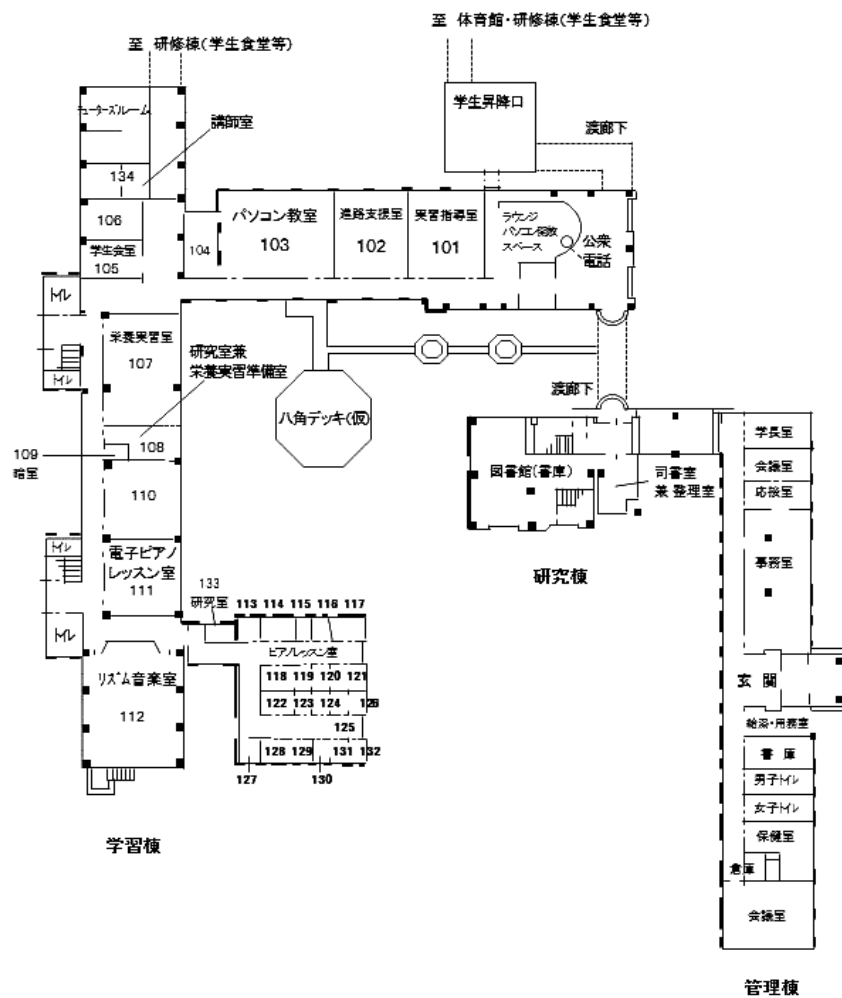
今年度も引き続き、施設のより効率の良い使用を目指して、教室の集約化を図っている。これにより、学生の移動距離の短縮と、各種エネルギー消費の軽減等に効果があったものと考えている。

また、昨年度に実施した快適に学ぶための環境改善施策も継続実行中で、特に24年度末(25年4月に向けて)に中庭自然野草園の環境見直し策として、(仮称)八角ウッド・コテージを製作し、学生の憩いの場、及び(読み聞かせ等の)授業に活用を目指している。

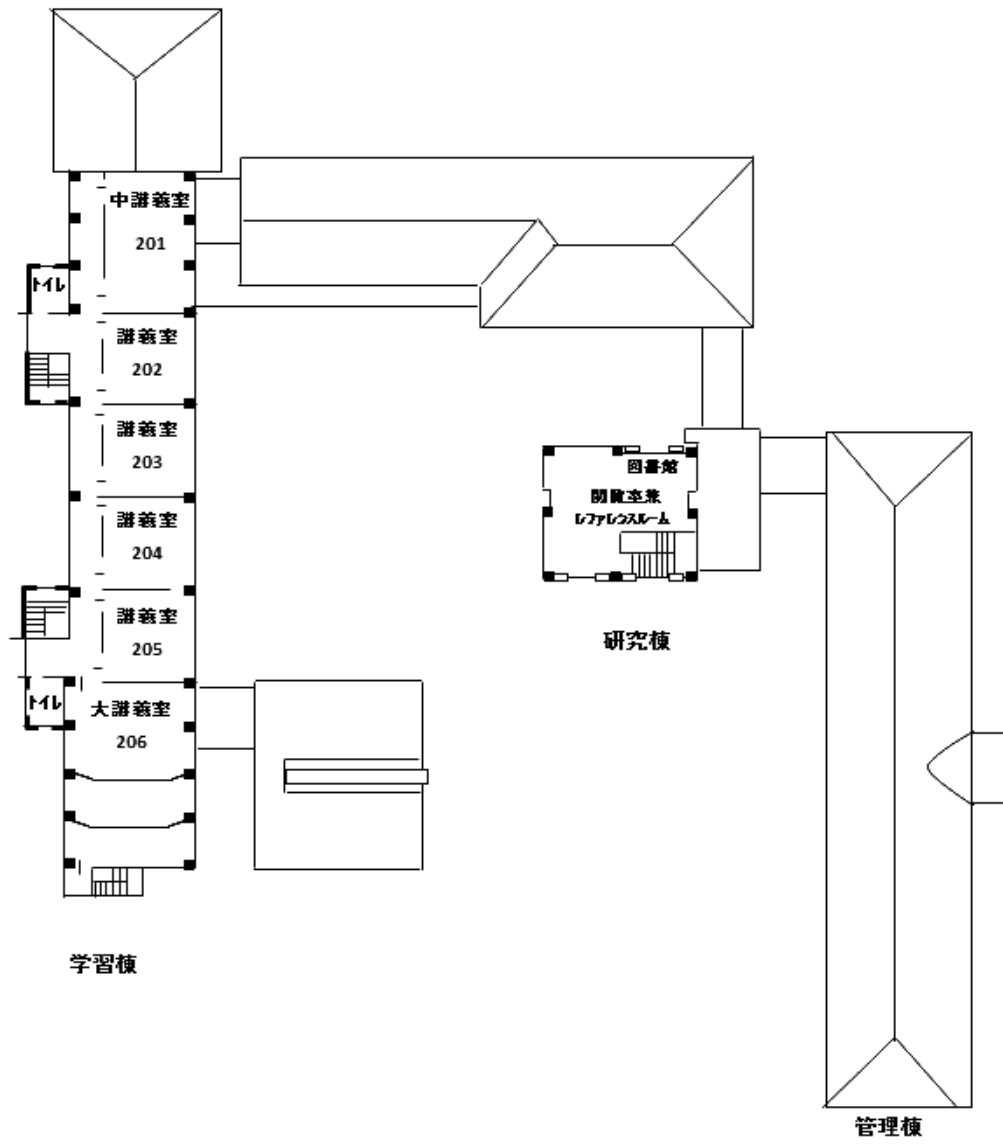
更に、動物の自然観察をしながら授業を行う自然観察小屋(仮称)も製作(H25年3月末)し学生教育(動物観察、触れあい)に役立ててゆくことにしている。

3 学内見取図

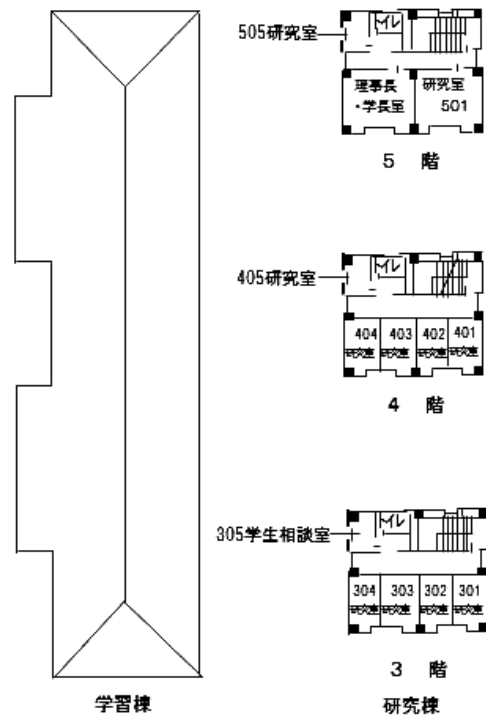
1階 平面図



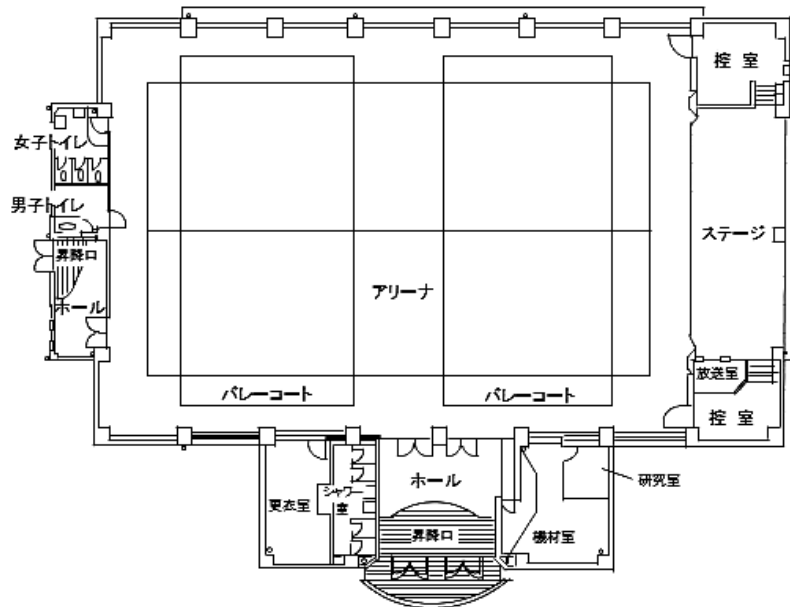
2階 平面図



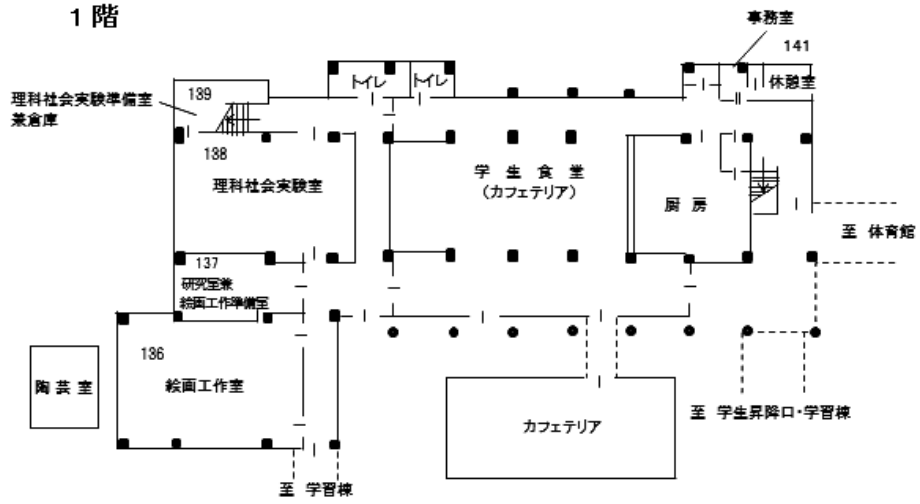
3・4・5階 平面図



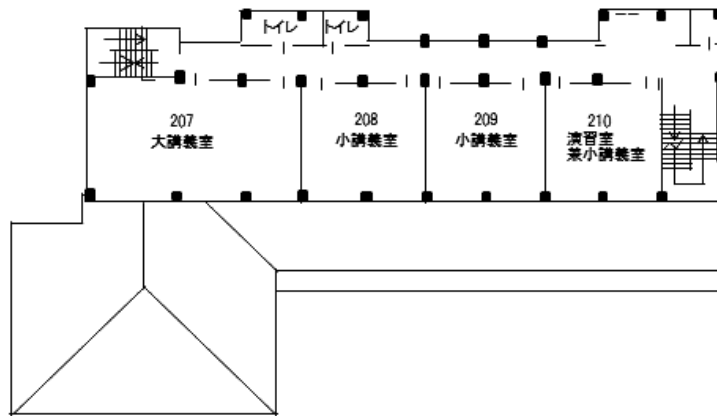
体育館 平面図



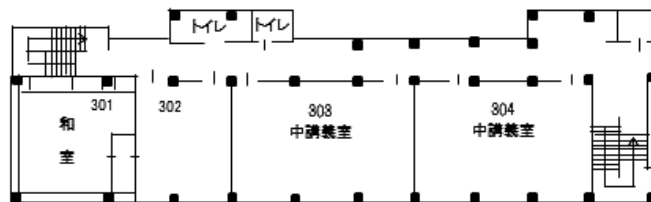
研修棟 平面図



2 階



3 階



X 教授会・委員会等

1 教授会

(1) 教授会

① 開催日程及び主な審議事項

○ 教授会内容一覧

開催日	審議事項	報告事項
第1回定例教授会 平成24年4月25日	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度年間予定表の訂正 スポーツ大会の授業コマ数カウントについて 他大学等で修得した単位の読み替えについて 平成24年度前期補講予定 幼稚園実習・保育所実習期間の授業実施について 平成24年度ボランティア実習の実施方針について 教職実践演習カルテの配布について 保護者会 「自宅外学生との懇親会について」実施計画(案) 幼稚園後半実習に関する実習審査 保育所実習に関する実習審査 指定推薦校(案)について 高校訪問(案)について オープンキャンパスのアンケート(案)について 公開講座について 	<ul style="list-style-type: none"> 各委員会からの報告
第2回定例教授会 平成24年5月23日	<ul style="list-style-type: none"> ディズニー研修について 学外研修の授業コマ数カウントについて 平成24年度前期試験実施計画(案) 平成24年度前期授業評価アンケート 平成24年度第2回オープンキャンパス実施要領(案) 	<ul style="list-style-type: none"> 各委員会からの報告
第3回定例教授会 平成24年6月20日	<ul style="list-style-type: none"> 第一号議案 試験監督上の留意点(教員向け)、試験での留意点(学生向け) 学籍異動 漫画アニメ同好会設立に関して 規程・内規等の改正(案) 保育所実習に関する実習審査 履歴書のレイアウト・内容の変更について 指定推薦校(案)について 	<ul style="list-style-type: none"> 各委員会からの報告
第4回定例教授会 平成24年7月25日	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度後期時間割(案) 平成24年度前期試験時間割表(案) 卒業式会場について 幼稚園前期/基本実習に関わる実習審査 保育所前半実習に関わる実習審査 	<ul style="list-style-type: none"> 各委員会からの報告
臨時教授会 平成24年9月19日	<ul style="list-style-type: none"> AO入試合否判定 	
第5回定例教授会 平成24年9月19日	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度後期履修登録の流れについて 保育実践演習(学外授業)欠席者に対する代替措置について 学籍異動 	<ul style="list-style-type: none"> 各委員会からの報告
臨時教授会 平成24年9月26日	<ul style="list-style-type: none"> 成績追加認定 	<ul style="list-style-type: none"> 各委員会からの報告
第6回定例教授会	<ul style="list-style-type: none"> 学籍異動 平成23年度後期成績追加認定 	<ul style="list-style-type: none"> 各委員会からの報告

X 教授会・委員会等

平成 24 年 10 月 24 日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年度年間行事予定表（案） ・平成 24 年度後期試験実施計画（案） ・表現発表会について ・純真祭の読み替えについて ・学生会長選挙の実施について ・平成 24 年度卒業式について ・軽音楽部クリスマスライブ ・推薦入試について 	
臨時教授会 平成 24 年 10 月 27 日	<ul style="list-style-type: none"> ・2013 年度 指定校推薦、専門高校・総合学科等推薦、同窓生推薦（1 期）入学試験合否判定 	・各委員会からの報告
臨時教授会 平成 24 年 10 月 31 日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 24 年度前期成績認定（1 年生） ・平成 24 年度前期成績追加認定（2 年生） 	・各委員会からの報告
第 7 回定例教授会 平成 24 年 11 月 14 日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 24 年度前期成績追加認定・GPA 一覧 ・平成 25 年度年間行事予定表（案） ・表現発表会について ・教職実践演習の発表と 1 年生の次年度保育実践演習選択方法について ・試験監督上の留意点（教員向け）・試験での留意点（学生向け） ・教室変更願、パソコン教室（103 教室）使用申請書、休講・補講願、学外授業許可願のフォーマットについて ・平成 25 年度科目等履修生募集要項について ・インフルエンザ予防接種について ・平成 25 年度健康診断について ・卒業行事委員会の設置について ・平成 24 年度施設実習に関する実習審査 	・各委員会からの報告
第 8 回定例教授会 平成 24 年 12 月 19 日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 24 年度後期試験時間割（案） ・新年度のオリエンテーションについて ・平成 25 年度前期時間割（案） ・平成 25 年度年間行事予定表（案） ・第 29 回卒業式について ・平成 25 年度卒業謝恩会について ・卒業記念品について ・贈人品等について ・平成 24 年度施設実習に対する実習審査 ・平成 24 年度幼稚園後半実習に対する実習審査 ・平成 24 年度全国保育士養成協議会会長表彰者の選考について ・ホームカミングデー ・AO 入試合否判定について ・公募制推薦（Ⅱ期）専門・総合推薦（Ⅱ期）合否判定について ・AO 出願許可について ・平成 26 年度入試 AO 入試について 	・各委員会からの報告
第 9 回定例教授会 平成 25 年 1 月 30 日	<ul style="list-style-type: none"> ・学籍異動 ・平成 24 年度第 9 回表現発表会の読み替えについて ・平成 24 年度第 29 回卒業式次第（案） ・平成 25 年度前期時間割表（案） ・平成 25 年度担当科目一覧 ・単位修得に関して問題のあった学生について ・再実習に係る審査について ・施設実習における実習取り消し者について ・平成 24 年度全国保育士養成協議会会長表彰者の選考について ・学費が適切に納入されていない学生について ・AO 入試合否判定 ・一般入試合否判定 ・入試日程（案） 	・各委員会からの報告

X 教授会・委員会等

<p>第10回定例教授会 平成25年2月22日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度後期成績認定（卒業年次生） ・平成24年度卒業認定及び学位取得認定 ・平成24年度免許状・資格取得認定 ・平成24年度卒業式での教員免許状・資格証明書授与代表者の選出について ・学籍異動 ・平成25年度前期時間割（案） ・埼玉純真短期大学並びに純真短期大学における合同企画行事実施計画（案） ・平成25年度年間行事予定表（案） ・平成25年度オリエンテーションについて ・学則改正（案） ・平成25年度入学式 ・平成25年度小学校教育実習に係る実習審査（こども学コース5名） ・AO入試合否判定 ・一般入試Ⅱ期実施要領 ・規程・内規等の改正（案） 	
<p>第1回正教授会 平成25年2月22日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉純真短期大学教育職員の昇格について ・埼玉純真短期大学教育職員の任用について 	
<p>臨時教授会 平成25年3月6日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一般（Ⅱ期）入学試験合否判定 ・平成24年度後期成績追加認定 ・平成24年度免許状・資格取得認定 	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会からの報告
<p>第11回定例教授会 平成25年3月22日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度後期成績認定、GPA一覧（在学生） ・学籍異動 ・オリエンテーションについて ・平成25年度入学式について ・平成25年度科目等履修生について ・平成25年度健康診断について ・学外研修について ・規程改正案の修正について 	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会からの報告
<p>臨時教授会 平成25年3月29日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学籍異動 ・平成24年度後期成績追加認定（卒業年次生） ・平成24年度保育士資格取得認定 	

② 成果と課題（点検・評価）

教授会は学則第43条および教授会規程第2条の規定により、教授・専任講師・助教で構成した。これは、本学の教育職員（特任含む）が14名と少人数であることが理由である。ただし、教育職員の任用および承認他の重要事項については、教授で組織する教授会を開催してこれらにあたっている。

さらに、本学の教授会はオブザーバーとして事務局長・各セクション事務職員も同席することとしている。これは、教員と事務職員が時間的・空間的場の共有をすることにより意思疎通を図り、情報を正確に把握・共有することにより、共通理解が進み、認識の違いによる業務遅滞を防ぐことができ、スムーズな大学運営を意図してのことである。

教授会への議案は、それぞれの委員会で案件を検討の後、各委員会からの議案提出に基づいて審議・報告がされている。とかく一方通行で報告会になりがちな教授会に、教職員全員が参画意識と当事者意識を持って教授会に臨む態度もできている。

その結果、全員が本学の状況を把握でき、意思疎通が図れたと思われる。これらのことから教授会運営は、概ね順調に推移したと思われる。

今後の課題として、委員会での検討議題が、現状に対する対処・対応策になりがちであり、教授会での議題も新鮮さがあまりないことである。次年度以降は、教育の質の向上、

学生のより良い育成、地域大学としての使命など、本学の将来を見据えての創造的・建設的な問題を検討していきたい。

(2) 人事

① 異動

氏名	職位	異動日
相馬 萌	入試広報係 ↓ 学生・進路支援係	平成24年4月1日

② 採用

氏名	職位	採用日
齋藤 史夫	こども学科特任講師	平成24年4月1日
浅井 広	こども学科特任助教	平成24年4月1日
松原 みゆき	実習指導室(パート)	平成24年4月1日
林 真麻	実習指導室(パート)	平成24年5月7日

③ 退職

氏名	職位	退職日
関根 久美	こども学科講師	平成25年3月31日

2 委員会

(1) 教務委員会

① 構成

委員長名	委員名 (※印は事務担当者)
小澤 和恵	牛込 彰彦・高橋 努・安村 由希子・齋藤 史夫・※片山 美洲・※矢内 美優

② 概要

開催日	内容
第1回 平成24年4月18日	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度 年間予定表の訂正 他大学等で修得した単位の読み替えについて 平成24年度前期 補講予定

X 教授会・委員会等

	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園実習・保育所実習期間授業実施について ・平成 24 年度ボランティア実習の実施方針について ・1 年生 教職実践演習カルテの配布について ・5 月 12 日(土) 保護者会 ・その他：学生の動向 ・平成 24 年度前期 時間割表の訂正 ・101019 菊池裕子 学籍異動 ・その他：クレペリン判定結果の仕上がり予定日、連休時の留守番電話応答、業績調書の提出のお願い、FD・SD 研修会について
持ち回り審議 4 月 19 日	<ul style="list-style-type: none"> ・4 月 27 日(金) 運動会の授業コマ数カウントについて
第 2 回 5 月 16 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ディズニー研修について ・平成 24 年度前期 集中講義 (案) ・平成 24 年度前期 試験実施計画 (案) ・平成 24 年度前期 授業評価アンケート ・学生の動向について ・その他：補講日のスクールバスの運行時刻、キャリアデザイン、保護者会欠席者への資料配布について ・平成 24 年度前期 各教科の履修者数について ・平成 24 年度前期 補講予定について
第 3 回 6 月 13 日	<ul style="list-style-type: none"> ・試験監督上の留意点(教員向け)、試験での留意点(学生向け) ・学籍異動 ・メイク教室開催について ・教職実践演習カルテの一部訂正 ・平成 24 年度前期 補講予定 ・指定保育士養成施設の平成 23 年度業務報告書の提出について ・入門ゼミにおける特別授業
第 4 回 7 月 18 日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 24 年度後期 時間割 (案) ・平成 24 年度前期 試験時間割表 (案) ・その他：学生の動向について ・平成 24 年度前期 定期試験受験資格無資格者について ・平成 24 年度前期 補講予定について ・その他：後期教科書注文票提出期限、教科書販売期間について
持ち回り審議 7 月 25 日	<ul style="list-style-type: none"> ・学籍異動
第 5 回 9 月 12 日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 24 年度後期 時間割表 (案) ・平成 24 年度後期 履修登録の流れについて

X 教授会・委員会等

	<ul style="list-style-type: none"> ・保育内容応用指導法、教職実践演習（幼・小）履修選択について ・10月6日（土）保護者会について（次第） ・平成24年度前期 追・再試験該当学生報告 ・保育実践演習（学外授業）欠席者に対する代替措置について ・平成24年度後期 補講予定について ・学籍異動 ・その他：学生の動向、資格・免許状取得不可能な学生について ・10月6日（土）保護者会について ・平成24年度前期 定期試験受験資格無資格者について ・平成24年度前期 補講予定について ・その他：平成25年度実習日程について
持ち回り審議 9月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・成績追加認定
第6回 10月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・学籍異動 ・学生動向 ・平成25年度 年間行事予定表（案） ・平成24年度後期 時間割表 ・平成24年度後期 試験実施計画(案) ・表現発表会について ・純真祭および表現発表会の読み替え ・教職実践演習発表会と次年度のゼミ選択について ・その他：保育士登録一括申請に関する要注意の学生、1・2年生の実習伝え合い、学生の日本語検定受験、入学後のスーツ・浴衣購入に関するプレカレッジ時の事前連絡について ・平成24年度後期 補講予定 ・その他
臨時 10月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度前期 成績認定
臨時 10月31日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度前期 成績認定 ・平成24年度前期 成績追加認定
第7回 11月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度 年間行事予定表（案） ・表現発表会について ・教職実践演習の発表と1年生の次年度総合演習選択方法について ・試験監督上の留意点（教員向け）・試験での留意点（学生向け） ・平成24年度後期 授業評価アンケート実施について ・教室変更願、パソコン教室(103教室)使用申請書、休講・補講願、学外授業許可願のフォーマットについて ・授業終了届について

X 教授会・委員会等

	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年度 科目等履修生募集要項について ・学生動向について ・平 24 年度後期 時間割について ・平成 24 年度後期 受講者なしの科目について ・平成 24 年度後期 補講予定について ・全国保育士養成協議会 卒業生に対する会長表彰者の推薦について ・平成 24 年度出校予定アンケートについて
<p>第 8 回 12 月 12 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 24 年度後期 試験時間割(案) ・授業、補講および試験期間に施設実習に参加する学生の欠席の取り扱いについて ・学位記準備 ・新年度のオリエンテーションについて ・平成 25 年度 学生便覧(案) ・平成 24 年度後期 集中講義 ・その他：研究セミナー、介護等体験事前事後指導集中講義、履修登録ミスの学生、2～3 月にかけて実習に行く 2 年生の追・再試験および成績認定、持ち運び用スクリーンの新規購入、全国保育士養成協議会会長表彰候補者、学生の動向について ・平成 25 年度 担当科目一覧 ・平成 24 年度後期 補講予定
<p>臨時 12 月 19 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学籍異動
<p>第 9 回 平成 25 年 1 月 23 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学籍異動 ・教職実践演習（幼・小）発表会について ・平成 24 年度 第 29 回卒業式次第 ・平成 25 年度 前期時間割表（案） ・平成 25 年度 担当科目一覧 ・新年度の連絡について ・平成 24 年度後期 集中講義 ・2 月 26 日（火）追再試験発表日に施設実習の為掲示を見ることが出来ない学生の対応について ・平成 24 年度 第 9 回表現発表会の読み替えについて ・その他：卒業必修科目を 6 回欠席した学生、「保育内容(身体表現)指導法」の実技試験を欠席した学生、平成 26 年度からの入学定員増にかかる申請について ・平成 24 年度後期 補講予定について ・平成 24 年度後期 試験監督について ・その他：全国保育士養成協議会会長表彰候補者、平成 25 年度年間行事予定表、平成 25 年度学生便覧

X 教授会・委員会等

<p>第10回 2月20日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学籍異動 ・平成25年度前期 時間割(案) ・埼玉純真短期大学並びに福岡純真短期大学における合同企画行事実施計画(案) ・平成25年度 年間行事予定表(案) ・新1年生クラス分け、2年生ゼミ振り分け ・平成25年度 オリエンテーションについて ・平成25年度 学生使覧(案) ・平成25年度 入学式 ・平成25年度 1年生 学外研修について ・その他：学位授与式後まで実習に行く学生の卒業年月日、学生が購入するスーツの色・柄等の指導について ・学生動向 ・平成25年度 担当科目一覧 ・平成24年度 全国保育士養成協議会 会長表彰表彰状
<p>臨時 2月22日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度後期 成績認定(卒業年次生) ・平成24年度 卒業認定及び学位取得認定 ・平成24年度 免許状・資格取得認定 (1)幼稚園教諭2種免許状(2)保育士(3)司書 ・平成24年度卒業式 教員免許状・資格証明書授与代表者の選出について
<p>臨時 3月6日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度後期 成績追加認定(卒業年次生) ・平成24年度 免許状・資格取得認定
<p>第11回 3月11日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学籍異動 ・オリエンテーションについて ・入学式について ・その他：科目等履修生の試験日、学外研修について
<p>臨時 3月22日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度後期 成績認定、GPA一覧(在学生)
<p>臨時 3月29日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学籍異動 ・平成24年度後期 成績追加認定(卒業年次生) ・平成24年度 保育士資格取得認定

③ 成果と課題(点検・評価)

平成24年度も、月1回の定例会議と必要に応じて臨時会議を開催し、学生の動向や履修に関する事、成績認定や教務管轄の学校行事などの審議が適切になされた。その内容は議事録に残され、教授会に審議事項、報告事項として提出している。

(2) 学生委員会

① 構成

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
高橋 努	伊藤道雄・安倍 大輔 ・稲垣 馨 ・関根 久美 ・入江 良英・浅井 広・ ※奥貫 慶一郎 ・※相馬 萌

② 概要

開催日	内 容
平成 24 年 4 月 18 日	・自宅外通学生懇親会 ・学生会執行部 ・卒業式 ・学生総会 ・純真祭 ・学生会長選挙 卒業行事委員会 ・第三者評価報告書 ・部活動顧問 ・役割分担（各行事担当） ・スポーツ大会
5 月 16 日	・自宅外通学生懇親会 ・学生総会 ・全国私立短期大学体育大会 ・スポーツ大会
6 月 13 日	・部費 ・卒業アルバム ・全国私立短期大学体育大会 ・アパート巡回 ・オープンキャンパスサポート ・自宅外通学生 ・健康診断書 ・新規部活動
7 月 18 日	・卒業式 ・純真祭 ・アパート巡回
9 月 12 日	・純真祭 ・全国短期大学体育大会 ・アパート巡回
10 月 17 日	・学生会長選挙 ・卒業式 ・純真祭
11 月 7 日	・インフルエンザ予防接種 ・健康診断 ・卒業行事委員会 ・学生会選挙・学生総会 ・ゆるきやらサミット ・アパート巡回
12 月 12 日	・卒業式 ・謝恩会 ・卒業行事委員会 ・カードプリンター(購入) ・学生会規約 ・予算 ・内科検診 ・体重計、身長計、視力検査表等(購入) ・学内感染症対策 ・同窓会役員選出 アパート巡回 ・卒業記念品 ・奨学金(臨時採用) ・学外駐輪場
平成 25 年 1 月 23 日	・卒業式 ・謝恩会 ・卒業行事委員会 ・卒業贈呈品 ・購入品(シューズボックス、カードプリンター等、体重計等) ・学生会規約 ・予算 ・インフルエンザ ・アパート巡回 ・表現発表会 DVD ・ジャージ試着 ・スポーツ大会(会場予約) ・卒業アルバム ・ロッカー鍵
2 月 20 日	・卒業行事委員会 ・卒業式 ・謝恩会 ・卒業贈呈品 ・購入品(シューズボックス、カードプリンター等、体重計等) ・学生会規約 ・インフルエンザ ・リーダー研修 ・新年度準備(新人生顔写真、健康診断、ジャージ試着) ・ホームカミング ・体育館ロッカー
3 月 13 日	・健康診断 ・学外研修 ・卒業式 ・謝恩会 ・学生証 ・科目等履修生 ・シューズボックス ・学生使覧 ・ロッカー鍵

③ 成果と課題（点検・評価）

平成 24 年度も、学生部長が前年度からの留任のためスムーズに新年度に臨むことができた。月 1 回を原則として学生委員会を開き、学生の動向について教職員間で情報共有を図り学生がより充実した学生生活を送れるように支援を行った。また学校行事等について、必要に応じて臨時の委員会を開き、円滑な運営・実施ができるように臨機応変に対応した。

学校行事の計画・運営の中心として活動する学生会執行部に対しては、学生委員会が助言・指導をすることにより、学生にとっては学校行事もまた貴重な学びの機会になったと言えよう。

本学はキャンパスの立地条件を考慮し自動車通学を許可しているが、学内の駐車場の利用や保険、運転マナー等について説明と指導を行い、適宜、適切な対応と学生に対する指導を行っており大きな問題は起きなかった。

電車通学者に対しては、今年度より、羽生駅と本学との間にスクールバスの運行を開始した。授業時間に合わせて運行しているが、1回の乗車人数には制限があるため、未だ自転車通学の学生がいる。今後、学生の乗降状況を把握しながら、運行本数を調整していく必要がある。また、羽生駅前駐輪場については、次年度以降で廃止する方向で検討していくこととしている。

また、通学路に不審者が出没したという情報が学生から寄せられたため、学生に注意喚起を促すとともに、羽生警察署生活安全課と連絡を取り合いながら、教職員による巡回体制を強化し、学生が安心して通学できるような対応をした。親元を離れ学生アパートに住んでいる学生はもちろんであるが、全ての学生が安全且つ安心して学生生活を送れるよう、地域との連携をより一層深めていくことが必要であろう。

(3) 図書館情報委員会

① 構成

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
牛込 彰彦	・阿部峰雄 ・細田香織 ・安村 由希子 ・浅井広 ・※中村 周（司書） ・宮本明子（司書）

② 概要

開催日	内容
平成 24 年 4 月 25 日	・平成 24 年度の委員会運営等について ・その他
5 月 16 日	・平成 23 年度の蔵書状況・図書の選書・平成 24 年度 廃棄雑誌について・研究論文集について・図書館ガイダンス・帯田図書館の延滞／紛失への対応・学生図書委員
6 月 13 日	・図書の選書・図書館情報委員会管轄の規程・内規の改正案・研究論文集について・学生図書委員の活動・廃棄雑誌の譲渡
7 月 18 日	・図書の選書・「図書館と県民のつどい 埼玉 2012」について・学生図書委員の活動・研究論文集について・103 パソコン教室のプリンタの扱いについて・平成 23 年度自己点検・評価報告書
9 月 12 日	・図書の選書・「図書館使い」について・研究論文集の校正・情報機器定期メンテナンス・「図書館と県民のつどい 埼玉 2012」について
10 月 17 日	・図書の選書・外国雑誌の 2013 年購読について・研究論文集・情報機器定期メンテナンスの報告・「図書館と県民のつどい 埼玉 2012」について

X 教授会・委員会等

11月7日	・図書の選書・外国雑誌の2013年購読について・研究論文集第5号の誤字修正について・埼玉県大学・短期大学図書館協議会
12月12日	・図書の新書・和雑誌の平成25年度購読希望について・平成25年度予算について・研究論文集 投稿チェックシート（案）・帯出図書の長期未返却者への対応・図書館出入口のドアについて・「図書館だより」について・研究論文集第6号の原稿締切り確認
1月23日	・図書の新書・研究論文集 第6号の投稿について・学生用ブックリスト配布について・業務引き継ぎ・図書貸出券の印刷・「図書館と県民のつどい埼玉2012」来場者アンケート
2月20日	・純真図書館感想文コンクール・研究論文集 第6号について・平成24年度 図書管理経費の執行状況報告・ICT関連事業の補助金申請・情報機器定期メンテナンス

③ 成果と課題（点検・評価）

平成24年度は、本館が埼玉県大学・短期大学図書館協議会の幹事館となり、役割として、ウェブサイト/メーリングリストの管理と研修会の開催、図書館と県民のつどいを担当した。

図書館と県民のつどいは、埼玉県図書館協会と埼玉県教育委員会が主催する2007年に始まったイベントである。本年度は本学も「発達障害」をテーマに書籍の紹介やゼミ発表を行った。参加者の中で「発達障害」に関心のある方も多く、本学のブースを見学するものも多かった。また、広報の一環としての役割も担った。

また、研究論文集の発行に際しては、毎年、原稿収集、チェックなどを図書館情報委員が担当し多くの労力を使っていた。本年度は、研究論文原稿チェックリストを作成し負担の軽減を図った。

さらに、来年度に向け、情報設備等の充実を図るためのICT関連事業に関する補助金申請を計画している。

(4) 実習指導委員会

① 構成

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
牛込 彰彦	・伊藤道雄 ・稲垣 馨 ・関根 久美 ・高橋 努・細田 香織 ※松原みゆき、林真麻

② 概要

開催日	内容
平成24年4月25日	・幼稚園（後期応用）実習 実習審査・保育所実習 実習審査・実習に係る保護者との面談について・保育所実習に関する実習の抱負の添削について・実習事務の方の採用について
5月16日	・幼稚園後期実習に行かない学生に対する指導について・各実習から
6月13日	・平成24年度 保育所実習に関する実習審査・平成25年度 小学校教育実習（子ども学コース）の実施時期について・平成25年度 幼稚園後期実習（子ども学コース）の実施

X 教授会・委員会等

	時期について・平成 25 年度 幼稚園後期実習の実施時期について・平成 24 年度 幼稚園後期実習報告（概略）
7 月 18 日	・幼稚園前期/基本実習に関する実習予備審査・保育所前半実習にかかわる実習予備審査・保育所前半実習に関する途中報告・平成 23 年度自己点検・評価報告書作成について・幼稚園前期/基本実習にかかわる補講について・保育所後半実習にかかわる補講について・暑中見舞いの送付について
9 月 12 日	・平成 24 年度 実習日程について・休学した学生の今後の実習について・保育所実習前半で実習中止となった学生の实習について・保育所後半実習を実施していない学生について・保育所実習に関する報告・小学校実習の実習準備に関する進捗状況について・平成 24 年度 施設実習実習先一覧について
10 月 17 日	・今後の実習について・平成 24 年度 施設実習実習先一覧について
11 月 7 日	・平成 24 年度 施設実習に対する実習予備審査・平成 24 年度 実習が未実施等の学生について・学生便覧の見直し・実習の手引きの見直し
12 月 12 日	・平成 24 年度 再実習等の経過について・平成 24 年度 施設実習に対する実習予備審査 ・平成 24 年度 幼稚園後半実習に対する実習予備審査・平成 24 年度全国保育士養成協議会会長表彰者の選考について・平成 25 年度 実習関連文書の改訂について・平成 25 年度 予算について
1 月 23 日	・再実習に係る審査について・施設実習における実習取り消し者について・平成 24 年度全国保育士養成協議会会長表彰者の選考について・秋父双葉幼稚園における幼稚園後半実習について・学費の納入状況が危ぶまれる学生について・実習資格審査基準の改訂について・実習の手引きの改訂について・幼稚園後半実習が不可になった学生への伝達について・平成 25 年度幼稚園実習について
2 月 20 日	・平成 25 年度小学校教育実習に係る実習予備審査（こども学コース 5 名）・実習資格審査基準の改訂について・実習の手引きの改訂について・再実習等経過報告・3 月末・4 月初めの補講等について

③ 成果と課題（点検・評価）

平成 23 年度末に、実習事務担当 1 名が急に退職し、4 月から実習事務 1 名の体制で委員会が始まった。4 月は、幼稚園後期/応用実習や保育所実習の準備時期で事務関係の業務が多く、繁忙を極めたが、5 月には、新しく実習事務担当が増え、落ち着いた運営が可能となった。

本年度は、小学校教育実習の実施時期を検討した。平成 23 年度の小学校教育実習は、9 月に行われたが、教育実習の実施時期が公立学校教員採用試験の後だったため、面接において、面接官の質問に対し、実感を伴った返答ができなかったとの課題があった。委員会では、採用試験前の実習が有効と考え、実習実施時期の検討を行った。その結果、平成 25 年度の小学校教育実習は 5 月に行い、幼稚園応期/応用実習を 9 月に実施することとなった。

おおむね各実習とも実習先から良好な評価を得たが、数名の途中中止者等が出た。実習資格審査基準の内容検討や厳格な適応が課題となった。

(5) 進路支援委員会

① 構成

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
安倍 大輔	伊藤 道雄・人江 良英・関根 久美・※奥貫 慶一郎

② 概要

期 日	内 容
平成 24 年 4 月 18 日	履歴書について、就職園訪問、チューターズルーム使用方法、キャリアガイダンス、履歴書の添削について、高校へのご報告状について、卒業生を招いての講演会について
5 月 16 日	履歴書について、就職園訪問、キャリアガイダンス
6 月 13 日	キャリアガイダンス、試験対策授業について、履歴書レイアウトについて
7 月 18 日	履歴書レイアウトについて、キャリアガイダンス、試験対策授業について 埼玉県東部地区園長会について、園訪問状況、ホームカミングデーについて
9 月 12 日	キャリアガイダンス、就職決定状況、埼玉協就職研究会について
10 月 17 日	キャリアガイダンス、就職活動について
11 月 7 日	キャリアガイダンス、就職決定状況、1 年生対象キャリアガイダンスについて 卒業生を招いての講演会について、ゼミ担任推薦書について、学生個別カードについて
12 月 12 日	キャリアガイダンス、就職活動状況、卒業生を招いての講演会について、次年度計画、年賀状について
平成 25 年 1 月 23 日	キャリアガイダンス、就職決定状況と指導対象者対応について 学生便覧の見直しについて、キャリアブックについて
2 月 24 日	卒園メッセージの発送について、就職決定状況と指導対象者対応について
3 月 13 日	次年度キャリアガイダンス日程・内容について、入園メッセージの発送について キャリアサポートブックについて

③ 成果と課題（点検・評価）

委員会運営については、委員会の中で定期的に学生の動向や求人等の情報共有することで、どの教職員が対応しても学生に対する指導・支援の質が保障されるように努めた。また幼稚園実習・保育所実習・施設実習といった各実習指導担当と連携し、学生が進路に対する関心と意識を常に持ち、それぞれの希望に沿った進路を選択し、それを支援する体制をとることができた。

また早期退職を防ぐとともに、園との情報交換のために行っている就職園訪問は、就職園からは他の大学では行っていない取り組みであるとして評価を頂いている。また園がど

ういった学生を求めているのか、またその園がどういった保育・教育を行っているのか等について情報を直接得ることができる貴重な機会にもなっている。更に卒業生にとっても不安や悩みを軽減するきっかけとなり、また卒業後もサポートするように大学は門戸を開いているということを伝えられる機会でもあるので、今後も継続して行きたい。

今後は、学生数の増加とともに進路指導の回数や就職園訪問先が増えることが予想されるので、進路支援委員会だけでなく全学的な支援体制を更に強化していくことが重要であると考えられる。

(6) 入試広報委員会

① 構成

委員長名	委員名 (※印は事務担当者)
小澤 和恵	藤田 利久 (学長)・小澤 和恵・高橋 努・細田 香織・齋藤 史夫・浅井 広・ ※田中 淳一・※内田 和泉

② 概要

開催日	主な内容
平成 24 年 4 月 18 日	・指定推薦校 (案) について・高校訪問 (案) について ・オープンキャンパスの実施内容 (案) について・ポスター/ハガキについて ・公開講座について・春の学校見学会について (報告)
5 月 16 日	・指定校推薦 (案) について・公開講座について ・大学案内パンフレットのモデルについて・第 1 回オープンキャンパス報告について ・第 2 回オープンキャンパス実施要領について・高校訪問について ・ガイダンスについて (報告)
6 月 13 日	・指定推薦校 (案) について・第 3 回オープンキャンパス実施要領について ・入学金免除について・第 2 回オープンキャンパス報告について ・大学案内パンフレットのモデルについて (報告)
7 月 4 日	・第 4 回/第 5 回オープンキャンパスについて・7 月の高校訪問について
7 月 18 日	・AO 入試について・大学案内について
9 月 12 日	・AO 入試について・9 月度オープンキャンパス/AO 入試実施要領について ・進学相談会について・プレカレッジについて・平成 25 年度大学案内について
9 月 19 日	・AO 入試合否について
10 月 10 日	・AO 入試合否について
10 月 17 日	・推薦入試について・進学相談会について・プレカレッジについて
10 月 27 日	・指定校推薦、公募制推薦、専門高校/総合学科等推薦、同窓生推薦入試について
10 月 29 日	・推薦入試 (1 期) 合否について・AO 入試合否について

X 教授会・委員会等

11月7日	・進学相談会について・AO入試について・プレカレッジについて ・パンフレットについて（報告）
12月12日	・AO入試合否判定について・公募制推薦（Ⅱ期）専門／総合推薦（Ⅱ期）AOについて ・プレカレッジについて・平成26年度AO入試について ・平成25年度年間行事予定表（AO入試／進学相談会／プレカレッジ日程）について ・規程見直しについて・予算について・大学案内パンフレット進捗状況について（報告） ・校内ガイダンス等の状況について（報告）・入学内定者入金状況について（報告）
12月19日	・推薦入試（Ⅱ期）合否判定について・AO入試出願許可について
平成25年1月16日	・AO入試面談／一般入試（Ⅰ期）実施要領（案）について・AO入試合否判定について ・2014年度入学試験日程について・大学案内パンフレットについて
1月23日	・一般入試（Ⅰ期）合否判定について・AO面談出願許可について
2月12日	・AO入試合否判定について・春の大学見学会について ・一般入試（Ⅱ期）出願状況について（報告）・Newsletter（広報誌）について（報告）
2月27日	・一般入試（Ⅱ期）合否判定について・新入生宣誓について・春の大学見学会について

③ 成果と課題（点検・評価）

近隣の行政・教育機関との連携を図りながら、教育機関本来の教育・研究の充実を広報のメインに打ち出すことができた。さらに、教職員が一丸となって、積極的に高校訪問やオープンキャンパスに臨み、高校生一人ひとりへの親身な対応を心がけたことにより、昨年度に引き続き定員を確保することができた。

現代の日本の大学、特に短期大学の場合は、受験生が「この大学へ入りたい」と思える特色を持ち、差別化をいかに図れるかが、入学者確保における第一条件と考える。

この点において、本学の入試広報課の取り組みと教職員の協力体制が実を結んだものと考えている。

(7) FD・SD推進委員会

① 構成

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
安倍大輔	稲垣馨・齋藤史夫 ※中村周

② 概要

開催日	内容
平成24年4月11日	第1回 FD・SD研修会
5月23日	第2回 FD・SD研修会
9月7日	埼玉県私立短期大学協会研修会への参加

10月15日	日本短期大学協会 秋期定期総会報告（藤田学長・小澤 ALO・安倍委員長）
12月7日	第3回 FD・SD 研修会
随 時	授業相互参観

③ 成果と課題（点検・評価）

平成 24 年度においても前年同様に教職員のスキルアップならびに業務改善、学生対応について示唆を得るために、学外から講師を招いた FD・SD 研修会を開催した。また埼玉県私立短期大学協会の研修会に教職員が参加し、それぞれ自分の担当セクションの分科会に参加し、他大学の教職員と情報交換をするとともに、各大学に共通する課題に対する取り組みの意見交換を行った。

また前後期を通じて教員が他の教員の授業を参観する「授業相互参観」を今年度も行っている。「授業相互参観」は他の教員の授業を参観する事で自分の授業の進め方を振り返り、改善のヒントを得る良い機会となっている。専任教員については前期・後期でそれぞれ2回ずつの参観をお願いしているが、必ずしも全教員が参観をできていないので、参観し報告書を提出してもらうように促したい。

FD・SD 推進委員会については、小委員会を定期的を開催することを昨年度課題としたが、平成 24 年度は第三者評価報告書の提出と訪問調査の年ということもあり、今年度も定期的な開催ができなかった。来年度こそは他の委員会と調整しながら効率的に委員会運営ができるようにしたい。

X I 事務組織

1 業務分掌

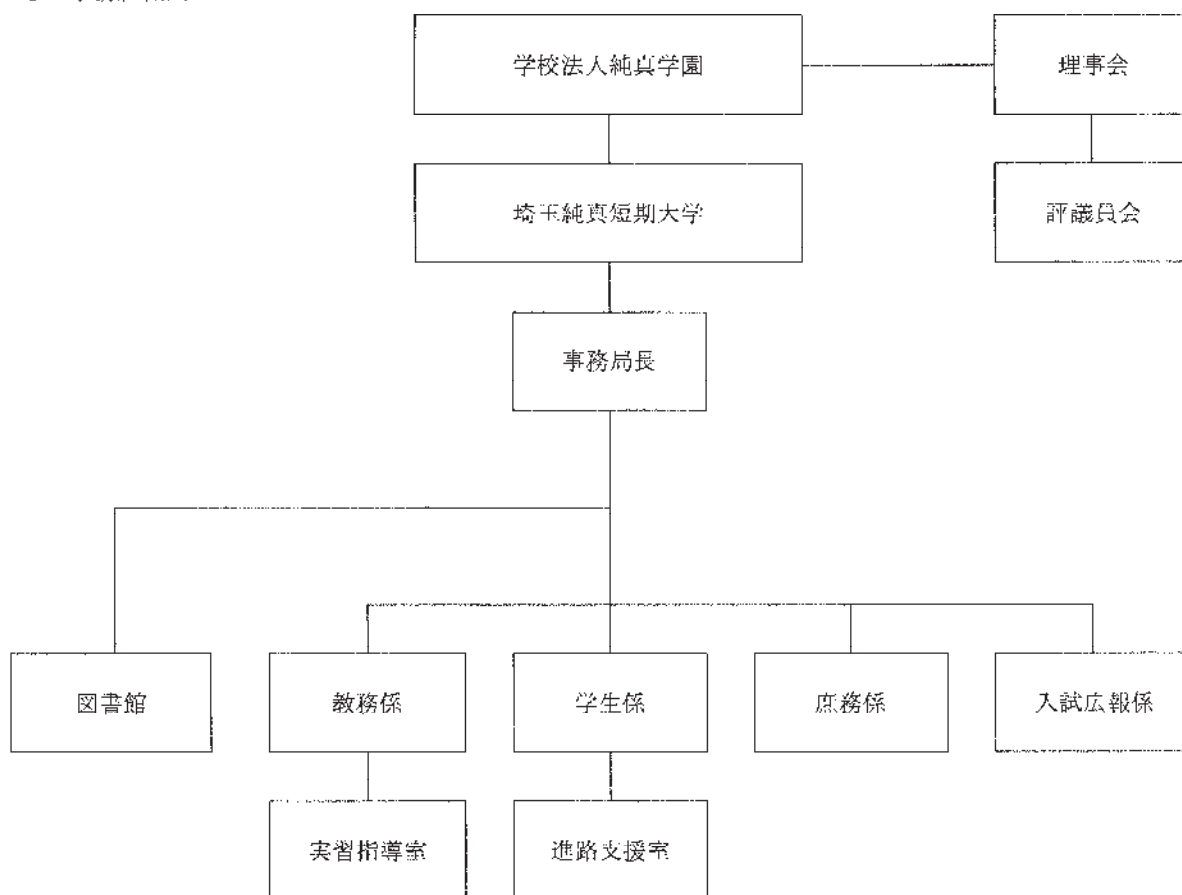
(1) 事務組織の業務分掌

本学は、法人本部所在地（福岡県）から遠く離れており、法人本部の運営方針が本学の地域性に合致しない場合も多いため、開学から独自の学校運営により、自らのスクールアイデンティティーを創造すべく、法人分離独立の型のスタイルで運営している。

法人本部組織は、法人事務局の下に、総務課（総務係・人事係・厚生係）及び財務課（経理係・管財係）を置き、法人組織の充実を図っている。本学の事務組織は、教務係・学生係・庶務係・入試広報係で構成されている。また、図書館司書は事務組織に含まれ、さらに、教務係には、学生の実習を支援する実習指導員を配置している。

なお、人事労務、管財関係の業務は事務局長直轄として、庶務係が担当している。

○ 事務組織図



(2) 事務分掌

本学事務職員の構成は、専任職員 11 名で、主要業務は以下のとおりである。

○ 主要業務一覧

部署名	業務内容
教務係	<ul style="list-style-type: none"> ・学務関連 <ul style="list-style-type: none"> 学籍原簿の保守管理・入学・退学・復学・卒業等の学籍関係・学科課程の編成 免許状・資格申請全般 等 ・教務関連 <ul style="list-style-type: none"> 時間割作成及び教室配当・科目履修登録及び試験実施に伴う成績管理 各種証明書作成と発行 等 ・実習関連 <ul style="list-style-type: none"> 実習事前指導・学生相談窓口・実習先手配・実習関係書類管理 等
学生係	<ul style="list-style-type: none"> ・学生関係 <ul style="list-style-type: none"> 生活指導・課外活動の助言・指導及び課外活動に関する諸手続き 証明書類（学生証・学割・健康診断書）の受付および発行・学生調書の保管・管理 等 ・厚生関係 <ul style="list-style-type: none"> ロッカー・シューズボックスの保守管理・学生専用アパートの案内 奨学金、および傷害保険関係の申請手続き・健康管理・健康診断・健康相談 保健室の管理（救急医薬品の管理）・通学路の安全確保 学内駐車場・学外駐輪場管理維持運営 等 ・就職関係 <ul style="list-style-type: none"> 求人紹介・求職申し込み受付・就職指導・推薦書・人物調書等の発行 等
庶務係	<ul style="list-style-type: none"> ・経理関係 <ul style="list-style-type: none"> 納付金（授業料等）及び追再試験料の収納・学内出納業務全般・伝票管理 等 ・管財関係 <ul style="list-style-type: none"> 校舎・施設・設備管理維持・備品・消耗品購入等 ・庶務関係 <ul style="list-style-type: none"> 郵便物の授受・来客・電話応対・在学証明書発行・拾得物・紛失物預かり 等 ・人事・労務関係 <ul style="list-style-type: none"> 勤怠管理 等
入試広報係	<ul style="list-style-type: none"> ・広報関係 <ul style="list-style-type: none"> 学生募集に関する広報・広告媒体の策定・高校訪問、進学ガイダンス活動 資料請求者・入学希望者へ対応・オープンキャンパス実施・運営 等 ・入試関係 <ul style="list-style-type: none"> 入学試験の実施・運営・入試問題の保管 等

2 成果と課題（点検・評価）

本学の事務組織は、上記の業務（図書館を含む）を事務局長以下 11 名の職員で担当している。年度中の体制に大きな変化は無いが、一部入替えを機に各部署業務の効率見直しを進めていく必要がある。

但し、業務や人員の効率化を追求するあまり、学生へのサービス低下があつては本末転倒であり、学生の満足度を向上させるための職員の意識改革も合わせて進めたい。

X II 財政

1 財政の状況

(1) 消費収支決算の状況

平成 24 年度の帰属収入は、3 億 4,736 万円と前年に比べ 4,772 万円の増加となった。学生数の増加とそれに伴う私立大学等経常費補助金の増加が大きく寄与した。

一方消費支出は、3 億 80 万円(前年度比 13.5%増)で 3,599 万円の増加となり、差引 2,215 万円の収入超過となった。

① 消費収入

(a) 学生生徒等納付金

学生生徒等納付金は、学生数の伸長により 2,421 万円の増加となった。

(b) 手数料

手数料の大部分は入学検定料だが、昨年度に比べ受験者が大きく増加したことにより、約 46%増加した。

平成 23 年度に入学定員を 150 名から 30 名減員し 120 名としたが、平成 25 年度においては予想を大きく上回る 161 名の入学者が見込まれるため、入学者定員数を 30 名増やし 150 名に戻す計画である。

○ 現員数の推移一覧

(単位:人)

期 日	現員数
平成 23 年 5 月 1 日現在	219
平成 24 年 5 月 1 日現在	243
平成 25 年 5 月 1 日現在	276

(c) 補助金

補助金は日本私立学校振興・共済事業団から交付される私学助成金が主なものである。平成 24 年度については、前年度比 132.5%となっている。また帰属収入に占める割合は 15.8%であり、昨年度に比べると 2.0%上がっている。

(d) 資産運用収入

資産運用収入は、学生から徴収する学内の駐車場利用料が主なものである。

(e) 事業収入・雑収入

その他の雑収入に約 818 万円計上しているが、退職給与引当金戻入額が 336 万円、私立大学退職金財団交付金収入が 298 万円、自動販売機の手数料収入、コピー代等が 183 万円となっている。

○ 平成 24 年度資金収支計算書（平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日）

(単位：円)

取 入 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	272,080,000	272,150,000	△70,000
授業料収入	159,460,000	159,460,000	0
入学金収入	36,000,000	36,000,000	0
実験実習料収入	14,260,000	14,330,000	△70,000
施設費収入	57,120,000	57,120,000	0
図書費収入	4,760,000	4,760,000	0
保健衛生費	480,000	480,000	0
手数料収入	5,875,000	5,916,100	△41,100
入学検定料収入	5,430,000	5,415,000	15,000
試験料収入	135,000	178,500	△43,500
証明手数料収入	310,000	322,600	△12,600
補助金収入	47,387,000	54,892,000	△7,505,000
国庫補助金収入	47,387,000	54,892,000	△7,505,000
資産運用収入	622,000	631,636	△9,636
受取利息・配当金収入	2,000	2,236	△236
施設設備利用料収入	620,000	629,400	△9,400
資産売却収入	0	20,000	△20,000
卓車売却収入	0	20,000	△20,000
事業収入	5,500,000	5,481,881	18,119
補助活動収入	5,500,000	5,481,881	18,119
雑収入	4,657,000	4,819,270	△162,270
私立大学退職金財団交付金収入	2,982,000	2,982,300	△300
その他の雑収入	1,675,000	1,836,970	△161,970
前受金収入	130,680,000	120,202,000	10,478,000
授業料前受金収入	55,275,000	53,935,000	1,340,000
入学金前受金収入	49,500,000	40,800,000	8,700,000
実験実習料前受金収入	4,125,000	4,025,000	100,000
施設費前受金収入	19,800,000	19,320,000	480,000

X II 財政

保健衛生費前受金収入	330,000	322,000	8,000
図書費前受金収入	1,650,000	1,610,000	40,000
その他前受金収入	0	190,000	△190,000
その他の収入	55,565,000	56,640,518	△1,075,518
前期末短期末収入金収入	784,000	783,745	255
預り金受入収入	28,895,000	29,208,551	△313,551
差入保証金収入	11,000	30,680	△19,680
仮払金収入	10,850,000	11,696,082	△846,082
立替金収入	3,000	2,460	540
仮受金受入収入	10,714,000	10,545,000	169,000
代理会計預り金受入収入	4,308,000	4,374,000	△66,000
資金収入調整勘定	△89,202,000	△90,394,195	1,192,195
期末未収入金	△2,348,000	△3,540,195	1,192,195
前期末前受金	△86,854,000	△86,854,000	0
前年度繰越支払資金	489,363,000	489,363,079	△79
収入の部合計	922,527,000	919,722,289	2,804,711

支 出 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	155,397,000	157,719,231	△2,322,231
教員人件費支出	103,930,000	104,915,846	△985,846
職員人件費支出	50,911,000	52,247,385	△1,336,385
退職金支出	556,000	556,000	0
教育研究経費支出	65,766,000	70,058,674	△4,292,674
消耗品費支出	5,913,000	8,081,329	△2,168,329
光熱水費支出	7,545,000	7,647,310	△102,310
旅費交通費支出	3,594,000	2,809,127	784,873
奨学費支出	6,999,000	6,999,000	0
渉外費支出	1,421,000	1,207,509	213,491
通信費支出	1,700,000	1,662,507	37,493
購読料支出	1,655,000	1,396,149	258,851
印刷製本費支出	3,449,000	3,617,880	△168,880
修繕費支出	7,130,000	10,228,522	△3,098,522
保険料支出	840,000	885,876	△45,876
賃借料支出	700,000	797,210	△97,210
公租公課支出	80,000	131,100	△51,100

X II 財政

負担金支出	2,873,000	2,574,629	298,371
支払手数料支出	17,995,000	18,196,668	△201,668
学校行事費支出	1,861,000	1,941,900	△80,900
厚生補導費支出	923,000	921,223	1,777
図書研究費	1,078,000	960,705	117,295
雑支出	10,000	30	9,970
管理経費支出	40,592,000	39,205,386	1,386,614
消耗品費支出	2,126,000	2,000,168	125,832
光熱水費支出	465,000	408,556	56,444
旅費交通費支出	1,408,000	1,461,051	△53,051
渉外費支出	240,000	134,714	105,286
通信費支出	380,000	362,257	17,743
購読料費支出	15,000	15,000	0
印刷製本費支出	350,000	447,282	△97,282
修繕費支出	607,000	660,875	△53,875
保険料支出	300,000	240,968	59,032
賃借料支出	1,371,000	1,370,880	120
公租公課支出	37,000	37,000	0
負担金支出	516,000	499,376	16,624
支払手数料支出	5,614,000	5,533,898	80,102
福利費支出	923,000	987,039	△64,039
広報費支出	21,475,000	20,350,051	1,124,949
私立大学等経常費補助金返還金	65,000	65,000	0
補助活動仕入支出	4,700,000	4,631,271	68,729
施設関係支出	26,198,000	24,313,017	1,884,983
建物支出	18,967,000	12,843,650	6,123,350
構築物支出	7,231,000	11,469,367	△4,238,367
設備関係支出	25,098,000	26,626,033	△1,528,033
教育研究用機器備品支出	1,797,000	3,849,340	△2,052,340
その他の機器備品支出	523,000	0	523,000
図書支出	3,000,000	2,999,883	117
車輛支出	19,767,000	19,766,320	680
差入保証金支出	11,000	10,490	510
その他の支出	78,743,000	75,169,338	3,573,662
前期末未払金支払支出	21,114,000	21,113,487	513
預り金支払支出	28,895,000	27,836,705	1,058,295

前払金支払支出	3,250,000	980,347	2,269,653
立替金支払支出	3,000	2,460	540
仮払金支払支出	10,850,000	11,531,302	△681,302
仮受金支払支出	10,714,000	10,545,000	169,000
代理会計預り金支払支出	3,917,000	3,160,037	756,963
資金支出調整勘定	△39,851,000	△42,965,888	3,114,888
期末未払金	△36,186,000	△39,301,605	3,115,605
前期末前払金	△3,665,000	△3,664,283	△717
次年度繰越支払資金	570,584,000	552,701,742	17,882,258
支出の部合計	922,527,000	902,827,533	19,699,467

※学園全体の資金管理上、繰越支払資金は年度末の差異により、収入の部と支出の部の合計は一致していない。

② 消費支出

(a) 人件費

人件費は、前年度比 109.9%と増加した。これは学生食堂の直営方式に変更したことによる雇用職員の増加や兼務教員人件費の増加が主な要因である。帰属収入に占める割合は 45.4%となり、昨年度に比べると 2.5%減少しているが、学生生徒等納付金収入、国庫補助金収入の増加が大きな要因である。

(b) 教育研究経費

教育研究経費比率は前年度とほぼ同じ 27.7%であった。教育研究経費合計額は前年度比 116.3%の増加であったが、帰属収入の伸びで比率は変わらなかった。

(c) 管理経費

管理経費は前年と比べ約 718 万円増加し、4,578 万円となった。帰属収入に占める割合は 13.1%で前年度とほぼ変わらなかったが、学生食堂を委託形式から直営形式に変更したことによる食材仕入代や食器等の支出が増えたことが大きな要因だが、入学者の増加や学生満足度の向上という観点から大きな効果があった。

○ 平成 24 年度消費収支計算書（平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日）

（単位：円）

消費収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	272,080,000	272,150,000	△70,000
授業料	159,460,000	159,460,000	0
入学金	36,000,000	36,000,000	0
実験実習料	14,260,000	14,330,000	△70,000

X II 財政

施設費	57,120,000	57,120,000	0
図書費	4,760,000	4,760,000	0
保健衛生費	480,000	480,000	0
手数料	5,875,000	5,916,100	△41,100
入学検定料	5,430,000	5,415,000	15,000
試験料	135,000	178,500	△43,500
証明手数料	310,000	322,600	△12,600
寄付金	0	94,500	△94,500
現物寄付金	0	94,500	△94,500
補助金	47,387,000	54,892,000	△7,505,000
国庫補助金	47,387,000	54,892,000	△7,505,000
資産運用収入	622,000	631,636	△9,636
受取利息・配当金	2,000	2,236	△236
施設設備利用料	620,000	629,400	△9,400
資産売却差額	0	19,999	△19,999
固定資産売却差額	0	19,999	△19,999
事業収入	5,500,000	5,481,881	18,119
補助活動収入	5,500,000	5,481,881	18,119
雑収入	8,569,000	8,182,599	386,401
私立大学退職金財団交付金収入	2,982,000	2,982,300	△300
退職給与引当金戻入額	3,912,000	3,362,979	549,021
その他の雑収入	1,675,000	1,837,320	△162,320
帰属収入合計	340,033,000	347,368,715	△7,335,715
基本金組入額合計	△30,743,000	△24,401,259	△6,341,741
消費収入の部合計	309,290,000	322,967,456	△13,677,456

消費支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	155,397,000	157,719,231	△2,322,231
教員人件費	103,930,000	104,915,846	△985,846
職員人件費	50,911,000	52,247,385	△1,336,385
退職金	556,000	556,000	0
教育研究経費	92,674,000	96,250,819	△3,576,819
消耗品費	5,913,000	8,175,829	△2,262,829
光熱水費	7,545,000	7,647,310	△102,310
旅費交通費	3,594,000	2,809,127	784,873

X II 財政

奨学金	6,999,000	6,999,000	0
渉外費	1,421,000	1,207,509	213,491
通信費	1,700,000	1,662,507	37,493
購読料	1,655,000	1,396,149	258,851
印刷製本費	3,449,000	3,617,880	△168,880
修繕費	7,130,000	10,228,522	△3,098,522
保険料	840,000	885,876	△45,876
賃借料	700,000	797,210	△97,210
公租公課	80,000	131,100	△51,100
負担金	2,873,000	2,574,629	298,371
支払手数料	17,995,000	18,196,668	△201,668
学校行事費	1,861,000	1,941,900	△80,900
厚生補導費	923,000	921,223	1,777
図書研究費	1,078,000	960,705	117,295
雑費	10,000	30	9,970
減価償却額	26,908,000	26,097,645	810,355
管理経費	47,151,000	45,775,161	1,375,839
消耗品費	2,126,000	2,000,168	125,832
光熱水費	465,000	408,556	56,444
旅費交通費	1,408,000	1,461,051	△53,051
渉外費	240,000	134,714	105,286
通信費	380,000	362,257	17,743
購読料	15,000	15,000	0
印刷製本費	350,000	447,282	△97,282
修繕費	607,000	660,875	△53,875
保険料	300,000	240,968	59,032
賃借料	1,371,000	1,370,880	120
公租公課	37,000	37,000	0
負担金	516,000	499,376	16,624
支払手数料	5,614,000	5,533,898	80,102
福利費	923,000	987,039	△64,039
広報費	21,475,000	20,350,051	1,124,949
私立大学等経常費補助金返還金	65,000	65,000	0
補助活動収入原価	4,700,000	4,631,271	68,729
雑費	0	480	△480
減価償却額	6,559,000	6,569,295	△10,295

徴収不能額	982,000	1,072,000	△90,000
徴収不能額	982,000	1,072,000	△90,000
消費支出の部合計	296,204,000	300,817,211	△4,613,211
当年度消費収入超過額	13,086,000	22,150,245	
前年度繰越消費収入超過額	1,221,230,000	1,222,188,002	
翌年度繰越消費収入超過額	1,234,316,000	1,244,338,247	

(2) 貸借対照表の現状

平成24年度末の資産総額は32億9,690万円で、うち固定資産が10億1,610万円、流動資産が22億8,080万円（※うち17億2,315万円は学校法人部門に対する内部勘定）となっている。負債総額は2億6,795万円で、うち固定負債が1億29万円、流動負債が1億6,766万円となっている。また、基本金は前年度比2,440万円増の17億8,461万円となった。

○ 平成24年度貸借対照表（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

（単位：円）

資 産 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定資産	1,016,104,745	997,863,796	18,240,949
有形固定資産	1,015,279,806	997,018,187	18,261,619
土地	423,208,000	423,208,000	0
建物	533,907,490	544,305,779	△10,398,289
構築物	14,384,468	3,922,605	10,461,863
教育研究用機器備品	10,315,927	7,958,465	2,357,462
その他の機器備品	4,282,618	5,284,206	△1,001,588
図書	12,991,125	12,250,425	740,700
車輛	16,190,178	88,707	16,101,471
その他の固定資産	824,939	845,609	△20,670
電話加入権	641,927	641,927	0
施設利用権	2	2	0
差入保証金	183,010	203,680	△20,670
流動資産	2,280,797,223	2,201,727,720	79,069,503
現金預金	552,701,742	489,363,079	63,338,663
未収入金	2,468,195	783,745	1,684,450
貯蔵品	146,420	157,850	△11,430

ⅩⅡ 財政

仮払金	0	153,000	△153,000
前払金	2,325,277	5,009,213	△2,683,936
その他資産※	1,723,155,589	1,706,260,833	16,894,756
資 産 の 部 合 計	3,296,901,968	3,199,591,516	97,310,452

負 債 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定負債	100,292,626	103,655,605	△3,362,979
退職給与引当金	100,292,626	103,655,605	△3,362,979
流動負債	167,659,533	113,537,606	54,121,927
未払金	39,301,605	21,113,487	18,188,118
前受金	120,202,000	86,854,000	33,348,000
預り金	3,045,611	1,673,765	1,371,846
代理会計預り金	5,110,317	3,896,354	1,213,963
負 債 の 部 合 計	267,952,159	217,193,211	50,758,948

基 本 金 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
第1号基本金	1,744,611,562	1,720,210,303	24,401,259
第4号基本金	40,000,000	40,000,000	0
基 本 金 の 部 合 計	1,784,611,562	1,760,210,303	24,401,259
翌年度繰越 消費収入超過額	1,244,338,247	1,222,188,002	22,150,245
消費収支差額の部合計	1,244,338,247	1,222,188,002	22,150,245
負債の部、基本金の部 および 消費収支差額の部 合計	3,296,901,968	3,199,591,516	97,310,452

※流動資産の「その他資産」は学校法人部門に対する内部勘定である。なおこの数値は(3)に示す財務比率の算出には入れていない。

(3) 財務比率

ここには本学の貸借対照表と消費収支計算書関係の主要財務比率を示す。

○ 財務比率(平成20年度～平成24年度)

財 務 比 率		平 成 20 度	平 成 21 年度	平 成 22 年度	平 成 23 年度	平 成 24 年度
貸 借 対 照 表	固 定 比 率	34.2%	33.9%	34.1%	33.5%	33.5%
	固 定 長 期 適 合 率	32.8%	32.5%	32.8%	32.3%	32.4%

	流動比率	1095.3%	542.8%	407.0%	436.4%	332.6%
消費収支計算書	人件費比率	46.8%	69.9%	62.0%	47.9%	45.4%
	消費支出比率	90.5%	123.6%	107.4%	88.4%	86.6%
	消費収支比率	92.1%	123.6%	120.6%	89.6%	93.1%

※ 自己資金 = 基本金 + 消費収支差額 1,784,611,562+1,244,338,247=3,028,949,809

① 固定比率（固定資産／自己資金×100）

総資産のうち固定資産の比率が目立って高いのが学校法人の特徴である。この比率は固定資産がどの程度自己資金(純資産)で賄われているかをみる指標であるが、本学では平成20年度から平成24年度にかけての5年間、100%以下で推移しており、学校の施設設備は借入金によることなく自己資金で賄われていて健全であると言える。

② 固定長期適合率<固定資産／(自己資金+固定負債)×100>

固定長期適合率の5年間の推移をみると100%以下を維持しており、固定資産を取得するためには短期の他人資金すなわち流動負債に依存することなく、自己資金のほかに短期的に返済を迫られない固定負債で賄うべきであるという原則には適合した財政状態であると言える。

③ 流動比率（流動資産／流動負債×100）

流動比率は1年以内に償還又は支払わなければならない流動負債に対して、現預金又は1年以内に現金化が可能な流動資産がどの程度用意されているかという、短期的な支払能力を判断する重要な指標であるが、本学は平成20年度以降平成24年度まで、優良で信用度が高いとされる流動比率200%以上を維持しており、また流動負債の中には弁済の対照となる外部負債とは性質を異にしている授業料などの前受金が約71.7%含まれていることから、問題はないと言える。

④ 人件費比率（人件費／帰属収入×100）

人件費問題は学校財務の中で最も大きな比重を占めている。他の消費支出科目をまとめても、その金額は人件費には及ばず、しかも、消費支出の膨張の原因になっている。私立学校振興・共済事業団の実数分析では、同規模の短大法人が約80.0%となっており、同規模短大の平均値からすると、本学は45.4%と低くなっている。人件費の伸びに比べ帰属収入の伸びが大きかったことから前年度をさらに下回る結果となったが、適正な人件費を考慮しながら今後の人事政策を進めていくことが重要である。

⑤ 消費支出比率（消費支出／帰属収入）

消費支出比率は、過去5年間に100%を境に上下しており、この数値を超えると過去の蓄

積である純財産を食いつぶしている状態を示すことになる。このことから 100%が名目的な水準維持の尺度となるが、貨幣価値の下落と物価の上昇などを予想して、比率はある程度のゆとりを持たせて、物価の上昇などに対応できる財務体質を養っていくことが必要とされている。

⑥ 消費収支比率（消費支出／消費収入）

平成 24 年度は 93.1%と前年度の 89.6%に引き続き 100%を下回り、収入超過となった。

2 成果と課題（点検・評価）

平成 23 年度に続き東屋の建築など設備投資をはじめスクールバスの運行や学生食堂のカフェテリア方式への転換などに資金を投じ、受験生に快適な学生生活をアピールできるように施設・設備の拡充を実施した。その効果は平成 25 年度の入学予定者が定員を大きく上回る 161 名となったことから明らかである。

しかしながら、施設設備の老朽化はあらゆるところに顕在化してきており、平成 25 年度も引き続き計画的な更新を図っていく必要がある。学生の動線から離れたところに位置している事務室機能の移転や図書館の在り方等について今後計画しており、さらなる学生生活の満足度向上を教職員一丸となって進めていく予定である。

XⅢ 同窓会（秋桜会）

1 活動状況

(1) 役員組織

本学では、卒業生、教職員及び元教職員を会員とし、会員相互の親睦及び修養を図り、兼ねて母校の隆昌を図ることを目的として、「秋桜会」という同窓会を組織している。

役員組織は以下のとおりである。

○ 同窓会役員一覧

役職名	役員名（回生・卒業学科）
名誉会長	藤田 利久（学長）
会 長	小林 ひかり（8回生・児童教育学科）
副会長	秋山 知世（2回生・英語学科）
	戸張 歩美（26回生・こども学科乳幼児保育コース）
会 計	矢島 愛子（7回生・幼児教育学科第二部）
	金谷 佳代（13回生・英語学科）
書 記	野中 美希（26回生・こども学科乳幼児保育コース）
	岩崎 香織（27回生・こども学科乳幼児保育コース）
会計監査	岡本 千里（7回生・英語学科）
	新井 幸子（12回生・英語学科）
幹 事	各卒業学年より1名以上が担当する。
相談役	高橋 努（学生部長）

(2) 活動状況

本学の同窓会は、1回生が卒業した後、昭和60年11月10日に設立し、今日に至る。

主な活動として、年1回の総会、年4回程度の役員会、会報「秋桜だより」の発行、在学生への支援活動を行っている。活動費は、卒業生から徴収した同窓会費より支出されている。

○ 同窓会の活動状況（平成24年度）

日 程	内 容
平成24年5月27日 第1回役員会	・自己紹介 ・総会について ・次回役員について ・秋桜会用のパソコン、プリンター
9月2日 第2回役員会	・総会について ・新役員決めについて ・役員会返信はがきについて ・終身会費について

XIII 同窓会（秋桜会）

10月14日 総会	・開会の辞 ・会長挨拶 ・定数確認 ・議案審議（平成23年度会務報告、決算報告、監査報告、平成24年度会務計画案、予算案） ・新役員挨拶 ・閉式の辞
11月25日 第3回役員会	・総会の反省 ・秋桜だよりについて ・その他
平成25年1月20日 第4回役員会	・終身会費について ・卒業記念品について ・新役員について

2 成果と課題（点検・評価）

同窓会の活動は、多くの卒業生の中でも、会長をはじめとした役員を中心としておこなわれている。卒業生のために設立された同窓会ではあるが、そのあり方が十分認知されておらず、なかなか発展していかない現状である。近年は、同窓会長が、入学式や卒業式に列席し、同窓会の存在をアピールしている。

昨年度は純真祭とともに開催している総会で、小児科医の先生をお招きし講演会を行った。

今後も、卒業生、在校生、地域の方々に参加していただける講演会等も交え、たくさんの卒業生に参加してもらえる総会を目指し同窓会として、更なる努力が必要であろう。

執筆者一覧 (50 音順)

専任教員

浅井 広 ・ 安倍 大輔 ・ 阿部 峰雄 ・ 伊藤 道雄 ・ 稲垣 馨 ・
入江 良英 ・ 牛込 彰彦 ・ 小澤 和恵 ・ 齋藤 史夫 ・ 高橋 努 ・
藤田 利久 ・ 細田 香織 ・ 安村 由希子

事務職員

内田 和泉 ・ 大澤 尚子 ・ 大山 富一 ・ 奥貫 慶一郎 ・ 片山 美冴 ・
佐藤 猛 ・ 相馬 萌 ・ 田中 淳一 ・ 中村 周 ・ 林 真麻 ・
松原 みゆき ・ 宮本 明子 ・ 矢内 美優

法人事務局

池田 博文 ・ 吉田 忠幸

平成 24 年度 自己点検・評価委員会

藤田 利久	教授（自己点検・評価委員長，学長）
安倍 大輔	講師（自己点検・評価副委員長，進路支援部長，FD・SD 推進委員長）
大山 富一	事務局長
牛込 彰彦	教授（図書館長，実習指導部長）
小澤 和恵	教授（教務部長，人試広報部長）
高橋 努	講師（学生部長）
稲垣 馨	講師（FD・SD 推進委員）
齋藤 史夫	講師（FD・SD 推進委員）
佐藤 猛	シニアアドバイザー
中村 周	図書館・情報係長

平成 24 年度 自己点検・評価報告書

発行日 平成 25 年 11 月 30 日

編集 埼玉純真短期大学 自己点検・評価委員会

印刷 SP 関根印刷所

発行 埼玉純真短期大学

〒348-0045 埼玉県羽生市下岩瀬 430 番地

TEL.048-562-0711 (代)・FAX.048-562-0715



埼玉純真短期大学